



# VALUE STAR パソコンから知らず知らずのうちに

オプション周辺機器の取り付けに挑戦！  
機能や設定など、もっと知りたいあなたに！  
パソコン各部の名前や仕様一覧も収録！

# マニュアルを

## 使いこなす

各マニュアルの主な内容は表紙に書いてあります。

添付の「安全にお使いいただくために」は常に手元に置き、各マニュアルと合わせて必ずお読みください。

1  
まずこれ!



2

準備ができたなら

パソコン学習ソフト  
「パソコンのいろは」



3



電子マニュアル  
「サポートセンタ」



## やりたいこと別マニュアルガイド

- パソコンの接続とセットアップをしたい ..... はじめにお読みください
- CD-ROM、DVD-ROM を使いたい ..... はじめにお読みください
- フロッピーディスクを使いたい ..... はじめにお読みください
- マウスの使い方を知りたい ..... パソコンのいろは、使っておぼえるパソコンの基本
- キーボードで文字を打ってみたい ..... パソコンのいろは、使っておぼえるパソコンの基本
- インターネットや電子メールを利用したい ..... 使っておぼえるパソコンの基本、サポートセンタ
- ワープロを使いたい ..... 使っておぼえるパソコンの基本
- バックアップを取りたい ..... 使っておぼえるパソコンの基本、困ったときの Q&A、サポートセンタ
- CD-R/RW ドライブを使って、CD-R/RW メディアに書き込みたい ..... もっと知りたいパソコン
- プリンタやオプション機器を取り付けたい ..... もっと知りたいパソコン
- このパソコンの機能について詳しく知りたい ..... もっと知りたいパソコン、サポートセンタ
- 再セットアップしたい ..... 困ったときの Q&A
- パソコンが思うように動かない ..... 困ったときの Q&A、サポートセンタ
- どんなアプリケーションが入っているか知りたい ..... サポートセンタ
- アプリケーションを追加したい、削除したい ..... サポートセンタ
- 年賀状やあいさつ状を作りたい ..... サポートセンタ
- パソコン用語の意味を知りたい ..... サポートセンタ

## はじめに

この本には、プリンタなどの周辺機器をパソコンに接続したり、パソコン内部にメモリなどを取り付けたりするときの説明やパソコンの設定を変更したりするとき役立つ情報が載っています。

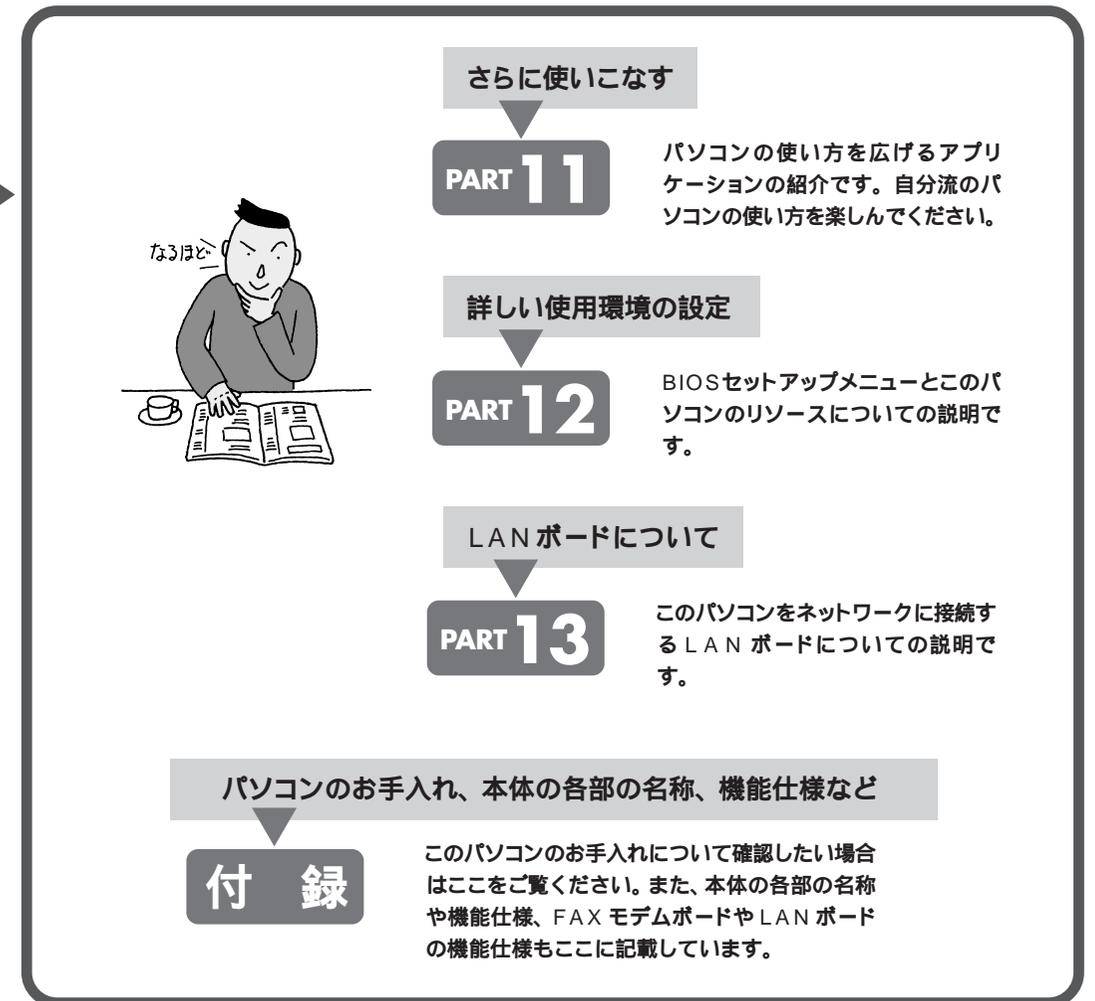
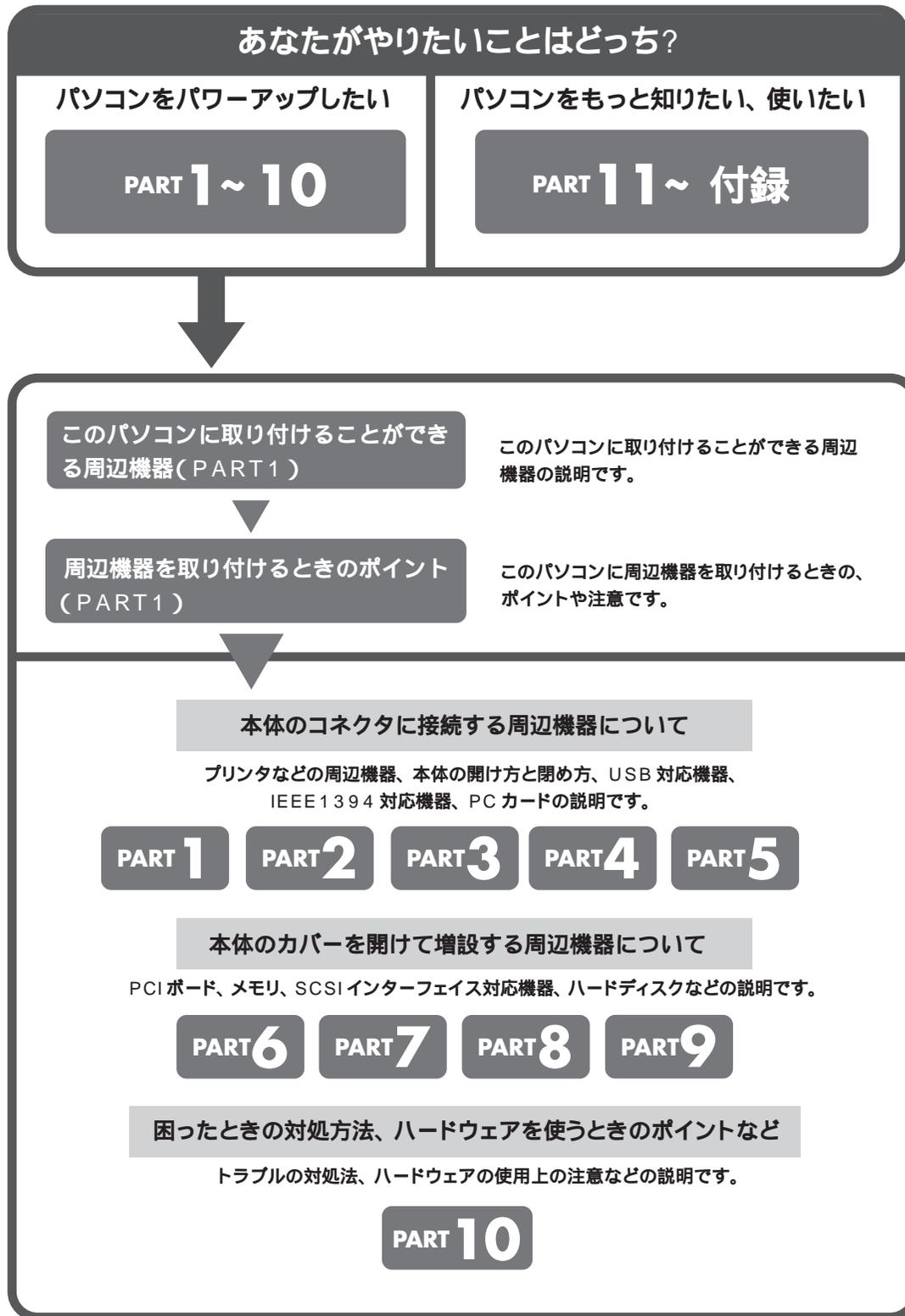
はじめてパソコンを使う方にとっては、他の本に比べると少し難しいかもしれませんが、この本はあなたがもっとパソコンに詳しくなるための道案内をしてくれます。説明をよく読んで、まちがいのないように操作してください。そして、思う存分パソコンを使いこなしてください。

2001年5月 初版

2001年7月 2版

# 『もっと知りたいパソコン』の読み方

この「『もっと知りたいパソコン』の読み方」を参考にして、知りたい情報を探してください。



## このマニュアルの表記について

手順は左、補足説明は右に (PART1 ~ PART9、PART13)

このマニュアルでは、操作手順は順番に画面を示しながら説明しています。実際のパソコンの画面を確かめながら操作を進めてください。パソコンの画面でむやみにマウスを操作すると、思わぬ画面が表示されることがあります。このマニュアルで、どこを操作すればよいのか必ず確認してください。また、ページの右側のグレーの部分には操作に関連する補足説明や用語解説などが記載されています。はじめてパソコンを扱う方は、右側の説明もよく読んでください。

このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています



**警告**

注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



**注意**

注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。



感電注意

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。



電源ケーブルのプラグを抜くように指示するものです。

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります



**チェック!!**

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。



**用語**

パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。



**参照**

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

## このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

【 】	【 】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
プリンタ、コネクタなど	「プリンター」や「コネクター」などの末尾に付く「ー」を省略して表記しています。これは、パソコンの画面に表示される用語や、パソコン関連書籍などでよく使われている表記に準拠しているためです。
CD-ROMドライブ	CD-ROMモデルでは、CD-ROMドライブのことを指します。 DVD-ROMモデルでは、DVD-ROMドライブのことを指します。 CD-R/RWモデルでは、CD-R/RWドライブのことを指します。 CD-R/RW with DVD-ROMモデルでは、CD-R/RW with DVD-ROMドライブのことを指します。
 「添付ソフトの使い方」	「スタート」-「NEC電子マニュアル」-「添付ソフトの使い方」を開き、各ソフトの使い方を参照することを示します。「添付ソフトの使い方」は、「ランチ-NX」から開くこともできます。
 「サポートセンタ」	「サポートセンタ」を起動して、各項目を参照することを示します。「サポートセンタ」は、画面右上の「サポートセンタ」をクリックして起動します。

## このマニュアルでは、各モデル（機種）を次のような呼び方で区別しています

次ページの表をご覧ください。購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

このパソコン	表の各モデル(機種)を指します。
CRTディスプレイセットモデル	CRTディスプレイがセットになっているモデルのことです。
CD-R/RW with DVD-ROMモデル	CD-R/RW with DVD-ROMドライブを搭載しているモデルのことです。
CD-R/RWモデル	CD-R/RWドライブを搭載しているモデルのことです。
DVD-ROMモデル	DVD-ROMドライブを搭載しているモデルのことです。
CD-ROMモデル	CD-ROMドライブを搭載しているモデルのことです。
LANモデル	LANボードを搭載しているモデルのことです。
Office XPモデル	Office XP Personalがあらかじめインストールされているモデルのことです。

型名	型番	表記の区分			
		内蔵CD-R/RW ドライブ・ DVD-ROMドライブ	ディスプレイ	LAN	添付 アプリケーション
VL1000N/87D	PC-VL1000N87D	CD-R/RW with DVD-ROMモデル	CRTディスプレイセット モデル( 17型CRT )	LANモデル	Office XPモデル
VL800R/87D	PC-VL800R87D			-	
VL800R/85D	PC-VL800R85D	CD-R/RWモデル	CRTディスプレイセット モデル( 15型CRT )		
VL800R/85DR	PC-VL800R85DR				

### 本文中の画面、イラスト、ホームページのアドレス

本文中の画面やイラストはモデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。記載しているホームページの内容やアドレスは、本冊子制作時点のものです。

### このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

(本文中の表記)	(正式名称)
Windows、 Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Office XP、 Office XP Personal	Microsoft® Office XP Personal( Microsoft Word、Microsoft Excel、 Microsoft Outlook®、Microsoft Bookshelf® Basic 3.0 )
Microsoft IME 2002	Microsoft® IME 2002
VideoStudio	Ulead VideoStudio Version4.0 SE Basic
Easy CD Creator	Easy CD Creator™ 4 Standard
DirectCD	DirectCD™ 3
NEC PC オーナーズ スケジューラ	NEC PCオーナーズスケジューラ by BIGLOBE スケジューラ

---

## 技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく端末機器の設計についての認証を受けています。申請回線と認証番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

認証機器名：SF-DJP-ST

認証番号

電話回線：A99-0794JP

導入にあたっては、「MDMNDJP.INF」のファイルを含む専用ドライバを必ず使用してください。使用されない場合は、この技術基準を遵守できない場合がありますので、十分にご注意ください。

## 高調波電流規制について

この装置の本体および17型CRTディスプレイは、高調波ガイドライン適合品です。

## 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

## 漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

## 瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

## レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準（JIS・C-6802、IEC825）クラス1適合のCD-ROMドライブまたはDVD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブまたはCD-R/RW with DVD-ROMドライブが搭載されています。

---

## ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBIT-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外 NEC では、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® Millennium Edition および本機に添付のCD-ROMは、本機のみでご使用ください。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

---

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Office ロゴ、Outlook、Bookshelf、および Windows のロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

「i-mode/ アイモード」は NTT ドコモの登録商標です。

携快電話は、ソースネクスト株式会社の登録商標です。

筆王は株式会社アイフォーの登録商標です。

Ulead、VideoStudio は Ulead Systems, Inc. の登録商標です。

Adaptec および Adaptec 社のロゴは、Adaptec, Inc. の登録商標です。

Easy CD Creator、DirectCD は、Adaptec, Inc. の商標です。

AMD、AMD ロゴ、AMD Athlon、AMD Duron、3DNow!、ならびにその組み合わせは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

PS/2 は IBM 社が所有している商標です。

ダイヤモンドトロンは、三菱電機株式会社の登録商標です。

K56flex は、Lucent Technologies と CONEXANT SYSTEMS の商標です。

MNP は、Microcom, Inc. の登録商標です。

Hayes は、米国 Hayes Microcomputer Products の登録商標です。

アクティブメニュー NX、SmartVoice、BIGLOBE、BusBrain、SmartGallery は、日本電気株式会社の登録商標です。

---

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

---

---

© NEC Corporation 2001

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

---

#### 輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

#### Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards. NEC will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan. NEC does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law. Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

---

# 目次

## CONTENTS

### PART

### 1

はじめに .....	i
『もっと知りたいパソコン』の読み方 .....	ii
このマニュアルの表記について .....	iv
<b>このパソコンで使える周辺機器 .....</b>	<b>1</b>
<b>このパソコンに取り付けることができる周辺機器 .....</b>	<b>2</b>
本体前面に取り付けることができる周辺機器 .....	2
本体背面に取り付けることができる周辺機器 .....	3
本体内部に取り付けることができる周辺機器 .....	4
<b>周辺機器を取り付けるときのポイント .....</b>	<b>5</b>
周辺機器選びで失敗しないために .....	5
パソコンの電源を切ってから取り付けよう .....	5
電源を入れたまま取り付けられる周辺機器 .....	6
メモリやPCIボードなどは、本体のカバーを開けて中に取り付ける .....	6
取り付けただけではすぐに使えない周辺機器 .....	6
<b>プリンタ .....</b>	<b>7</b>
プリンタの種類 .....	7
プリンタを使えるようにする .....	8
<b>AV 機器を接続する .....</b>	<b>9</b>
光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子 .....	9
マイクロホン端子 .....	11
音声入力端子 .....	12
音声出力端子 .....	12
<b>ターミナルアダプタ .....</b>	<b>13</b>
ISDN 回線について .....	13
ターミナルアダプタを使う .....	13
<b>デジタルカメラ .....</b>	<b>15</b>
画像データを取り込む .....	15
取り込んだ画像データを活用する .....	17
<b>その他の機器のご紹介 .....</b>	<b>18</b>
外付け用ハードディスク .....	18
MO ディスクドライブ .....	18
PCI ボード .....	19

PART

2

デジタルビデオカメラ ..... 20

**機器を取り付ける前に ..... 21**

接続から準備完了までの流れ ..... 22  
    ドライバなどをインストールする ..... 23  
    周辺機器の取り外しと再接続 ..... 25  
**機器を取り付けるときのご注意 ..... 26**  
**本体の開け方と閉め方 ..... 27**  
    用意するもの ..... 27  
    ルーフカバーの外し方 ..... 27  
    ルーフカバーの取り付け方 ..... 30

PART

3

**USB 対応機器を使う ..... 33**

USB とは ..... 34  
    USB なら簡単接続 ..... 34  
    USB コネクタについて ..... 35  
**USB 対応機器を接続する ..... 36**  
    接続する前に ..... 36  
    USB コネクタにプラグを差し込む ..... 37  
    正しく接続できたかどうか確認する ..... 39  
    USB 対応機器を取り外すときの注意 ..... 39  
    USB ハブを使う ..... 40  
    USB 対応機器を使用するときの注意 ..... 40

PART

4

**IEEE 1394 対応機器を使う ..... 41**

IEEE 1394 について ..... 42  
    IEEE 1394 って何? ..... 42  
**IEEE 1394 対応機器を接続する ..... 43**  
    IEEE 1394 対応機器を取り外すときの注意 ..... 43  
**IEEE 1394 対応機器をスマートに活用する ..... 44**  
    映像を取り込んで編集する ..... 44

PART

5

デジタルビデオ機器を簡易操作する ..... 44  
 デジタルビデオカメラの映像をインターネットで見る ..... 45

PC カードを使う ..... 47

PC カードスロットについて ..... 48  
 PC カードの入れ方と出し方 ..... 49  
   PC カードをセットする前に ..... 49  
   PC カードをセットする ..... 50  
   PC カードを取り出す ..... 52  
   PC カードを使用するときの注意 ..... 54

PART

6

PCI ボードを使う ..... 55

PCI ボードについて ..... 56  
   いろいろな PCI ボード ..... 56  
   PCI スロット ..... 56  
 PCI ボードの取り付けと取り外し ..... 57  
   PCI ボードの取り付け方 ..... 57  
   PCI ボードの取り外し方 ..... 60

PART

7

メモリを増やす ..... 61

メモリを増やすには ..... 62  
   このパソコンで使える増設 RAM サブボード ..... 62  
   メモリの増やし方の例 ..... 63  
 増設 RAM サブボードの取り付けと取り外し ..... 64  
   ボードを取り扱うときに気をつけること ..... 64  
   増設 RAM サブボードの取り付け方 ..... 64  
   RAM サブボードの取り外し方 ..... 66  
 増やしたメモリを確認する ..... 67  
   確認のしかた ..... 67  
   メモリが増えていなかったら ..... 68

**PART**

**8**

**SCSI インターフェイス対応機器を使う ..... 69**

SCSI 機器を使うには .....	70
SCSI インターフェイスについて .....	71
接続できる SCSI 機器 .....	71
SCSI に関する基礎知識 .....	71
SCSI インターフェイスの種類 .....	72
用意するもの .....	73
SCSI インターフェイスボードを取り付ける .....	74
SCSI 機器を接続する .....	75
SCSI 機器がうまく動かないときは .....	76

**PART**

**9**

**ハードディスクを増設する ..... 77**

ハードディスクを増設するには .....	78
用意するもの .....	79
本体にハードディスクを接続する .....	80

**PART**

**10**

**ハードウェアの活用術 ..... 83**

困ったときのチェックポイント .....	84
マウス .....	86
スクロールボタンを使う .....	86
キーボード .....	88
キーの役割 .....	88
キーの名称 .....	88
ワンタッチスタートボタンの名前と役割 .....	90
PC-9800 シリーズのキーボードとのキーの違い .....	91
使用上の注意 .....	91
ハードディスク / フロッピーディスク .....	92
ハードディスクの取り扱い上の注意 .....	92
ハードディスク内のデータのバックアップはこまめにとる .....	92
使用できるフロッピーディスクの種類 .....	92

PART

11

PART

12

省電力機能.....	93
概要.....	93
省電力機能を使う.....	94
省電力の設定を変える.....	96

## さらに広がるパソコンワールド..... 97

携帯電話と連携する.....	98
携帯電話に登録されている情報を編集する.....	98
パソコンで作成したデータをiモード機能のある携帯電話で閲覧する.....	98
インターネットで映像を楽しむ.....	101
いまこの瞬間をインターネットで中継 ~ライブフォト/i~ .....	101
インターネットに映像を公開する ~ビデオ登録君~ .....	101
CD-R や CD-RW にデータを書き込む.....	103
CD-R と CD-RW の特長.....	103
CD-R や CD-RW にデータを書き込むソフトについて.....	103
他の CD-ROM ドライブでメディアを読み込むときの注意.....	104

## 本機の設定を変更する..... 105

BIOS セットアップメニュー.....	106
BIOS セットアップメニューを使ってできること.....	106
BIOS セットアップメニューを使う.....	106
パスワードの解除.....	107
このパソコンが使用しているリソース.....	109
割り込みレベル(IRQ).....	109
DMA チャンネル.....	109

**LAN ボードを使う(LAN モデルのみ) ..... 111**

LAN に接続する .....	112
接続前の確認 .....	112
リンクケーブル(別売)を接続する .....	112
LAN の設定 .....	113
ネットワークのセットアップ(設定).....	113
ネットワーク上で自分のコンピュータを認識させる .....	113
LAN に関するトラブル.....	114

**付 録 ..... 115**

パソコンのお手入れ.....	116
準備するもの .....	116
電源を切って、電源ケーブルを外す .....	116
清掃する .....	117
マウスのクリーニング.....	118
本体の各部の名称 .....	119
機能仕様 .....	123
FAX モデムボード機能仕様 .....	126
LAN ボード機能仕様(LAN モデルのみ).....	128

**索 引 ..... 129**



P A R T

# 1

## このパソコンで使える周辺機器

プリンタやデジタルカメラ、スキャナなどの周辺機器をつなげば、あなたのパソコンライフがますます豊かなものになります。ここでは、このパソコンで使える周辺機器について紹介します。

# このパソコンに取り付けることができる周辺機器

## 本体前面に取り付けることができる周辺機器

周辺機器の取り付けの際は、その周辺機器がこのパソコンで使えるかどうか十分確認してください。  
また、取り付け手順については、周辺機器のマニュアルやこのマニュアルを参考にしてください。

### 光デジタルオーディオ出力端子

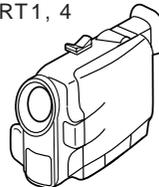
光デジタル対応オーディオ機器  
PART 1



プラグの形状によっては、使用できないものがありますのでご注意ください。

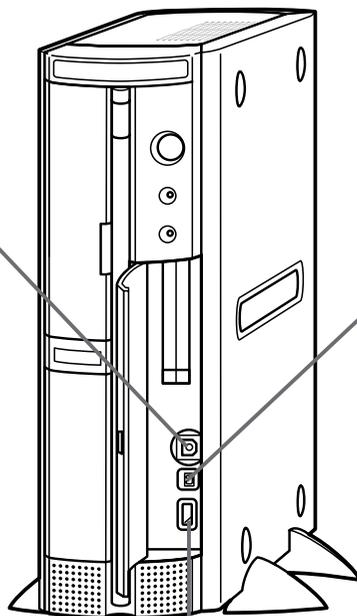
### IEEE1394 コネクタ (4 ピン)

デジタルビデオカメラ  
PART 1, 4



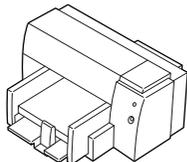
USB コネクタについて  
USB コネクタは本体前面に 1 個、  
本体背面に 2 個、合計 3 個あります。

(カバーを開いたところ)

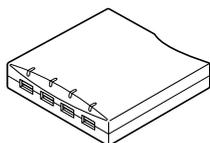


### USB コネクタ

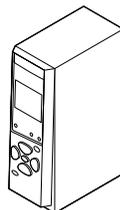
USB 対応プリンタ  
PART 1



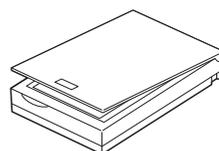
USB ハブ  
PART 3



USB 対応 ISDN ターミナルアダプタ  
PART 1



USB 対応スキャナ

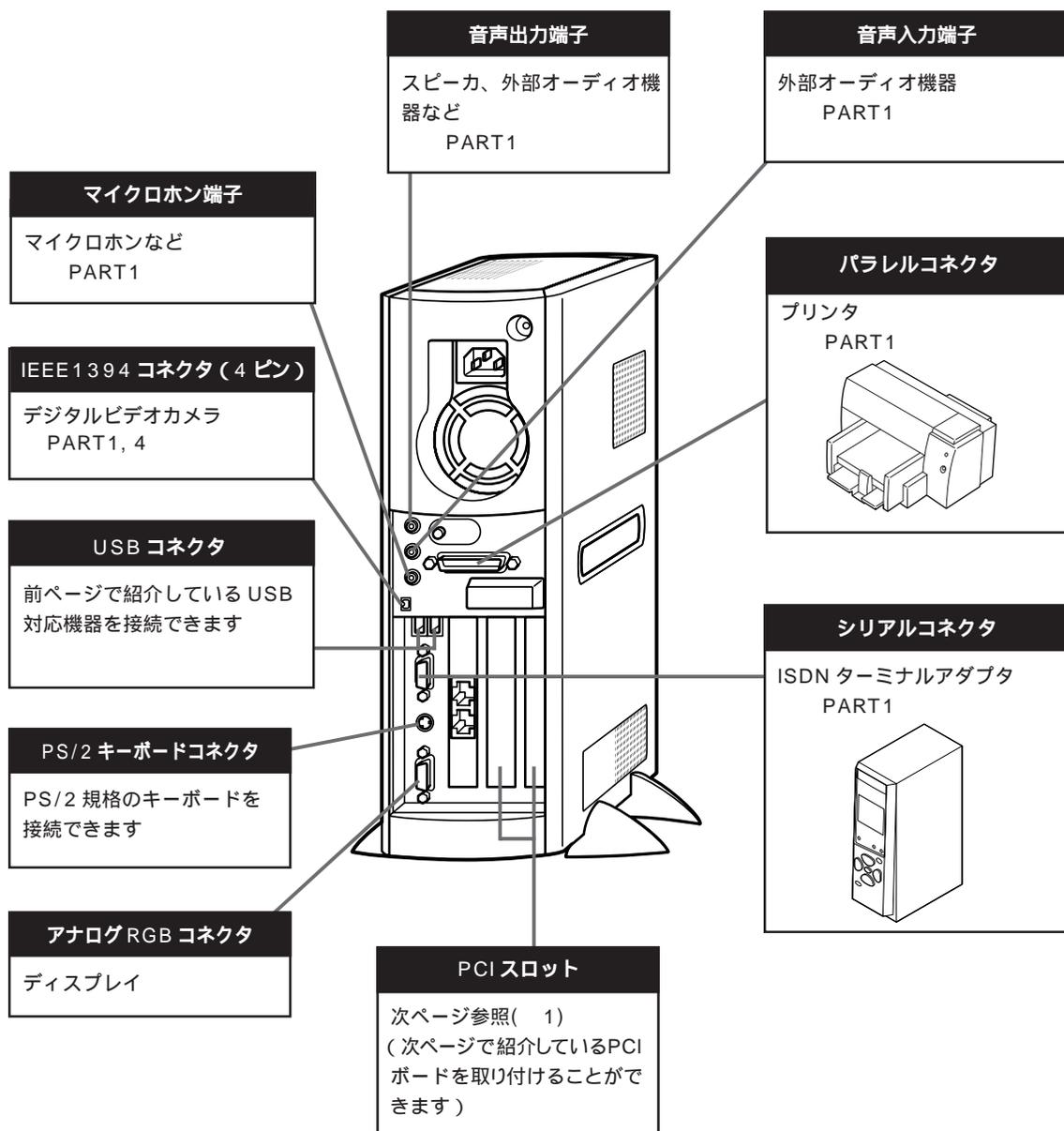


USB 対応デジタルビデオカメラ

その他の USB 対応機器

USB コネクタが不足するときは、別売の USB ハブを使ってコネクタを増やすことができます。

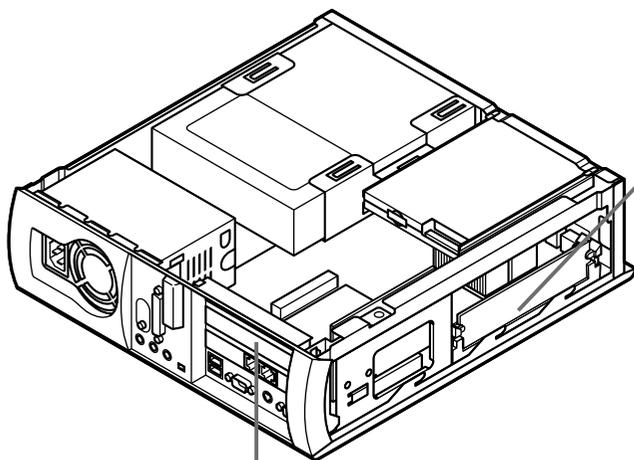
## 本体背面に取り付けることができる周辺機器



1 LAN モデルの場合、左側の PCI スロットは、LAN ボードで占有済みのため、右側の PCI スロットに PCI ボードを 1 枚取り付けることができます。

## 本体内部に取り付けることができる周辺機器

下の図はルーフカバーを外した状態です。



増設 RAM サブボード用コネクタ

増設 RAM サブボード  
PART7

A diagram of a RAM sub-board connector, labeled PART7. It is a long, thin rectangular component with a notch on one end.

PCI スロット

SCSI インターフェイスボード PART8	LAN (ネットワーク) ボード PART1、PART13	その他の PCI 対応ボード PART6
---------------------------	----------------------------------	-------------------------

Three diagrams of PCI boards. The first is a SCSI interface board (PART8), the second is a LAN board (PART1, PART13), and the third is another PCI board (PART6).

SCSI 対応機器 (SCSI インターフェイスボードに接続します)

外付け用ハードディスク	MO ディスクドライブ	その他の SCSI 対応機器
-------------	-------------	----------------

Three diagrams of SCSI devices. The first is an external hard disk, the second is an MO disk drive, and the third is another SCSI device.

## 周辺機器を取り付けるときのポイント

周辺機器にはさまざまな種類があり、接続の規格にもいろいろあります。機器によっては、このパソコンでは使えないものもあります。周辺機器を選ぶときのコツや取り付ける際の注意点を確認しておきましょう。

### 周辺機器選びで失敗しないために

#### 新製品情報をチェック

パソコン雑誌などでは、プリンタやデジタルカメラなど、ジャンル別に周辺機器の新製品を紹介する特集記事が載ることがあります。自分の欲しい製品がないか、チェックしてみましょう。

#### このパソコンで使えることを確認

同じプリンタでも、機種によって接続方法や対応パソコンの種類などが異なり、このパソコンでは使えない場合もあります。せっかく買ってきたのにこのパソコンでは使えなかった、ということにならないように、このパソコンで使えるかどうか、購入前に確認しましょう。

NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」で、このパソコンで使える周辺機器を紹介しています。インターネットに接続できる方は、参考にしてください。

「121ware.com」のアドレス(URL) <http://121ware.com>

NEC製以外の機器については、各メーカーや販売店にお問い合わせください。

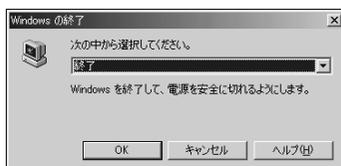
#### 接続の規格に気を付ける

このパソコンにはシリアルコネクタ(RS-232C)、パラレルコネクタ(セントロニクスなどと記載)、USBコネクタ、IEEE1394コネクタ、光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子、PCIスロット、PCカードスロットがあります。周辺機器の中には、同じ種類でも複数の規格に対応しているものがあります。規格には、それぞれ適しているもの、適していないものがありますので、購入するときは、パソコンに詳しい友人やパソコンショップの店員さんなどに相談しましょう。

### パソコンの電源を切ってから取り付けよう

周辺機器を取り付けるときは、原則として、パソコン本体の電源を切り、コンセントから電源ケーブルを抜きます。そうしないと、感電したり、パソコンや周辺機器が故障してしまうかもしれないからです。休止状態(p.93)になると、パソコン本体の電源ランプが消灯し、電源が切れますが、Windowsは終了していません。休止状態から復帰させ、Windowsを終了して電源ケーブルを抜いてから、周辺機器を取り付けてください。

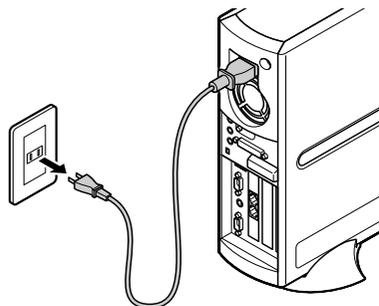
1

**Windowsを終了する**

2

**電源ケーブルを抜く**

3

**取り付け作業を始める**

## 電源を入れたまま取り付けられる周辺機器

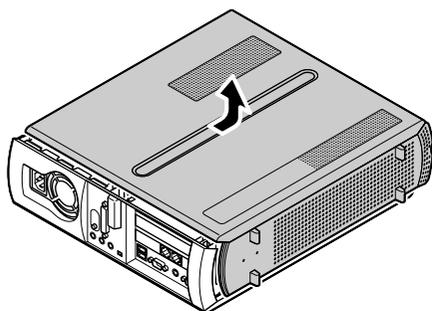
USB対応機器やIEEE1394対応機器、PCカードは、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外したりできます。ふだんは取り外しておいて、必要になったときに接続し、使い終わったらまた取り外す、というような使い方ができます。

## メモリやPCIボードなどは、本体のカバーを開けて中に取り付ける

パソコンの動作を速くするために必要な「増設RAMサブボード」や、SCSI対応機器などを使うために必要な「PCIボード」などは、パソコン本体の中に取り付ける場所があります。これらの機器を取り付けるときは、パソコン本体のカバーを開けることになります。PART2の「本体の開け方と閉め方」をよく読んで、慎重に行ってください。

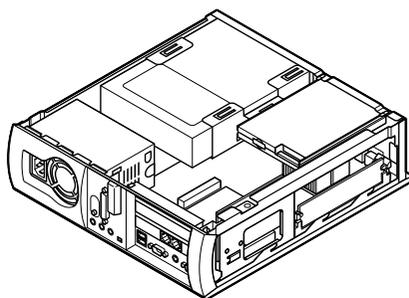
1

パソコン本体のカバーを外してから



2

取り付け作業を始める



☞ 参照 カバーの開け方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

## 取り付けただけではすぐに使えない周辺機器

マイクロホンやオーディオ機器のように、パソコンにケーブルを接続しただけでそのまま使い始められるものもあります。しかし、ほとんどの周辺機器は、取り付けただけでは使えず、取り付け後にパソコン上で設定を行う必要があります。

たとえば、

- ・ USB対応機器やプリンタ、SCSIインターフェイスボードなどを取り付けたら、「ドライバ」という専用のソフトウェアを設定する必要がある(詳しくはPART2を参照)
- ・ ハードディスクを増設したら、そのハードディスクをフォーマットする必要があるものもある(詳しくはハードディスクに添付のマニュアルを参照)
- ・ ターミナルアダプタやスキャナ、プリンタなどを取り付けたら、それらを便利に使うためのアプリケーションやユーティリティが必要になる

詳しくは、このマニュアルの各PARTの説明や、お使いの周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

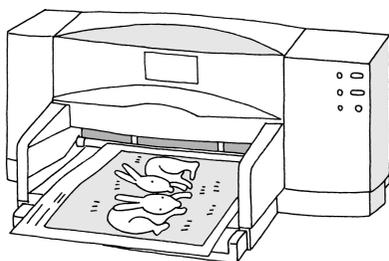
# プリンタ

プリンタは、パソコンで作った文書はもちろん、写真なども印刷できます。プリンタの種類もいろいろあります。ここでは、プリンタの種類と接続の流れを簡単に説明します。

## プリンタの種類

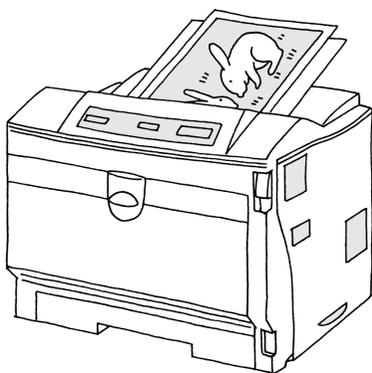
プリンタには次のような種類があります。用途に合ったプリンタを選びましょう。

### インクジェットプリンタ



価格が手ごろなものからあり、個人用としては、もっともポピュラーなタイプです。細かい粒子状にしたインクを紙に吹き付けて印刷します。写真などを美しくカラー印刷できますが、印刷に多少時間のかかるものもあります。

### レーザープリンタ(ページプリンタ)



コピー機と同じようにトナーを紙に焼きつけて印刷するプリンタです。音が静かで、高速に印刷ができます。しかし、カラー印刷ができるものは高価なため、モノクロ印刷のものが主流になっています。

### ドットインパクトプリンタ

紙にインクリボンをあてて、その上からピンを打ち付けて印字する方式です。印字文字が粗く、大きな音をたてますが、カーボン紙などを使った複写式の伝票などを印刷するときにこのタイプを使います。

## プリンタを使えるようにする

プリンタが使えるようになるまでの手順は次のとおりです。  
プリンタは、本体の USB コネクタまたはパラレルコネクタに接続します。

ほとんどの場合、接続した後で、専用のドライバやアプリケーション(プリンタに添付してあるもの)のインストールが必要になります(接続するだけですぐに使えるプリンタもあります)。詳しくはプリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

用語

### ドライバ

情報をパソコンから周辺機器へ適切に伝えるためのソフトウェアです。周辺機器を接続したとき、最初に一度だけ組み込み(インストール)します。

### USB コネクタに接続する場合

用途に合わせてプリンタを選ぶ

接続ケーブルやプリンタの付属品など、必要なものを用意する  
(プリンタ添付のマニュアル参照)

パソコン本体とプリンタの電源を入れてから、パソコン本体の USB コネクタにプリンタを接続する

プリンタ用ドライバ、アプリケーションのインストールをする  
(プリンタに添付のマニュアル参照)

プリンタに添付のマニュアルを見ながら、正しく接続できたか確認する  
(テスト印刷)

### パラレルコネクタに接続する場合

用途に合わせてプリンタを選ぶ

接続ケーブルやプリンタの付属品など、必要なものを用意する  
(プリンタ添付のマニュアル参照)

パソコンの電源を切り、パラレルコネクタにプリンタを接続する

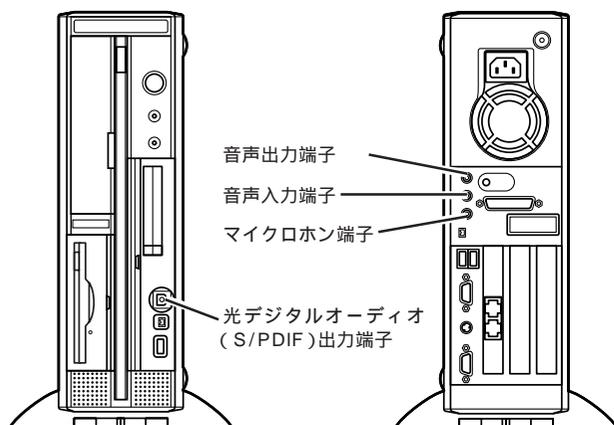
パソコンの電源を先に入れてから、プリンタの電源を入れる

プリンタ用ドライバ、アプリケーションのインストールをする  
(プリンタに添付のマニュアル参照)

プリンタに添付のマニュアルを見ながら、正しく接続できたか確認する  
(テスト印刷)

## AV 機器を接続する

このパソコンでは、パソコンの音を外部のスピーカで鳴らしたり、光デジタル対応のオーディオ機器に録音したり、マイクロホンでパソコンに音を取り込んだりすることができます。



前面  
(カバーを開いたところ)

背面

### 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子

この端子にMDデッキやAVアンプなどのデジタル入力機能を持ったオーディオ機器を接続して、音を聴いたり、パソコンで再生した音をオーディオ機器にデジタル録音したりできます。

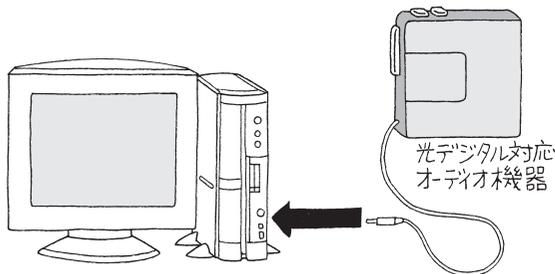
MDにデジタル録音するには、このパソコンにインストールされている「Jet-Audio Player」を使います。

#### 参照

Jet-Audio Player について   
「添付ソフトの使い方」-「Jet-Audio Player」

#### チェック!!

光デジタルオーディオ出力端子は、通常使用しないときは、本体前面のカバーを閉じておいてください。



## 出力される音源

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子からは、次の音源が光デジタル信号で出力されます。

- ・WAVE 音源
- ・MIDI 音源

また、ドルビーデジタル5.1チャンネル出力(ドルビーデジタルサラウンド)に対応。ただし、ドルビーデジタルによる5.1チャンネルで再生するためには、対応したオーディオ機器が必要です)にも対応しています。なお、DTS出力には対応していません。

## S/PDIF の出力設定の変更方法

「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」 「ヤマハ AC-XG」の「デジタル出力」タブでデジタル出力モードを変更し、「適用」ボタンをクリックします。

オフ : 音声出力端子から音声のみを出力します。

オン(デジタルソースのみ)

: この端子から光デジタル信号を出力します。音声出力端子からは音声を出力します。光デジタル信号で出力されるのは、Wave や MIDI 等のデジタルソースのみです。

オン(すべて)

: この端子から光デジタル信号を出力します。音声出力端子からは音声を出力します。すべての音声を光デジタル信号で出力します。

## アナログ出力設定の変更方法

「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」 「ヤマハ AC-XG」の「デジタル出力」タブでアナログ出力の状態を変更し、「適用」ボタンをクリックします。

アナログ出力を有効にする : 音声出力端子からアナログ信号が出力されます。

アナログ出力を無効にする : 音声出力端子からアナログ信号が出力されません。

## オーディオ機器を接続するときの注意

- ・必ず、オーディオ機器の電源を切ってから接続してください。
- ・デジタルオーディオ入力機器によっては光デジタルに対応していないことがあります。この場合は、別途、変換ユニットが必要になることがあります。
- ・デジタル入力機能のあるオーディオ機器を接続するときには、市販の光デジタルケーブルを使用してください。
- ・この端子の形状は光ミニ二端子(角形)です。ケーブルのプラグ形状によっては使用できないものがありますので、ご購入時に確認してください。
- ・このパソコンの光デジタル信号出力のサンプリング周波数は48kHzです。デジタル入力機能のあるオーディオ機器を接続するときは、そのオーディオ機器が48kHzのサンプリング周波数に対応している必要があります。詳しくは、オーディオ機器のマニュアルで確認してください。

## チェック!!

コントロールパネルに「ヤマハ AC-XG」アイコンが表示されていないときは、画面左の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。

### Jet-Audio Player の設定の変更方法

ドルビーデジタル 5.1 チャンネル出力を行う場合は、以下の手順にて、Jet-Audio Player の「デジタル出力」設定を変更してください。

「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」→「Jet-Audio Player」の順にマウスポインタを合わせ、「Jet-Audio Player」をクリックする。

「Jet-Audio Player」が起動します。

「Jet-Audio Player」の「ラック制御」パネルの  (細かい設定) をクリックする。

「細かい設定」ウィンドウが表示されます。

「デジタルビデオ」タブをクリックし、「DVD エンジンの環境設定」をクリックする。

「オーディオ出力」タブをクリックし、「デジタル出力」の  をクリックして、 (オン) にする。

「OK」ボタンをクリックする。

「設定を変更するには、Jet-Audio Player を再起動してください。」と表示されたら、「OK」をクリックする。

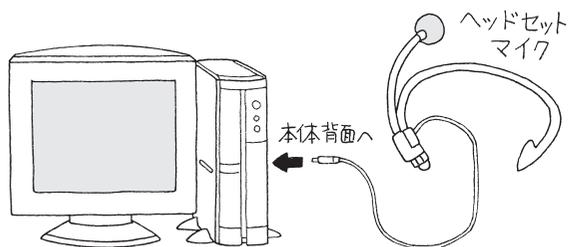
「OK」ボタンをクリックする。

「Jet-Audio Player」を終了する。

「Jet-Audio Player」再起動後、設定が有効になります。

## マイクロホン端子

この端子にマイクロホンを接続して、パソコンに音を取り込むことができます。マイクロホン端子は、本体背面にあります。



### 音量の調節

マイクロホンからの入力音量は、Windows の「ボリュームコントロール」の機能で調節します。「ボリュームコントロール」は、「スタート」ボタン「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテインメント」→「ボリュームコントロール」をクリックして起動できます。

### ✓チェック!!

このパソコンには、マイクロホンは添付されていません。モノラルミニプラグ付のマイクロホンを、別途購入してください。

## ハウリングについて

マイクロホンのスピーカに近づけると、スピーカから「キーン」という大きな音が出ることがありますが、故障ではありません。これをハウリング現象といいます。この場合は、次の対策を行ってください。

- ・マイクロホンをスピーカから遠ざける
- ・「ボリュームコントロール」で入力音量(ボリューム)を小さくする

## 取り込んだ音声の利用

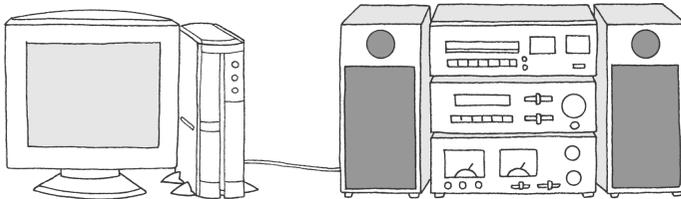
マイクロホンから取り込んだ音声は、「サウンドレコーダー」というアプリケーションを使って録音し、ファイルに保存できます。詳しくは、サウンドレコーダーのヘルプをご覧ください。「サウンドレコーダー」は、「スタート」ボタン「プログラム」「アクセサリ」「エンターテイメント」「サウンドレコーダー」をクリックして起動できます。

## マイクロホンを使って音声入力をする

別売の「SmartVoice4.0」などの日本語音声認識ソフトをインストールして、このパソコンにマイクロホンを接続すると音声で文字入力やパソコンの操作ができるようになります。このパソコンに添付されているアプリケーションのなかで、「音声対応」となっているものは、音声で文字入力や操作ができます。詳しくは、アプリケーションのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。

## 音声入力端子

この端子に外部オーディオ機器を接続して、外部オーディオ機器から出力される音をパソコンで聴いたり録音したりできます。この端子に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのオーディオケーブルです。ミニプラグ付きのオーディオケーブルは、電器店などで購入してください。



## 音声出力端子

この端子に外付けスピーカや外部オーディオ機器を接続して、パソコンから出力される音を聴いたり、テープレコーダ等に録音したりできます。この端子に接続できるのは、ステレオミニプラグ付きのオーディオケーブルです。ミニプラグ付きのオーディオケーブルは、電器店などで購入してください。

### ✓チェック!!

ケーブルを外部オーディオ機器側に接続するときは、「LINE IN」、「AUX IN」などの入力端子に接続してください。また、外部オーディオ機器に「MIC IN」しかない場合は、「抵抗入り」のオーディオケーブルを購入してください。

## ターミナルアダプタ

ここでは、より高速にインターネットを楽しむことができるISDN回線と、このパソコンにつなげられるターミナルアダプタ( ISDN ターミナルアダプタ )について簡単に説明します。

### ISDN 回線について

ISDN回線を利用すると、モデムと比べてより高速なデータ通信速度でインターネットを楽しむことができます。さらに、次のようなメリットがあります。

- ・ ノイズの混入や信号の減衰がない
- ・ 一本の回線で二本分利用できるため、インターネットに接続しながら電話をかけられる

ISDN回線を利用するときには、ターミナルアダプタのほかにDSUという装置が必要です。DSUを内蔵するタイプのターミナルアダプタもあります。

デスクトップにある「ISDN」をダブルクリックすると、「カンタンISDN」の紹介ページが表示されます。ここでは、ISDNの基礎知識やISDN回線にするメリットなどISDNについて幅広く解説しています。また、今すぐここからISDNの申し込みを行うこともできます。ここからISDNに申し込んで、BIGLOBEと契約していただくと、さまざまな特典を受けることができます。

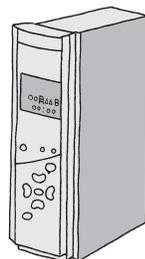
2001年12月末日までにお申し込みいただいた方に限ります。

### ターミナルアダプタを使う

ISDNターミナルアダプタを使う前に次のことを確認してください。

- ・ ISDN回線の契約をしていること
- ・ DSUが内蔵されていること( DSUが内蔵されていない場合は、別途用意してください)
- ・ ISDN回線用のコンセントがモジュラー式になっていること

このパソコンにターミナルアダプタを接続するときは、USBコネクタかシリアルコネクタに接続します。



### ✓チェック!!

ISDN回線を使って高速でインターネットに接続するには、プロバイダがISDN回線に対応している必要があります。

USB対応のターミナルアダプタは、本体のUSBコネクタに接続します。また、無線対応のターミナルアダプタ(AtermIWX70)とマルチモバイルカード(AtermRC45)を利用することもできます。こうすると、ターミナルアダプタから離れた場所にパソコンを設置できるため、たとえば1階にしかモジュラーコンセントがなくても2階の部屋でインターネットを楽しむことができるようになります



ISDN回線に契約していない場合は、契約する  
(デスクトップにある  から契約することもできます)

ターミナルアダプタ(必要に応じてDSUも) 必要なケーブル類を用意する

ターミナルアダプタに添付のマニュアルを参照して、必要なドライバ、アプリケーションをインストールする

ターミナルアダプタに添付のマニュアルとこのマニュアルを参照して、パソコンにターミナルアダプタを接続する

インターネットの設定をISDN回線用にする

## デジタルカメラ

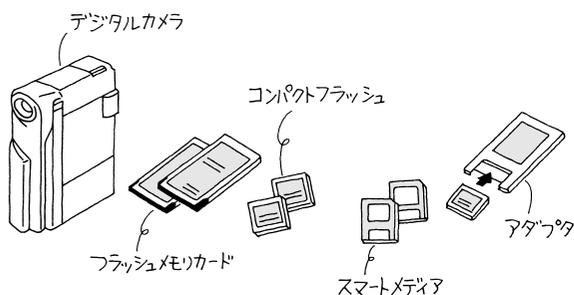
デジタルカメラ(デジタルスチルカメラ)で撮影した写真(画像)をこのパソコンに取り込むには、いろいろな方法がありますが、ここでは、PCカードスロット経由で取り込む方法で説明します。取り込んだ画像は、いろいろなアプリケーションで活用できます。

### 画像データを取り込む

デジタルカメラで撮影した写真をパソコンに取り込む方法は、デジタルカメラによって異なります。ここではメモ리카ードを使う方法を説明します。デジタルカメラで撮影した写真は、画像データとしてメモ리카ードにいったん保存されます。デジタルカメラによってメモ리카ードの種類はさまざまですが、次の2つのタイプに分けることができます。

- ・ PCカードスロットにそのままセットできるもの(フラッシュメモ리카ードなど)
- ・ PCカードスロットにセットできるようにするための専用のアダプタが必要なもの(コンパクトフラッシュやスマートメディアなど)

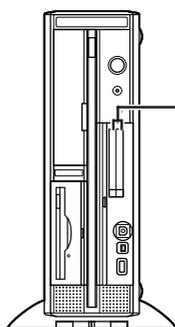
お使いのデジタルカメラのメモ리카ードについて詳しくは、デジタルカメラに添付のマニュアルをご覧ください。



この他にも、USBケーブルをパソコン本体に接続して画像を取り込むタイプのものもあります。

パソコン本体の電源を入れる

デジタルカメラから画像データの入ったメモ리카ードを取り出し、PCカードスロットにセットする(必要に応じて市販のPCカードスロット用のアダプタを使う)



カバーを開けたところ

デスクトップの「マイコンピュータ」からFドライブ  をダブルクリックし、画像が保存されているフォルダを開き、画像データが保存されていることを確認する

「表示」「縮小表示」をクリックすると画像が縮小表示されるので、どんな写真か確認できます。

Fドライブ(PCカード)からCドライブ(パソコンのハードディスク)にデータをコピーする

デスクトップの「マイドキュメント」-「My Pictures」フォルダにコピーすると、縮小表示された画像の一覧を見ることができます。また、ウィンドウ左側に表示されるボタンを使って、画像を回転したり印刷したりすることもできます。

 参照

PCカードの取り扱い方 「PART5 PCカードを使う」(p.47)

 チェック!!

購入時の状態で他に周辺機器を取り付けていない場合は、PCカードはFドライブになります。

## 取り込んだ画像データを活用する

パソコンに取り込んだ画像データは、大きさや色を変えたり、文章を入れたりできます。SmartGallery でこれらのデータを管理できます。

### インターネット経由で美しいカラー写真を作成する

このパソコンに添付されているインターネットの写真屋さんを使うと、インターネットを使って送信した画像データを高品位なカラープリントにし、宅配または郵便によって自宅で受け取ることができます。



(C)2000 DIGITAL PLAZA. All rights reserved.

### 画像データを管理する

このパソコンに添付されているSmartGalleryを使うと、画像データのサムネイル表示(画像の一覧表示)ができます。をクリックして、デジタルカメラのデータがあるドライブを登録してください。デジタルカメラのデータとして、サムネイルが追加されます。サムネイルから直接いろいろなアプリケーションを起動して、ファイルを開いたりできます。



また、アルバム機能でデータを整理することもできます。

### はがきを作成する

このパソコンに添付されている筆王を使うと、年賀状や暑中見舞いなどのはがきを作成できます。

### 携帯電話で閲覧する

このパソコンに添付のスナップショットを使うと、画像データを編集して携帯電話の待ち受け画面にしたり、ホームページに置いて外出先からiモード機能のある携帯電話で閲覧したりできます。スナップショットについて詳しくは、PART11の「携帯電話と連携する」(p.98)をご覧ください。

### ✓チェック!!

インターネットの写真屋さんは、購入時にはこのパソコンにインストールされていません。添付のアプリケーションCD-ROMからインストールします。

### 📖参照

- ・インターネットの写真屋さんのインストール方法 「サポートセンター」-「アプリケーションの追加と削除」-「インターネットの写真屋さん」
- ・インターネットの写真屋さんについて 「添付ソフトの使い方」-「インターネットの写真屋さん」

### 📖参照

SmartGalleryについて 「添付ソフトの使い方」-「SmartGallery」

### 📖参照

筆王について 「添付ソフトの使い方」-「筆王」

## その他の機器のご紹介

その他の周辺機器の紹介です。ここでは比較的良好に使われる周辺機器を簡単に説明します。周辺機器選びの参考にしてください。

### 外付け用ハードディスク

データをたくさん保存したり、多くのアプリケーションをインストールしていくと、ハードディスクの容量が足りなくなってきました。そんなときは外付け用ハードディスクを増設して容量を増やすことができます。

機種によって接続の規格が異なります。USBに対応しているものはUSBコネクタに、IEEE1394に対応しているものはIEEE1394コネクタに接続します。またSCSIインターフェイス対応のものは、PCカードスロットにSCSIカードを取り付けるか、PCIスロットにSCSIインターフェイスボードを取り付けて接続します。

### MO ディスクドライブ

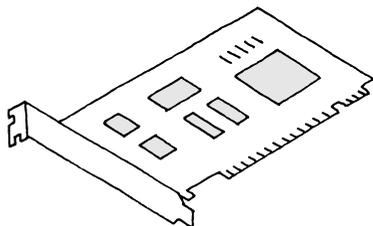
3.5 インチMOディスク(光磁気ディスク)を扱うことができるドライブです。3.5 インチMOディスクは、日本国内で普及している大容量メディアの1つです。記憶容量は128Mバイト、230Mバイト、540Mバイト、640Mバイト、1.3Gバイトの5種類があり、ドライブの種類によって扱えるディスクが異なります。

また、ドライブは機種によって接続の規格が異なります。USBに対応しているものはUSBコネクタに、IEEE1394に対応しているものはIEEE1394コネクタに接続します。またSCSIインターフェイス対応のものは、PCカードスロットにSCSIカードを取り付けるか、PCIスロットにSCSIインターフェイスボードを取り付けて接続します。

このほかにPD、Zip、Jazなどの大容量メディアもあり、データを読み書きするには、それぞれのメディアに対応したドライブが必要になります。

## PCI ボード

PCI ボードには次のようなものがあります。



### SCSI インターフェイスボード

このパソコンに外付け用ハードディスクや、MOディスクドライブなどの SCSI インターフェイス対応機器を接続するためのボードです。

### 3D グラフィックアクセラレータボード

3D グラフィック、2D グラフィックを高速描画することができるボードです。CAD や 3D グラフィックス、3D ゲームなどに対応しています。また、動画の再生もなめらかに表示することができます。2D アクセラレーション機能もありますので、アプリケーションでも画面を高速に描画することができます。

### LAN ボード

LAN ボードはこのパソコンを LAN (Local Area Network) に接続するための PCI ボードです。LAN は同じ建物の中など比較的近距离で、複数のコンピュータを接続したネットワークのことです。LAN でコンピュータ同士を接続すれば、データの移動、ファイルやプリンタの共有などが簡単にできるようになります。

LAN に接続するためのコネクタには、いくつかの異なる規格があります。現在市販されている LAN ボードの多くは 100BASE-TX または 10BASE-T という規格のコネクタに対応するものです。それ以外のコネクタに接続する場合、パソコンの販売店などにご相談ください。また、LAN ボードと同じ機能を持つものに LAN カードがあります。LAN カードは PC カードスロットに取り付けます。

### チェック!

PCI ボードは、ここで紹介しているものの他にもいろいろなメーカーから、多種多様な機能を持つものが発売されています。これらの PCI ボード購入時には、必ずこのパソコンで動くかどうかメーカー、ご購入元で確認してください。

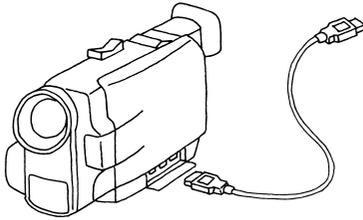
### 参照

PCI ボードの使い方 「PART6 PCI ボードを使う」(p.55)

### 参照

SCSI インターフェイスボードを使う 「PART8 SCSI インターフェイス対応機器を使う」(p.69)

## デジタルビデオカメラ



このパソコンにデジタルビデオカメラを接続すると、ビデオ映像をパソコンに取り込むことができます。

また、DV端子(IEEE1394コネクタ)付のデジタルビデオカメラなら、一本のケーブルで映像も音声も取り込むことができます。

デジタルビデオカメラの接続方法や使用方法については、「PART4 IEEE1394対応機器を使う」(p.41)および、デジタルビデオカメラに添付のマニュアルをご覧ください。

デジタルビデオカメラの映像は、このパソコンに添付されているVideoStudioで編集できます。また、このパソコンに添付されているSmartGallery/BusBrainを使うとデジタルビデオカメラを手軽に操作できます。さらに、ビデオ登録君を使うと、パソコンに取り込んだ映像をインターネットに公開できます。ビデオ登録君を利用するには、BIGLOBEへの申し込み等が必要です。詳しくは、PART11の「インターネットで映像を楽しむ」(p.101)をご覧ください。

### 参照

- ・ IEEE1394について「PART4 IEEE1394対応機器を使う」(p.41)
- ・ VideoStudioについて  「添付ソフトの使い方」-「VideoStudio」-PART4の「IEEE1394対応機器をスマートに活用する」(p.44)
- ・ SmartGallery/BusBrainについて  「添付ソフトの使い方」-「SmartGallery/BusBrain」-PART4の「IEEE1394対応機器をスマートに活用する」(p.44)

ビデオ登録君を使うには、添付のアプリケーションCD-ROMからインストールします。

### 参照

- ・ ビデオ登録君のインストール  「サポートセンタ」-「アプリケーションの追加と削除」-「ビデオ登録君」
- ・ ビデオ登録君について PART11の「インターネットで映像を楽しむ」(p.101)

## 2

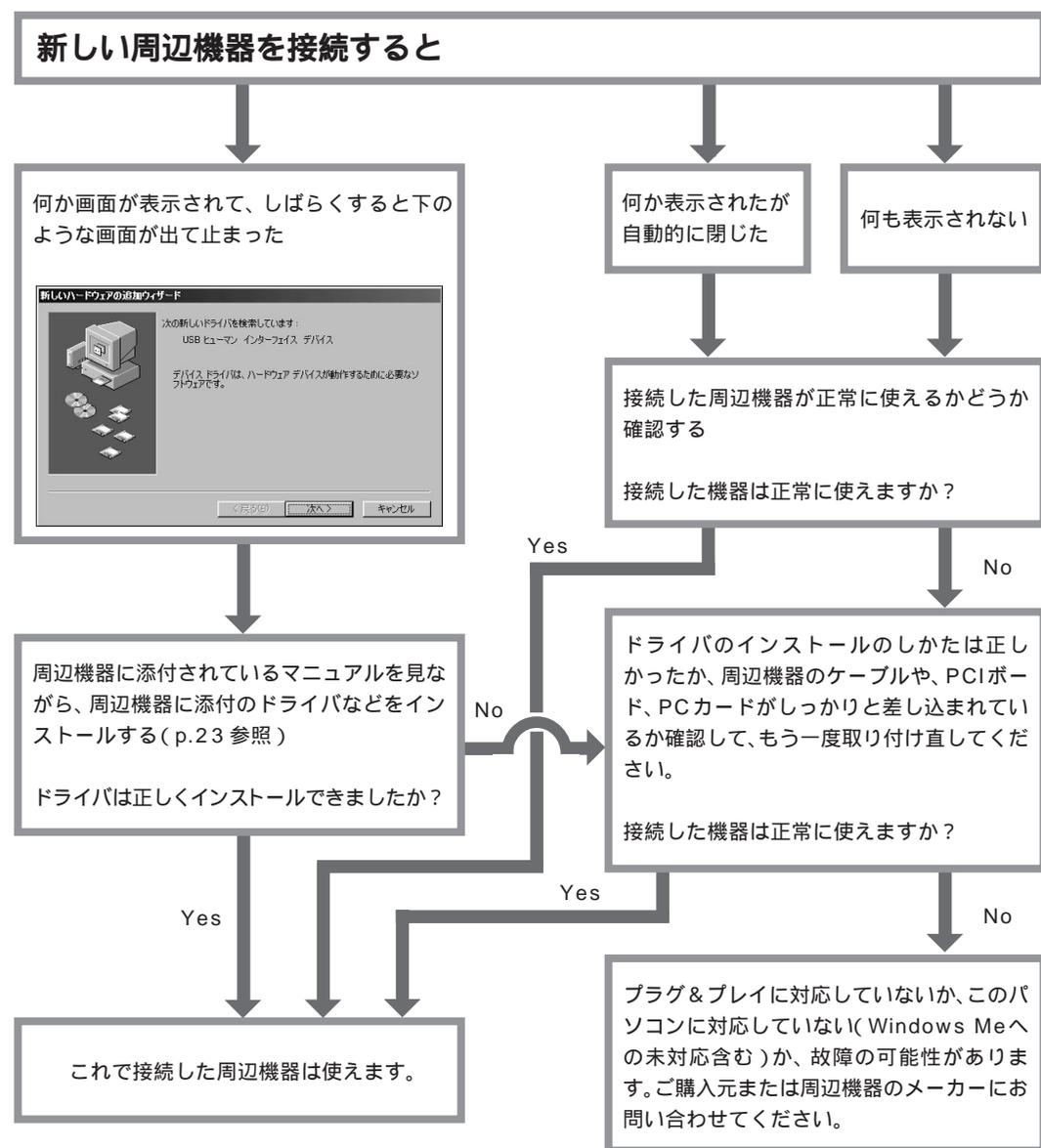
## 機器を取り付ける前に

メモリを増設したり、いろいろなボードや周辺機器を取り付けることで、より快適な使用環境を整えることができます。しかし、周辺機器の中には、接続してからさまざまな設定や準備が必要になるものがあります。

ここでは、これらの機器を取り付けるときに必要な準備と作業の方法について説明します。

# 接続から準備完了までの流れ

周辺機器を接続すると、パソコンの画面に見慣れない表示が出てきて、そのまま止まってしまったように思えることがあります。そんなときに「故障かな？」とあわてる必要はありません。はじめて新しい機器を接続したあとの流れは、次の3通りのパターンに分かれます。あらかじめ頭に入れておきましょう。



## ドライバなどをインストールする

接続した周辺機器を使うためにはほとんどの場合、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。

ドライバは、周辺機器によって異なります。あらかじめパソコンに用意されているドライバが使える場合と、周辺機器に添付されているドライバが必要な場合があります。

### プラグ & プレイに対応している周辺機器の場合

下のような画面が表示されたら、まずは画面の指示にしたがって作業を進めます(  をクリックしていただきます)。



### ・パソコンに用意されていたドライバが使える場合

下のような画面が表示された場合は、このパソコンにあらかじめ用意されていたドライバがインストールされました。そのまま  をクリックしてください。



これでドライバのインストールは終了です。



#### 用語

**ドライバ**  
情報をパソコンから周辺機器へ適切に伝えるためのソフトウェアです。周辺機器を接続したとき、最初に一度だけ組み込み(インストール)ます。



#### 用語

**プラグ & プレイ**  
パソコン本体に周辺機器をつなぐと自動的に種類を認識して必要な設定を行う機構。つなぐ(プラグ)だけですぐに使える(プレイ)ことから付いた呼び名です。

Windows を再起動する必要がある場合があります。そのときは画面の指示にしたがって、再起動してください。

## ・周辺機器に添付のドライバが必要な場合

下のような画面が表示されるのは、周辺機器に添付のドライバが必要な場合です。この場合は周辺機器に添付のマニュアルをご覧になりドライバをインストールしてください。



## プラグ & プレイに対応していない周辺機器の場合

プラグ & プレイに対応していない周辺機器の場合、ドライバや、専用のアプリケーションのインストールは手動で行います。詳しくは周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

## 「デジタル署名が見つかりませんでした」というメッセージが表示された場合

Windows Meには、新しくドライバを追加した際のトラブルを防ぐため、追加しようとしているドライバがWindows Meで正しく動作するものかどうか、チェックする機能があります。正しく動作することがMicrosoftによって保証されているドライバには、Microsoftデジタル署名が付けられています。

デジタル署名についてのメッセージが表示された場合は、周辺機器のメーカーにデジタル署名のついたドライバを入手できないか確認するか、Windows Update を実行してみてください。

## ドライバをインストールするときの注意

ドライバのインストール後、Windowsを再起動する必要があることもあります。そのときは画面の指示にしたがって、再起動してください。

## ドライバのアップデートについて

周辺機器のドライバは、知らないうちに改善されて新しくなっていることがあります。「ドライバの組み込み方は正しいのに、うまく動かない」といった場合は、ドライバを最新のものにするとうまく動くようになることもあります。NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」(<http://121ware.com>)や各周辺機器のメーカーのホームページを時々チェックし、必要に応じてドライバをアップデートしてください。

周辺機器によっては専用のアプリケーションをインストールする必要があります。詳しくは、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

周辺機器に添付のドライバをインストールするときは、ドライバがWindows Meに対応しているかどうか確認してください。Windows Meに対応していないドライバをインストールすると、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

Windowsを再起動する必要があることがあります。そのときは画面の指示にしたがって、再起動してください。

## 周辺機器の取り外しと再接続

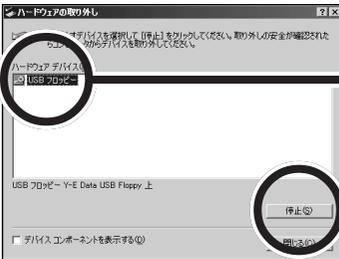
プリンタなどのUSB対応機器、メモ리카ードなどのPCカードは、パソコンの電源を入れたまま、取り付け、取り外しができます。

ただし、タスクトレイにが表示されている周辺機器は、正しい手順で取り外しを行わないと、このパソコンが正常に動作しなくなることがあります。取り外しを行うときは、必ず次の手順で取り外しを行ってください。

1 タスクトレイのをダブルクリック

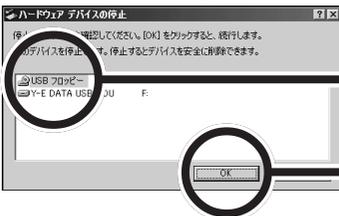


「ハードウェアの取り外し」ウィンドウが表示されます。



2 「ハードウェアデバイス」の一覧から取り外す周辺機器を選んで

3 「停止」をクリックする



4 取り外す周辺機器が選択されていることを確認し、

5 「OK」をクリック

「\*\*\* は安全に取り外すことができます。」と表示されます。



6 「OK」をクリック

これで周辺機器は取り外せます。

同じ周辺機器を再接続したときは、ドライバなどをインストールする必要はありません。ただし、画面が少しのあいだ止まったり、何かウィンドウが表示されたりすることがあります。ウィンドウが表示されたら、ウィンドウの指示にしたがってください。これは機器の故障ではありません。しばらく待てば使えるようになります。

### 参照

- ・ USB 対応機器の取り外し PART3の「USB対応機器を取り外すときの注意」(p.39)
- ・ IEEE1394対応機器の取り外し PART4の「IEEE1394対応機器を取り外すときの注意」(p.43)
- ・ PCカードの取り外し PART5の「PCカードを取り出す」(p.52)

# 機器を取り付けるときのご注意

本体を開けて、機器を取り付けるときには、次の点にご注意ください。

## ⚠ 警告



雷が鳴り出したら、パソコンや電源ケーブル、ディスプレイケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル（電話線）、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

## ⚠ 注意



本体内部に手を入れるときは、指をはさんだり、ぶついたり、切ったりしないように注意してください。



濡れた手で触らないでください。

電源ケーブル、ACアダプタがコンセントに接続されているとき、濡れた手で本体に触れると感電の原因となります。



電源ケーブル、ACアダプタがコンセントに接続されているときは、本体のカバー類を外さないでください。感電の原因となります。



周辺機器の取り付けや取り外しをするときは、必ず電源ケーブル、ACアダプタのプラグを、



パソコンや周辺機器の故障や感電の原因となります。



このパソコンの使用直後は、CPU、CPUの周辺、その他のヒートシンク(放熱板)に触れないでください。

CPU、CPUの周辺、その他のヒートシンク(放熱板)が高温になっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。



電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜いてください。

ケーブルを引っ張って抜くと、断線して火災の原因となります。



本体を解体した状態で使用しないでください。感電や火災の原因となります。

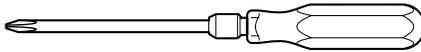
## 本体の開け方と閉め方

メモリを増設したり、いろいろなボードをパソコンに組み込むときには、本体のルーフカバー（本体上面をおおっているカバー）を外す作業が必要となります。ここでは、その作業について説明します。作業はあせらず、ゆっくりと行ってください。

### 用意するもの

プラス（+）ドライバー

ネジ山に合った先端の  
ものを使って  
ください



ネジの取り外し、取り付けの際に、本体内部にネジを落とす可能性があるため、なるべくドライバーの先端が磁石になったものをおすすめします。

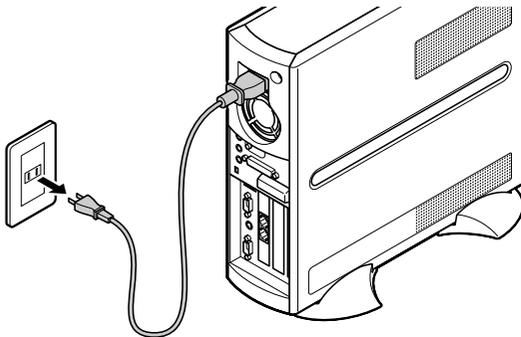
### ルーフカバーの外し方

1

本体と、スピーカなど周辺機器の電源を切る

2

本体の電源ケーブルをコンセントから抜く



3

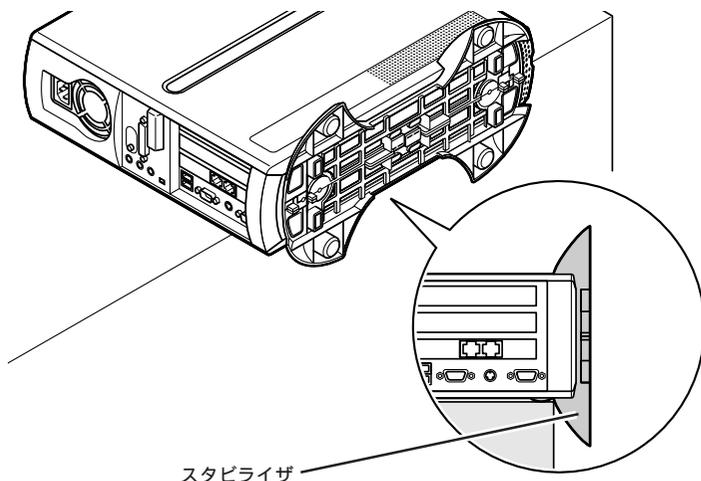
本体に接続されているケーブルをすべて取り外す

### ✓チェック!!

ここで取り外したケーブルは、メモリやボードなどの増設が終わり、ルーフカバーを取り付けたあとでもとどおりに接続することになります。外す前に、どのコネクタにどのケーブルが接続されているのかを確認しておきましょう。

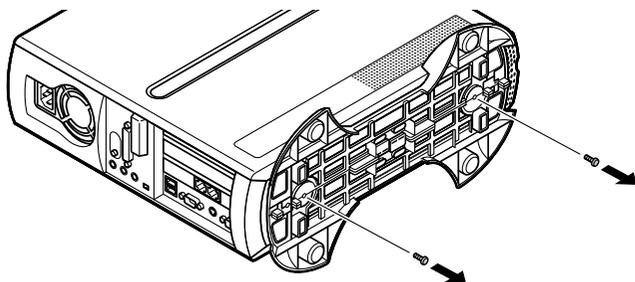
4

本体の左側面(正面から見て左側)を上に向けて静かに横に倒し、底面のスタビライザがはみ出るように机の端などに置く



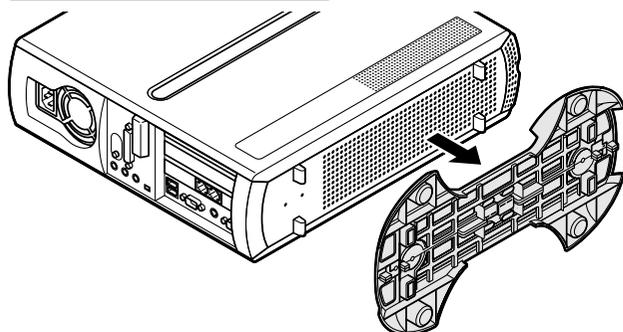
5

用意したドライバーで本体底面のネジを2本外す



6

スタビライザを取り外す



本体を横に倒すときは、本体を安定させるためや机やテーブルなどを傷つけたりしないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。

#### ✓チェック!!

スタビライザを外したときに本体が衝撃を受けないように、ちょうどスタビライザの高さの分だけ、本体が机の端などからはみ出るように置いて安定させます。

#### ✓チェック!!

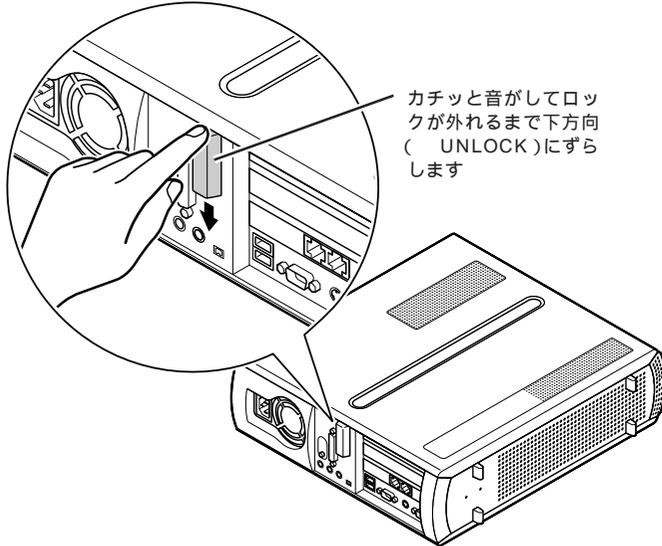
外したネジをなくさないように、気をつけてください。

#### ✓チェック!!

スタビライザを落下させないよう、スタビライザを手を持って取り外してください。

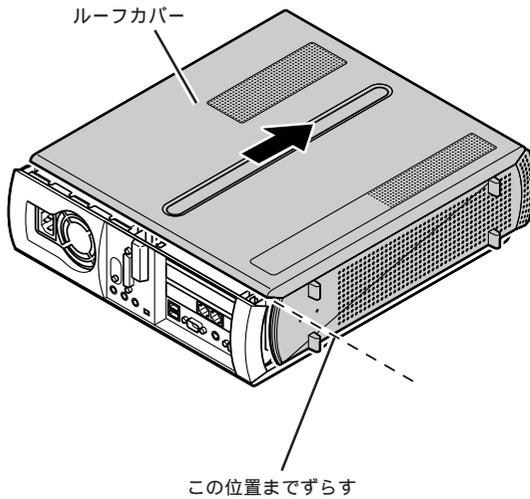
7

本体背面のレバーを下方向( UNLOCK )にずらす



8

ルーフカバーを下図のように少し前にずらして

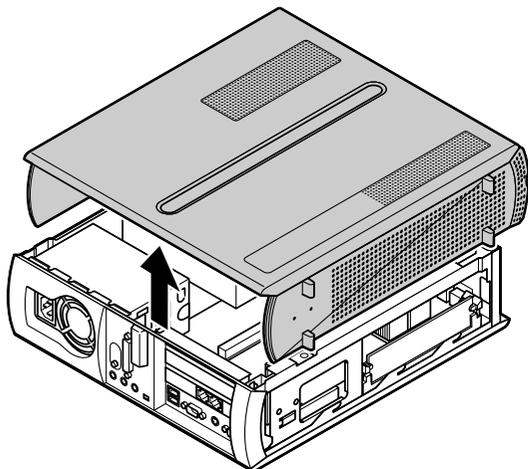


✓チェック!!

- ・ルーフカバーを取り外す際、PCカードスロットのイジェクトボタンが押し込まれていることを確認してください。
- ・ルーフカバーを取り外す際は、CD-ROMドライブのカバーをひっぱったりしないでください。カバーが破損することがあります。

9

そのままゆっくり上方向に持ち上げて取り外す

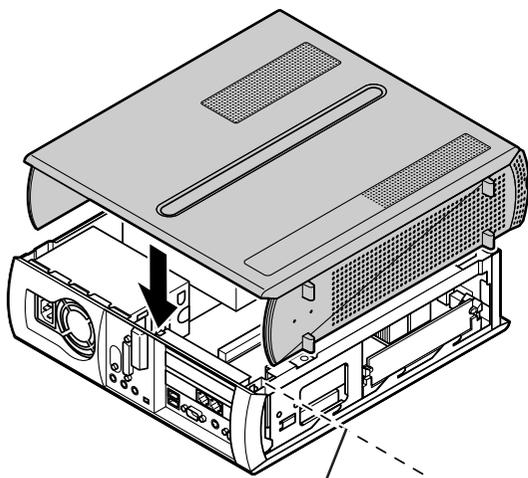


## ルーフカバーの取り付け方

機器の取り付けが終わって、カバーをもとどおりに取り付けるときは、外すときと逆の順番で作業を進めてください。

1

ルーフカバーの先端を下の図の位置に合わせるようにして下におろす



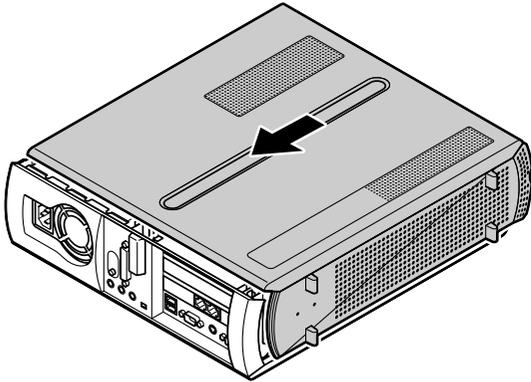
この位置に合わせるようにして下におろす

### ✓チェック!!

- ・このとき、内部のケーブルや部品を引っかけたり、はさんだりしないように気をつけてください。
- ・ルーフカバーを取り付ける際、PCカードイジェクトボタンが押し込まれていることを確認してください。
- ・ルーフカバーを取り付ける際は、CD-ROMドライブのカバーを押しつけないでください。カバーが破損することがあります。
- ・ルーフカバーを取り付ける前に、本体背面のレバーが「UNLOCK」の位置にあることを確認してください。

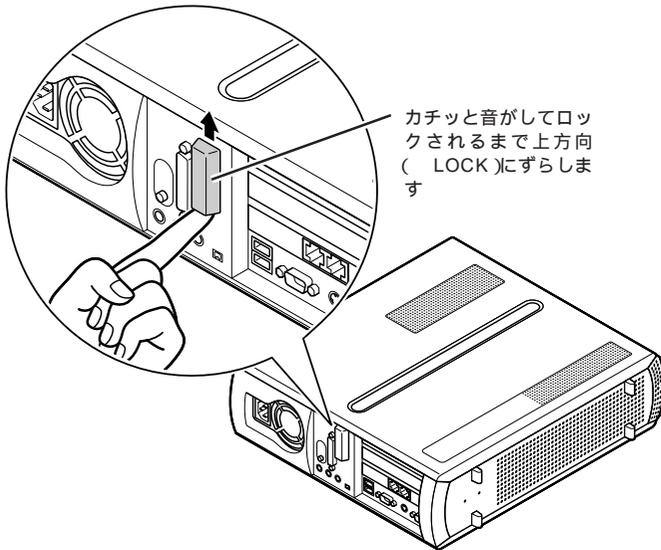
2

ルーフカバーを本体背面側にスライドさせる



3

本体背面のレバーを上方向( LOCK )にずらして固定する



4

スタビライザをもとどおりに取り付ける

5

「ルーフカバーの外し方」の手順3(p.27)で取り外したケーブルをもとどおりに取り付ける

☞ 参照

スタビライザの取り付けについて『はじめにお読みください』PART2の「パソコン本体にスタビライザを取り付ける」

☞ 参照

ケーブルの接続 『はじめにお読みください』の「PART2 パソコンの接続をする」



P A R T

# 3

## USB 対応機器を使う

USB コネクタには、いろいろな周辺機器を接続して利用することができます。ここでは、USB 対応機器の使い方について説明します。

ユーエスビー

## USB とは

USB は、パソコン用インターフェイスの規格の一つです。まずは、このパソコンで USB 対応機器を使うための基礎知識を覚えましょう。

USBは、Universal Serial Bus(ユニバーサル シリアル バス)の頭文字をとったものです。

用語

### インターフェイス

パソコンと周辺機器を接続するコネクタなど、機器を接続するときに必要な共有される部分のことです。

## USB なら簡単接続

USB 対応機器は、電源を入れた状態のままです。

本体とディスプレイの電源を入れて  
Windows を起動する( p.36 )



必要に応じて USB 対応機器側の  
設定を行う

USB 対応機器のマニュアルで確認してください。



USB コネクタにプラグを差し込む( p.37 )

パソコンの USB コネクタにプラグを差し込むと、自動的に設定が始まります。



正しく接続できたか確認する( p.39 )

確認のしかたは、機器によって異なります。



設定が終わったら準備完了。  
すぐに使い始めることができます。

USB対応機器は、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外したりできるようになっています。ふだんは取り外しておいて、必要になったときだけ接続し、使い終わったら、また取り外す、というような使い方ができます。

参照

USB対応機器を使用するときの注意  
このPARTの「USB対応機器を使用するときの注意」(p.40)

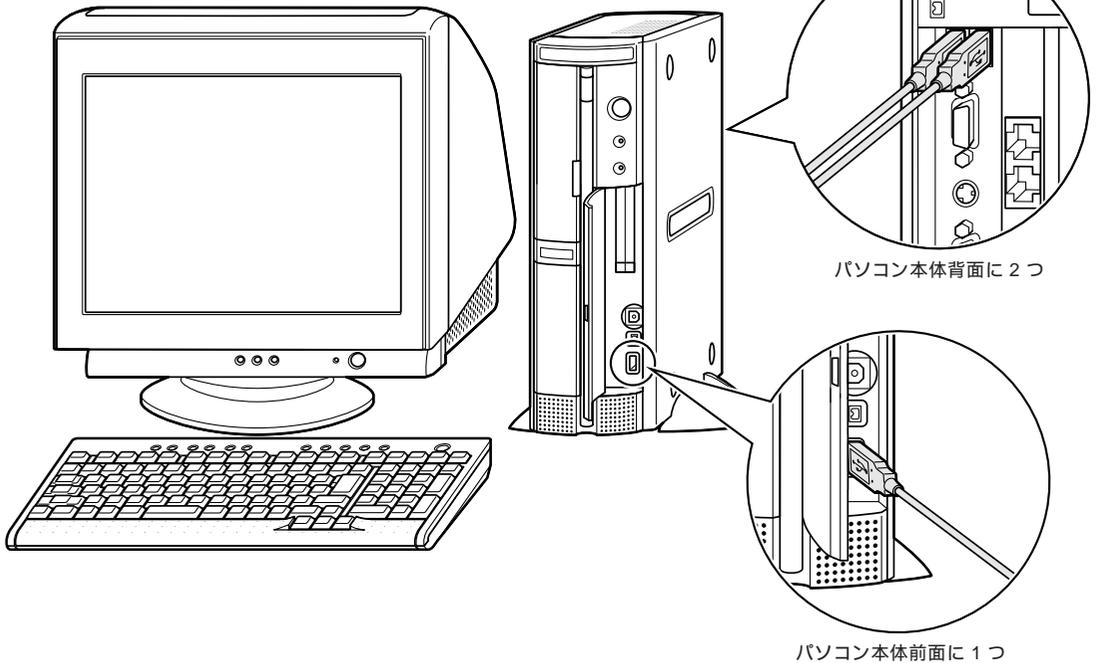
プリンタなど、電源スイッチのある周辺機器を利用する場合、あらかじめ周辺機器の電源を入れてから接続してください。

機器によっては、ドライバの設定作業が必要になることがあります。また、プラグを差し込む前にドライバをインストールする必要がある機器もあります。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

機器によっては、この後、ソフトウェアのインストールなどの作業が必要になります。詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

## USB コネクタについて

このパソコンには、本体の前面に1つ、背面に2つ、合計3つのUSBコネクタが用意されています。接続する機器に応じて、どちらのコネクタを使用しても構いません。もちろん、すべてのコネクタに別々のUSB対応機器を接続して、複数の機器を同時に使用することもできます。



標準で用意されているUSBコネクタだけで足りないときは、別売の「USBハブ」を接続して、コネクタの数を増やすことができます。

### ✓チェック!!

モデルにより、ディスプレイの形状は多少異なります。

### 📖参照

各USBコネクタへの差し込み方  
このPARTの「USBコネクタにプラグを差し込む」(p.37)

### 📖参照

USBハブについて このPARTの  
「USBハブを使う」(p.40)

# USB 対応機器を接続する

パソコンの電源を入れたままの状態ではUSB対応機器を接続すると、自動的に設定が始まります。設定が終わったら、すぐに使い始めることができます。

## 警告



雷が鳴り出したら、パソコンや電源ケーブル、ディスプレイケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル（電話線）、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

## 接続する前に

USB対応機器を接続する前には、次の準備が必要です。

### このパソコンで動作するか確認する

USB対応機器の、このパソコンでの動作確認情報について詳しくは、機器に添付のマニュアルをご覧になるか、機器のメーカーまたはご購入元などにお問い合わせください。なお、NEC製のUSB対応機器については、NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」(<http://121ware.com>)を参考にしてください。

### 接続する USB 対応機器のマニュアルを読む

あらかじめ、機器に添付のマニュアルをよく読んでおきます。機器によっては、接続する前にドライバのインストールや、各種設定スイッチ等の設定が必要な場合があるので、マニュアルにしたがって設定します。接続後に設定が必要になることがあるので、CD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば、用意しておきます。

### パソコンとディスプレイの電源を入れておく

USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態では接続できません。あらかじめパソコンの電源を入れて、Windowsが使えるようにしておきましょう。



USB対応機器を使用するときの注意  
このPARTの「USB対応機器を使用するときの注意」(p.40)

## チェック!!

- ・USB対応機器によっては、このパソコンにあらかじめドライバが用意されているものがあります。
- ・USB対応機器に、Windows 95やWindows 98対応のドライバしか添付されていないこともあります。その場合、USB対応機器をこのパソコンで使うために専用のドライバが別に必要となることがあります。詳しくは、機器に添付のマニュアルや、機器のメーカーまたはご購入元などにお問い合わせください。

## USB コネクタにプラグを差し込む

1

### パソコン本体前面、背面の USB コネクタに、プラグを差し込む

プラグを差し込むときの向きは、どこの USB コネクタを使うかによって異なります。次の説明を参照して、正しく差し込んでください。

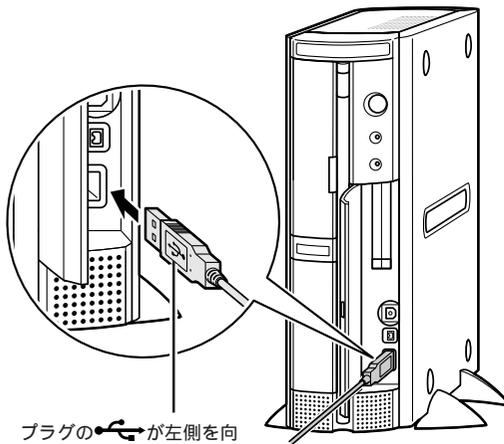
プラグを差し込んでそのまま待っていると、自動的に画面の表示が切り替わり、Windows デスクトップの画面に戻る



取り付けた機器によっては、タスクトレイに  が追加される

### 本体前面の USB コネクタを使う

本体前面の USB コネクタを使う場合は、プラグの  マークを左に向けてコネクタに差し込みます。



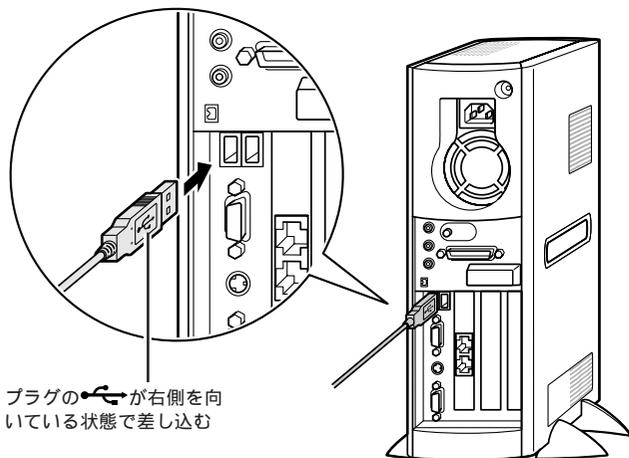
プラグの  が左側を向いている状態で差し込む

Windows デスクトップの画面に戻らずに次のような画面が表示された場合は、PART2の「ドライバなどをインストールする」(p.23)をご覧ください。



## 本体背面のUSBコネクタを使う

本体背面のUSBコネクタを使う場合は、プラグのマークを右に向けてコネクタに差し込みます。



USBコネクタは2つ並んでいます。どちらのコネクタに差し込んで構いません。また、両方のコネクタにUSB対応機器を接続した状態で使用することもできます。

## 正しく接続できたかどうか確認する

接続したUSB対応機器が正しくパソコンに認識されるかどうかを確認します。確認する方法は、機器の種類によって異なります。また、機器によって下記の方法では確認できない場合もあります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

### USB 対応プリンタ

「コントロールパネル」の「プリンタ」をダブルクリックし、接続したプリンタ名が表示されることを確認します。

### その他の USB 対応機器

接続を確認する方法は、機器のマニュアルをご覧ください。一般に、「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックし、「デバイスマネージャ」を表示して、接続した USB 対応機器が登録されていれば、正しく接続されています。

機器によっては、続けて別の設定作業が必要になります。USB 対応機器に添付のマニュアルなどで確認してください。

### ✓チェック!!

コントロールパネルに「システム」が表示されていないときは、画面左の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。

コントロールパネルの画面



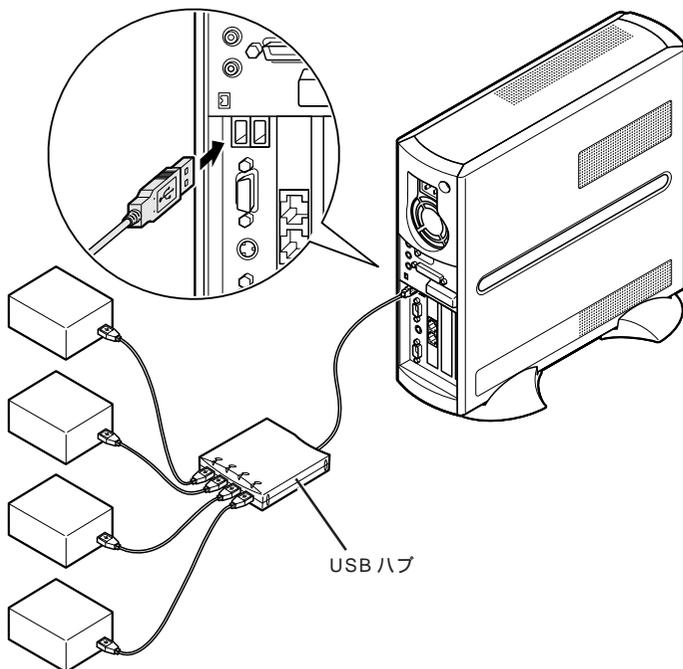
「プリンタ」 「システム」

## USB 対応機器を取り外すときの注意

USB 対応機器によっては、機器を接続するとデスクトップ右下のタスクトレイにが表示されます。このような機器の取り外しは、をダブルクリックして表示される「ハードウェアデバイスの停止」ウィンドウから行ってください。正しく取り外しが行われないと、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。PART2の「周辺機器の取り外しと再接続」(p.25)をご覧ください。正しい手順で取り外しを行ってください。

## USB ハブを使う

別売のUSBハブ(PK-UP002など)を使えば、1つのUSBコネクタを複数のUSBコネクタに分岐して増やすことができます。このUSBハブを何台も使えば、規格上127台(パソコン1台あたり:USBハブの数も含む)までの周辺機器を接続することができます。



### ✓チェック!!

USBハブにUSB対応機器を接続する場合、本体に先にUSBハブを接続してから接続してください。

PK-UP002の場合、4つのUSB対応機器を接続することができます。

USBハブの詳細な使い方については、USBハブのマニュアルをご覧ください。

USBハブには、CRTディスプレイの下に置くことのできるタイプ(PK-UP003)もあります。

### ✓チェック!!

複数のUSB機器を同時に使うと、機器によっては処理速度が低下することがあります。

## USB 対応機器を使用するときの注意

- ・ USBコネクタの抜き差しを行うときは、3秒以上間隔をおいて行ってください。
- ・ USBデバイスが正常に認識されていない場合は、いったんUSBコネクタを抜いて、もう一度差し込んでください。
- ・ 休止状態(またはスタンバイ状態)のときや休止状態(またはスタンバイ状態)に移行中、復帰中には、USBコネクタの抜き差しを行わないでください。
- ・ USBハブ経由でUSB対応機器を使用するときは、USBハブをこのパソコンに接続してから、USBハブにUSB対応機器を接続して使用してください。USBハブにUSB対応機器を接続したまま、USBハブをこのパソコンに接続すると、正常にUSB対応機器を認識できないことがあります。
- ・ USBのI/Oリソースの変更を行った場合は、システムの再起動を行ってください。
- ・ デバイスマネージャでUSBホストコントローラ(HC)を削除または、「使用不可」にするとUSBキーボードが使用できません。USBHCの削除、「使用不可」は絶対に行わないでください。

P A R T

# 4

## IEEE1394 対応機器を使う

このパソコンにはIEEE1394 コネクタがあります。IEEE1394 コネクタは、一本のケーブルでパソコンとIEEE1394 対応機器の間を、高速でデータのやりとりをすることができます。デジタルビデオカメラなどで撮った動画をパソコンに取り込むときに便利です。

アイトリプルイーイチサンキュウヨン

## IEEE 1394 について

このパソコンには、IEEE1394のコネクタがあります。  
はじめに、IEEE1394 というインターフェイスについて、少し勉強しておきましょう。

### IEEE1394って何？

IEEE1394は、パソコンと周辺機器の間で、データを高速にやりとりするための新しい規格です。

転送速度が速いので、動画などのデータもスムーズにパソコンに転送することができ、接続方法も簡単です。パソコンの電源をそのつど切る必要がなく、電源を入れたままで周辺機器の取り付け、取り外しができます。さらに、プラグ&プレイに対応しているので、パソコンと機器の間の細かい設定は自動的に行われます。

このインターフェイスは、コンピュータの世界ばかりでなく、さまざまな機器に応用されることが期待されています。将来的には、パソコンとデジタルビデオカメラ、ビデオデッキ、プリンタ、MIDI機器、ハードディスクなどを、一種類のケーブルでつなぐことができるようになります。そうなれば、映像や音声もすべて一本のケーブルでデジタル信号で転送されます。

#### 用語

IEEE(アイトリプルイー)  
米国電気電子技術者協会のことを言います。エレクトロニクス分野では世界最大規模の学会で、電子分野の規格化に大きな影響力をもっています。IEEE1394は、IEEEで標準化されたインターフェイスの規格です。

#### 用語

##### プラグ&プレイ

パソコン本体に周辺機器をつなぐと自動的に種類を認識して必要な設定を行う機構。

つなぐ(プラグ)だけですぐに使える(プレイ)ことから付いた呼び名です。

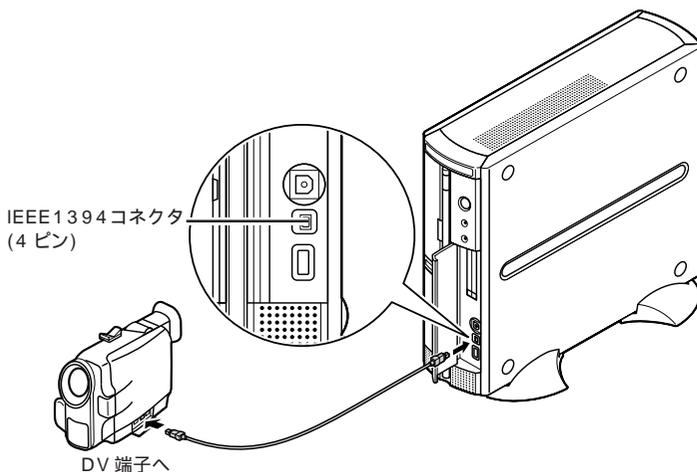
## IEEE 1394 対応機器 を接続する

ここでは、例としてデジタルビデオカメラをIEEE 1394  
コネクタに接続する方法を説明しています。

デジタルビデオカメラの接続は、IEEE 1394 ケーブルを使ってパソコン  
のIEEE 1394 コネクタとデジタルビデオカメラのIEEE 1394 コネクタ  
(DV 端子)を接続するだけです。

### デジタルビデオカメラを接続する

IEEE 1394 ケーブルでこのパソコンとデジタルビデオカメラを接続しま  
す。このパソコンには、本体前面に 1 つ、本体背面に 1 つ、合計 2 つの  
IEEE 1394 コネクタ(4 ピン)があります。



IEEE 1394 コネクタに接続できる周  
辺機器には、ほかに外付け用ハード  
ディスク、MO ディスクドライブな  
どがあります。

デジタルビデオカメラによっては、  
IEEE 1394 に対応した端子のことを  
DV 端子と呼びます。

### ✓チェック!!

- ・ DV 端子(4 ピン)とこのパソコン  
のIEEE 1394 コネクタ(4 ピン)を  
接続するには、別売のIEEE 1394  
ケーブルが必要です。
- ・ 接続の際にはプラグの向きやコネ  
クタのピン数に注意してください。  
また、接続の際には周辺機器に添  
付のマニュアルもご覧ください。

IEEE 1394 コネクタは、入力用、出  
力用といった 2 種類のコネクタには  
なっていません。デジタル信号の流  
れによって自動的に入出力が切り替  
わります。

次のホームページで、このパソコン  
で使える周辺機器を紹介しています  
ので、参考にしてください。

NEC のパソコン関連総合サイト  
「121ware.com」のアドレス  
(URL)

<http://121ware.com>

### IEEE 1394 対応機器を取り外すときの注意

IEEE 1394 対応機器によっては、機器を接続するとデスクトップ右下の  
タスクトレイにが表示されます。このような機器の取り外しは、をダ  
ブルクリックして表示される「ハードウェアデバイスの停止」ウィンドウ  
から行ってください。正しく取り外しが行われないと、パソコンが正常に  
動作しなくなることがあります。PART 2 の「周辺機器の取り外しと再接  
続」(p.25)をご覧ください。正しい手順で取り外しを行ってください。

# IEEE 1394 対応機器 をスマートに活用する

このパソコンでは、デジタルビデオカメラの映像をパソコンで編集したり、デジタルビデオ機器を管理したりできます。

## 映像を取り込んで編集する

デジタルビデオカメラの映像は、「VideoStudio」を使って取り込み、編集ができます。VideoStudioには、Video Wizardというウィザード形式で映像を取り込めるアプリケーションもあります。Video Wizardは、「スタート」ボタン「プログラム」「Ulead VideoStudio 4.0 SE Basic」「Ulead Video Wizard」をクリックして起動できます。



基本的にはこのボタンの順に沿って作業する

作業に必要な情報はここに表示される

## デジタルビデオ機器を簡易操作する

このパソコンに添付されているSmartGallery/BusBrainを使うと、次のようなことができます。

- ・ デジタルビデオカメラなどで録画した映像やビデオ映像を、パソコンの画面で見ることができ、デジタルビデオカメラなどの簡易操作ができます。
- ・ SmartGallery/BusBrainを使っているパソコンとIEEE1394機器が複数接続されているとき、どのパソコンがどの機器を使用しているかが分かります。また、自分が使用している機器を他のパソコンから操作されないように、機器の制御権(コネクション)を設定できます。
- ・ デジタルビデオカメラ同士で映像をダビングする際に、再生と録画を同期させてダビングできます。

参照

VideoStudioの詳しい使い方  添付ソフトの使い方 - 「VideoStudio」

チェック!!

SmartGallery/BusBrainを使うには、添付のアプリケーションCD-ROMからインストールします。

参照

- ・ SmartGallery/BusBrainのインストール方法  サポートセンター「アプリケーションの追加と削除」- 「SmartGallery/BusBrain」
- ・ SmartGallery/BusBrainの詳しい使い方  添付ソフトの使い方 - 「SmartGallery/BusBrain」  
SmartGallery/BusBrainのヘルプ

## デジタルビデオカメラの映像をインターネットで見る

このパソコンに添付されているビデオ登録君を使うと、デジタルビデオカメラの映像をインターネットに公開できます。インターネットに公開した映像は、他のパソコンで閲覧できます。ビデオ登録君について詳しくは、PART11の「インターネットで映像を楽しむ」(p.101)をご覧ください。



PART

# 5

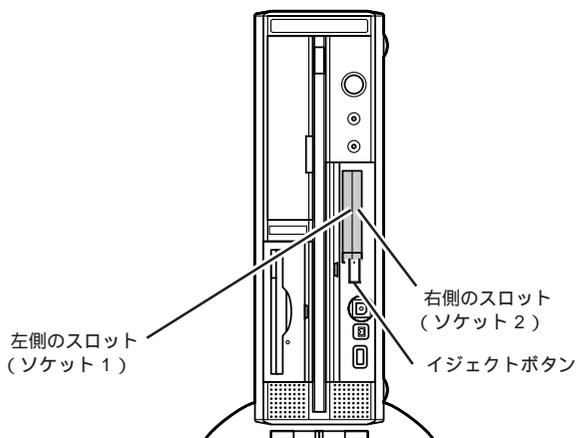
## PCカードを使う

PCカードは、クレジットカードを厚くしたような形をしている周辺機器です。PCカードは種類が豊富な上に、取り扱いやすく、パソコン側の設定も簡単にできるので、このパソコンの機能を手軽に拡張することができます。

# PCカードスロットについて

このパソコンにはPCカードスロットがあり、PC Card Standardに準拠したPCカードを使うことができます。

PCカードスロットは、PCカードをセットするためのスロットです。このパソコンには、図のように左右2つのPCカードスロットがあり、それぞれのスロットにTYPE またはTYPE のPCカードを1枚ずつ、または左右のスロットを合わせてTYPE のPCカードを1枚、セットして使用できます。



## CardBus 対応 PC カードについて

CardBus(カードバス)はPCカードの拡張仕様で、高速なデータ転送ができます。

このパソコンでは、CardBus対応のPCカードを、左右のスロットに1枚ずつ、計2枚同時に使用することができます。

## 参照

PCカードを使用するときの注意  
このPARTの「PCカードを使用するときの注意」(p.54)

PC Card Standard 準拠のPCカードは、カードの厚さによってTYPE、TYPE、TYPEの3種類に分けられます。

- ・TYPE のPCカード  
厚さ約 3.3mm
- ・TYPE のPCカード  
厚さ約 5.0mm
- ・TYPE のPCカード  
厚さ約 10.5mm

## チェック!!

- ・このパソコンではZVポート対応のPCカードは使用できません。PCカードを購入する際は注意してください。
- ・PCカード(LANカードを含む)を使用中は、休止状態またはスタンバイ状態にしないでください。購入時には、20分以上何も操作しないと自動的に休止状態になるように設定されていますので、自動的に休止状態にならないように設定し直してください。

## 参照

自動的に休止状態にならないように設定する PART10の「省電力の設定を変える」(p.96)

## PCカードの入れ方と出し方

PCカードは、パソコン本体の電源を入れたままの状態でも、PCカードスロットにセットできます。セットすると自動的に設定が始まり、設定が終わったら、すぐに使えます。

### ⚠ 注意



PCカードを取り出すときは、ゆっくりイジェクトボタンを押してください。

イジェクトボタンを強く押しすぎると、PCカードの取り出し口に指をぶつけてけがをする恐れがあります。

### ✔ チェック!!

PCカードは大変精密にできています。PCカードやPCカードスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- ・高温、多湿、低温の場所に放置しない
- ・濡らさない
- ・重いものを載せない
- ・ぶつけたり、落としたりして、衝撃を与えない
- ・曲げない
- ・PCカードの端子部分に金属などを入れない
- ・PC Card Standardに準拠していないカードを無理に押し込まない

## PCカードをセットする前に

- ・PCカードをセットする前に、このパソコンで使えるPCカードかどうかもう一度確認してください。
- ・PCカードをセットする前にイジェクトボタンが収納されているか確認してください。ボタンが飛び出したままの状態ではPCカードをセットすると、イジェクトボタンが収納できなくなります。
- ・PCカードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向も決まっています。このパソコンでは、PCカードの表面(ラベルの貼ってある面)を左に向けて差し込んでください。間違った向きでむりやり差し込むと、コネクタやスロットが破損する恐れがあります。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。
- ・コネクタが破損する恐れがありますので、PCカードを押し込むときに無理な力をかけないように注意してください。
- ・アプリケーションを使用中は、PCカードを差し込んだり、取り出したりしないでください。
- ・休止状態またはスタンバイ状態で、PCカードの抜き差しを行わないでください。休止状態またはスタンバイ状態時のデータが消えて、正常に復帰できなくなってしまうことがあります。

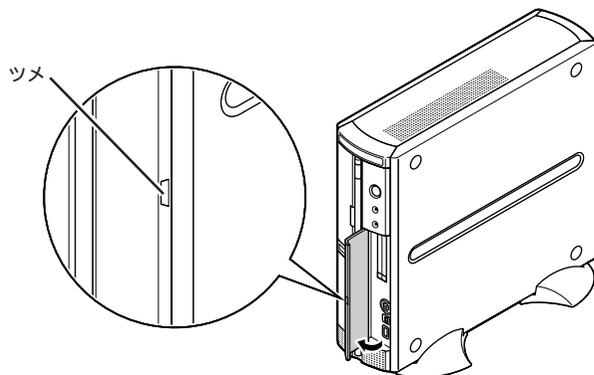
## PC カードをセットする

1

パソコンの電源が入っていること、すべてのアプリケーションが終了していることを確認する

2

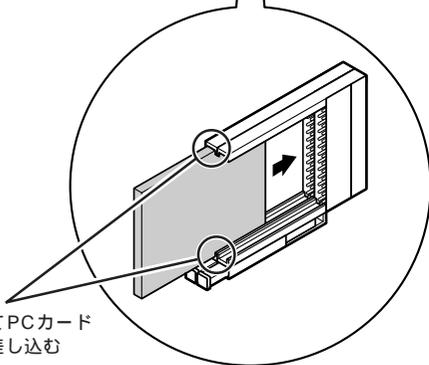
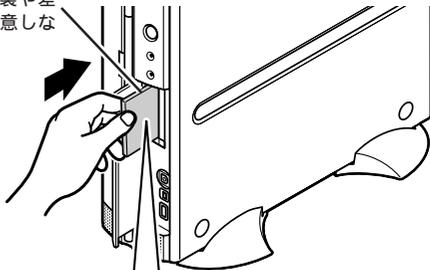
本体前面右側のカバーを開ける  
ツメに指を引っかけて、矢印の方向に開きます。



3

用意したPCカードを持ち、PCカードスロットにゆっくりとまっすぐ差し込み、

PCカードの表裏や差し込む向きに注意しながら、



ガイドに沿ってPCカードをまっすぐに差し込む

PCカードはパソコンの電源を入れたまま、抜き差しができます。

### ✓チェック!!

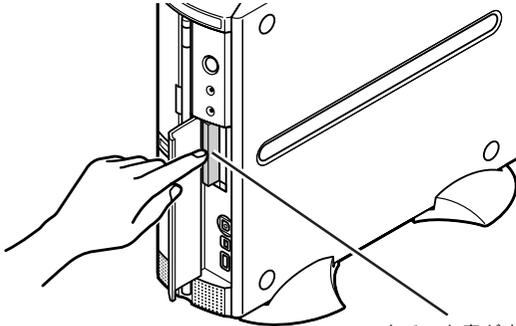
PCカードをセットする前に、このパソコンで使えるPCカードかどうかもう一度確認してください。

### ✓チェック!!

PCカードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向も決まっています(p.49参照)。間違った向きでむりやり差し込むと、コネクタやスロットが破損する恐れがあります。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。

4

PCカードの端を押して、PCカードがスロット内にすべておさまるようにセットする



カチッと音がするまで、  
PCカードを完全に押し  
込む

PCカードを差し込んでそのまま待っていると、  
自動的に画面の表示が切り替わり、Windows  
デスクトップの画面に戻る



PCカードの種類によっては、  
タスクトレイに  が追加される

## PCカードの設定

PCカードをPCカードスロットにセットすると、パソコンが自動的に設定を行い、すぐに使用可能な状態になります。

ただし、一度も使ったことのないPCカードをセットしたときは、設定が自動的には行われず、ドライバのインストールを行うための画面が表示されることがあります。この場合は、画面の指示にしたがって操作してください。詳しくはPCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

なお、この操作を一回行えば、次回以降そのPCカードを使うときは、セットしたらすぐに使えるようになります。

## PCカードのデータを見る

PCカードのデータは、デスクトップの「マイコンピュータ」の中のPCカードのデータが入っているドライブをダブルクリックすると表示されます。購入時の状態で他に周辺機器を取り付けていない場合は、Fドライブ



になります。なお、デスクトップの「マイドキュメント」の中の「My Pictures」フォルダ内に画像データを移動させると、縮小表示された画像を見ることもできます。また、データが入っているフォルダの設定を、「表示」・「縮小表示」で変更してもデータを一覧表示できます。

## ✓チェック!!

- ・使用するPCカードによっては、本体前面右側のカバーが閉まらないものがあります。
- ・イジェクトボタン付きのPCカードアダプタをPCカードスロットにセットしたときは、本体前面右側のカバーを閉めないでください。PCカードアダプタのイジェクトボタンが押され、アダプタに装着したメモ리카ード等が外れることがあります。
- ・コネクタが破損する恐れがありますので、PCカードを押し込むときに無理な力をかけないように注意してください。

## 📖参照

ドライバのインストールについて  
PART2の「ドライバなどをインストールする」(p.23)

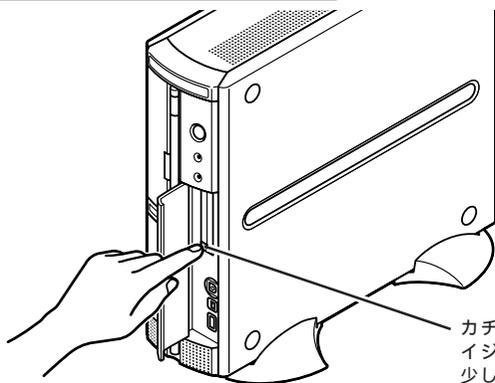
## PC カードを取り出す

1

「周辺機器の取り外しと再接続」(p.25)の手順 1 ~ 手順 6 を行う

2

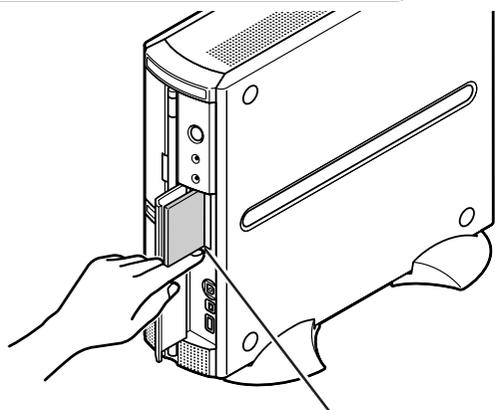
イジェクトボタンを軽く押す



カチッと軽く押すとイジェクトボタンが少し飛び出てくる

3

もう一度イジェクトボタンを押す



カチッと音がするまでイジェクトボタンをしっかりと押し込むとセットされていた PC カードが少し飛び出す

### ✓チェック!!

PCカードによっては、左の手順で取り出さないと、このパソコンが正常に動かなくなる可能性があります。必ず手順を守って取り外してください。

### ✓チェック!!

- ・ PC カードを 2 枚セットしたときは、同時に取り出さずに、1 枚ずつイジェクトボタンを押して取り出してください。
- ・ PC カードを 2 枚セットしている場合、イジェクトボタンを押すときに、手順 1 で指定した PC カードとソケット番号の対応を間違えないようにしてください。どちらのスロットが分からなくなったときは、「コントロールパネル」の「PC カード (PCMCIA)」で確認できます。

### 📖参照

PC カードスロットのソケット番号の確認 このPARTの「PCカードスロットについて」(p.48)

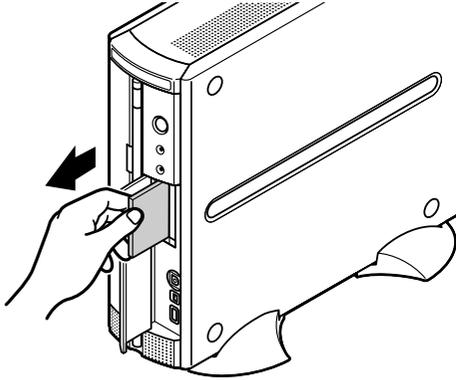
ボタンが飛び出した状態でイジェクトボタンを押し込むと、PCカードスロットにセットされていた PC カードが、少しだけ飛び出します。

### ✓チェック!!

イジェクトボタンは、カチッと音がするまでしっかり押し込んでください。

4

出てきたPCカードを、まっすぐに静かに引き抜く



5

本体前面右側のカバーを閉める  
「カチッ」と音がするまで押してください。

**✓チェック!!**

PCカードを取り出したときに「予期しないPCカードの取り外し」という画面が表示された場合は、「OK」をクリックしてください。

**✓チェック!!**

イジェクトボタンが出ている状態では、カバーを閉めることができません。

## PC カードを使用するときの注意

- ・ アプリケーションを使用中はPCカードのセットや、取り出しはしないでください。
- ・ 「PCカードを取り出す」( p.52 )の手順を行わずに、PCカードスロットからPCカードを取り外しても、警告が表示がされないことがあります。
- ・ PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できない場合があります。
- ・ このパソコンではZVポート対応のPCカードは使用できません。
- ・ マルチファンクションカード( LANとモデムなど2つの機能を兼ね備えたPCカード)とATAカードを同時に使用する場合は、右側のPCカードスロット(ソケット2)にマルチファンクションカードを、左側のPCカードスロット(ソケット1)にATAカードをセットしてください。
- ・ CardBus対応PCカードのドライバ組み込み中に例外エラーが発生することがあります。この場合は、Windowsを再起動すると、正常にドライバの組み込みができることがあります。
- ・ PCカードスロットにATAカードをセットにしているときにスタンバイ状態にすると、通常よりスタンバイ状態から復帰するのに時間がかかります。
- ・ 休止状態またはスタンバイ状態にするときには、必ずPCカードをPCカードスロットから取り外してください。
- ・ PCカード( LANカードを含む)を使う場合は、休止状態またはスタンバイ状態にしないでください。このパソコンは、購入時には20分以上何も操作しないと自動的に休止状態になるように設定されていますので、自動的に休止状態にならないように設定し直してください。
- ・ Windowsを起動している状態で、フラッシュATAカードやスマートメディア等のPCカード(PCMCIA接続のメモリカード)を2枚セットすると、2枚目のカードが利用できないことがあります。その場合は、PCカードを2枚ともセットしたまま、Windowsを再起動してください。再起動後に、2枚のカードを利用できるようになります。

### 参照

自動的に休止状態にならないように設定する PART10の「省電力の設定を変える」(p.96)

P A R T

# 6

## PCI ボードを使う

このパソコンには、ハードディスクなどの SCSI (スカジー) インターフェイス対応機器の増設に必要な SCSI インターフェイスボードをはじめ、いろいろな種類の PCI ボードを取り付けることができます。

# PCIボードについて

ここでは、このパソコンに取り付けることのできるPCIボードについて簡単に説明します。

## いろいろなPCIボード

PCIボードには、主に次のようなものがあります。

### SCSI インターフェイスボード

このパソコンにハードディスクなどのSCSIインターフェイス対応機器を接続するためのボードです。

### LAN(ネットワーク)ボード

このパソコンをLANに接続するためのボードです。

### 3D グラフィックアクセラレータボード

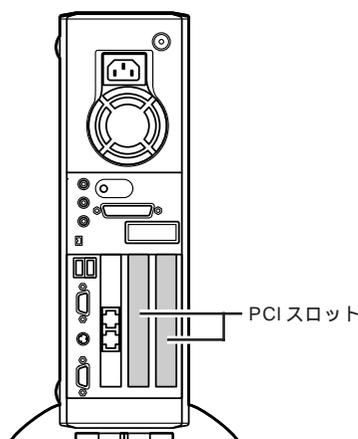
3DCG(立体的なコンピュータグラフィックス)の表示を高速にするボードです。

PCIボードは、ここで紹介しているものの他にもいろいろなメーカーから、多種多様な機能を持つものが発売されています。

これらのPCIボード購入時には、必ずこのパソコンで動くかどうかメーカー、ご購入元に確認してください。

## PCIスロット

このパソコンでは、下の図のように、2つ(LANモデルを除く)のPCIスロットを使用できます。スロットにはハーフサイズのPCIボードを取り付けることができます。



### 参照

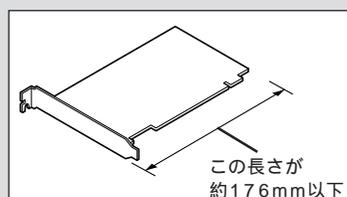
SCSI インターフェイス対応機器  
「PART8 SCSIインターフェイス対応機器を使う」(p.69)

### チェック!!

1Mバイト空間のメモリリソースを使用するPCIボードは、正常に動作しない場合があります。

### チェック!!

- ・LANモデルでは、PCIスロットを1つ使用できます。
- ・このパソコンには、フルサイズのPCIボードは取り付けられません。
- ・ハーフサイズのPCIボードであっても特殊な形状のボードは取り付けられないことがあります。ハーフサイズのPCIボードとは、次のような大きさのボードのことです。



# PCI ボードの取り付け と取り外し

ここでは、このパソコンにPCIボードを取り付ける方法と取り外す方法を説明します。

## ⚠ 注意



PCIボードの取り付けや取り外しを行うときは、指をぶつかけたり、切ったりしないように注意してください。

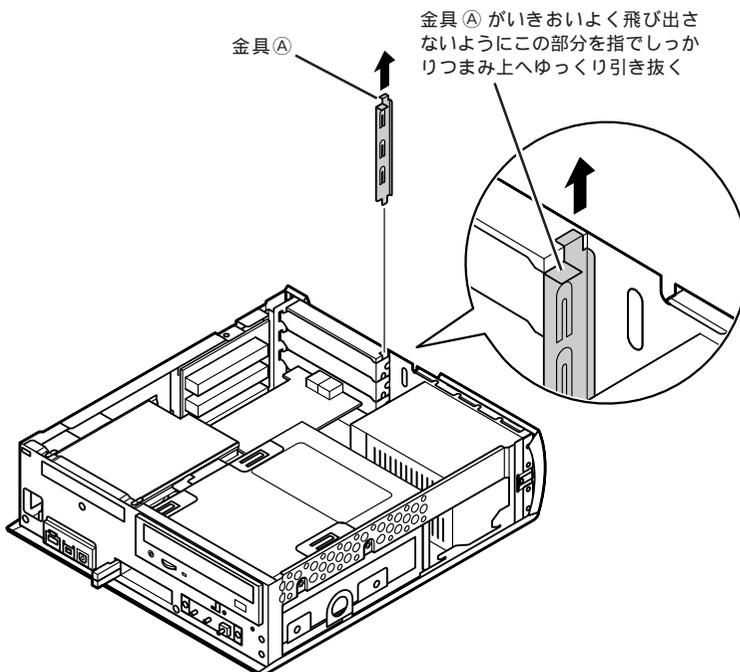
## PCI ボードの取り付け方

1

正しい手順で本体のルーフカバーを外す

2

下の図のように金具①を上へ引き抜くようにして取り外す



## ✔ チェック!!

以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。

PCIボードを取り付けるときには、必ずPCIボードに付属のマニュアルもご覧ください。

## 📖 参照

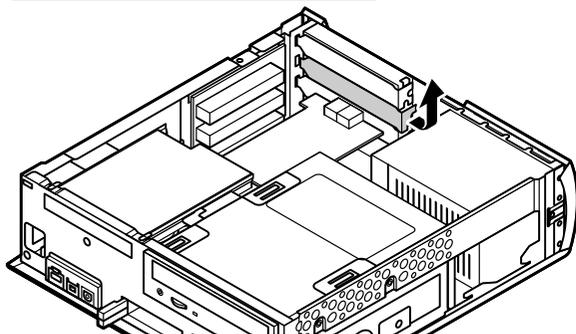
ルーフカバーの外し方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

## ✔ チェック!!

- ・金具①を取り外すときは、指をぶつかけたり、切ったりしないように注意してください。
- ・電源ケーブルやディスプレイのケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。
- ・机やテーブルを傷つけないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。
- ・標準で取り付けられているPCIボードを取り外して、別のPCIボードを取り付けた場合はサポートの対象外になります。
- ・標準で取り付けられているFAXモデムボードは、購入時に取り付けられていたスロットで使用してください。

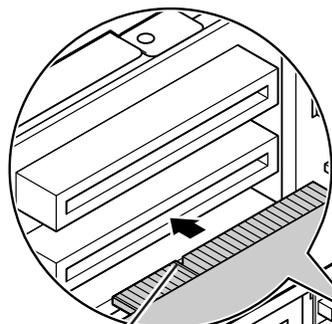
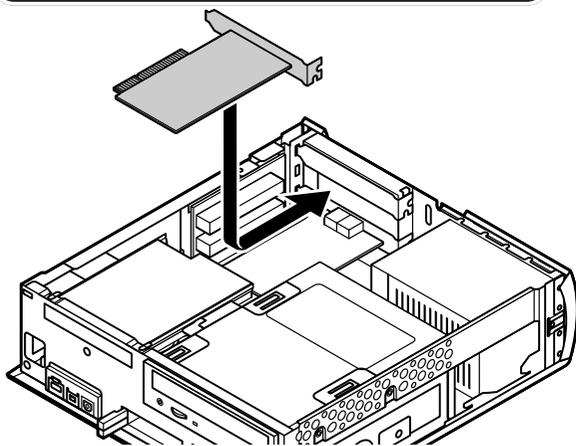
3

スロットカバーを取り外す



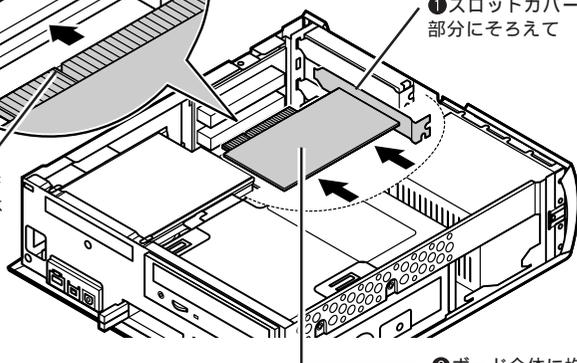
4

PCIボードを、両手で支えながらスロットに慎重に差し込む



② PCIボードのツメを本体にひっかけて

① スロットカバーの部分にそろえて



③ ボード全体に均等に力を加えて強く押し込むようにすると

### ✓チェック!!

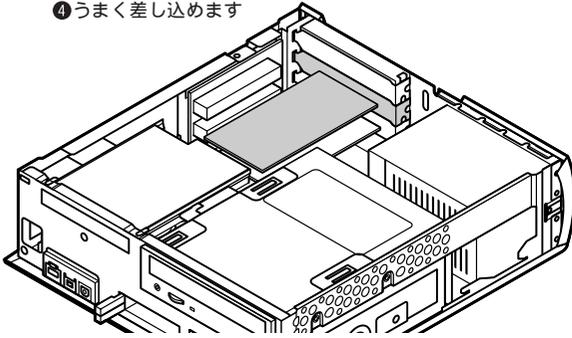
- ・スロットカバーは、ここで取り付けられたボードを取り外さないかぎり、不要となりますが、なくさないように大切に保管してください。
- ・PCIボードを持つときは、ボード上の部品やツメ(端子)部分に触れないように注意してください。

PCIボードをしっかりと差し込むには、強い力が必要です。ボードのツメの先端がPCIスロットにきちんと合っていれば壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。また、そのときに指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。

### ✓チェック!!

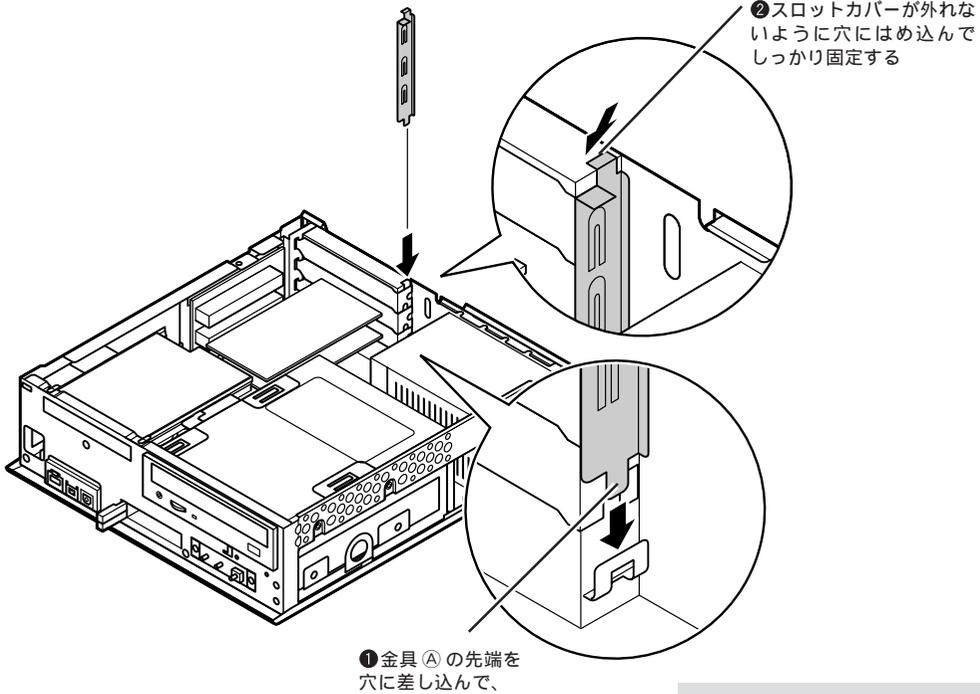
しっかりと差し込んでおかないと、故障の原因になります。

④ うまく差し込みます



5

手順2で外した金具Aを使って、PCIボードを固定する



6

正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

PCIボードによっては、ボードの取り付け後、パソコン側で設定作業が必要なものもあります。詳しくは、PCIボードに付属のマニュアルをご覧ください。また、PCIボードの使い方についても、PCIボードに付属のマニュアルをご覧ください。

参照

ルーフカバーの取り付け方 PART2  
の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

## PCIボードの取り外し方

PCIボードの取り外しは、PCIボードの取り付けと逆の手順で行ってください。

### **チェック!!**

FAXモデムボードも、PCIボードと同じ方法で取り付けられています。FAXモデムボードの取り付け、取り外しは、PCIボードと同じように行うことができます。

P A R T

# 7

## メモリを増やす

メモリは、パソコンで作業をするときの「作業机」のようなものです。机の上が広いと作業がしやすいのと同じように、メモリの量が多いとパソコンの「作業机」も広くなり処理がしやすくなります。一度に複数のアプリケーションを使っているときなどに、パソコンの処理速度が遅いと感じるようであれば、メモリを増やしてみましょう。

# メモリを増やすには

このパソコンでメモリを増やすときは、別売の「増設 RAM サブボード」というボードを、専用のコネクタに取り付けます。

## どのくらいメモリを増やすかを定める( p.63 )

このパソコンでは、最大 512M バイトまで増やせます。

## 必要なものを準備する

必要な増設 RAM サブボード等を準備します。

## 増設 RAM サブボードを 取り付ける( p.64 )

本体のルーフカバーを取り外し、用意した増設 RAM サブボードを専用のコネクタに取り付けます。取り付けたらルーフカバーを元に戻します。

## メモリが増えたかどうか確認する( p.67 )

本体の電源を入れて、増やしたメモリがこのパソコンで使えるようになっているかどうか確認します。

## このパソコンで使える増設 RAM サブボード

パソコンのメモリを増やすときには、「増設 RAM サブボード」というボードを使います。

このパソコンでは、「DIMM」と呼ばれるタイプの次のような増設 RAM サブボードを使うことができます。

型名	メモリ容量
PK-UG-M031	64M バイト(PC133)
PK-UG-M032	128M バイト(PC133)
PK-UG-M033	256M バイト(PC133)

DIMM(ディム)は、Dual Inline Memory Moduleの頭文字をとったものです。

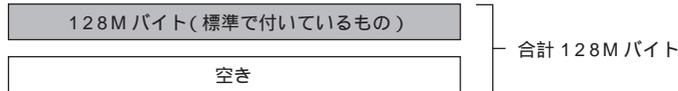
### ✓チェック!!

このパソコンでは、「SIMM(シム)」と呼ばれるタイプの増設 RAM サブボードは使用できません。間違って購入しないように注意してください。

## メモリの増やし方の例

このパソコンには、増設RAMサブボード(DIMM)を差し込むコネクタ(スロット)が、2つ用意されています。標準では、この内の1つのコネクタに64Mバイトまたは128MバイトのRAMサブボードが付いています。

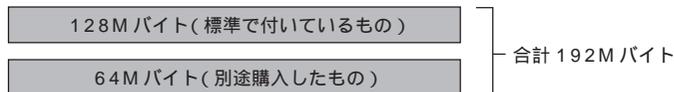
ここでは、標準で128MバイトのRAMサブボードが付いている場合を例に、メモリの増やし方を説明します。



空いている残りの1スロットに、増設RAMサブボードを追加することで、メモリを増やします。また、標準で付いているRAMサブボードを取り外して、より大きな容量の増設RAMサブボードに取り替えることも可能です。メモリは、最大で512Mバイト(256Mバイトの増設RAMサブボード×2枚)まで増やすことができます。

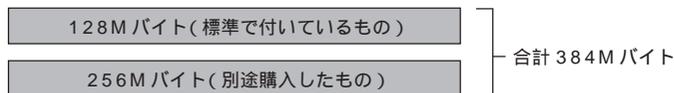
### ・例1: 192Mバイトにする場合

空いているコネクタの1つに64Mバイトの増設RAMサブボードを追加すれば、標準で付いている128Mバイトのメモリと合わせて192Mバイトにすることができます。



### ・例2: 384Mバイトにする場合

256Mバイトの増設RAMサブボードを1枚追加します。



### ・例3: 512Mバイト(最大)にする場合

標準で付いているRAMサブボードを外し、256Mバイトの増設RAMサブボードを2枚追加します。



増設RAMサブボードに対して、パソコンに最初から取り付けられているメモリのことを「RAMサブボード」といいます。

実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より0.4Mバイト少ない値になります。

### ✓チェック!!

メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した標準のRAMサブボードは大切に保管してください。

# 増設RAMサブボードの取り付けと取り外し

ここでは、増設RAMサブボード(RAMサブボード)の取り付け方と、取り外し方を説明します。

## ⚠ 注意



発火注意

増設RAMサブボードは以下の手順に従って正しく取り付けてください。

正しく取り付けられていないと、発煙、火災の原因となります。



けが注意

増設RAMサブボードの取り付けや取り外しを行うときは、指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。

## ボードを取り扱うときに気をつけること

増設RAMサブボードおよび標準で付いているRAMサブボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態でこれらのボードに触れると、ボードが破損する原因となります。ボードに触れる前に、身近な金属(アルミサッシやドアのノブなど)に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。

## 増設RAMサブボードの取り付け方

1

正しい手順で本体のルーフカバーを外す

## ✓ チェック!!

以降の手順では、本体のカバーを開けて作業します。

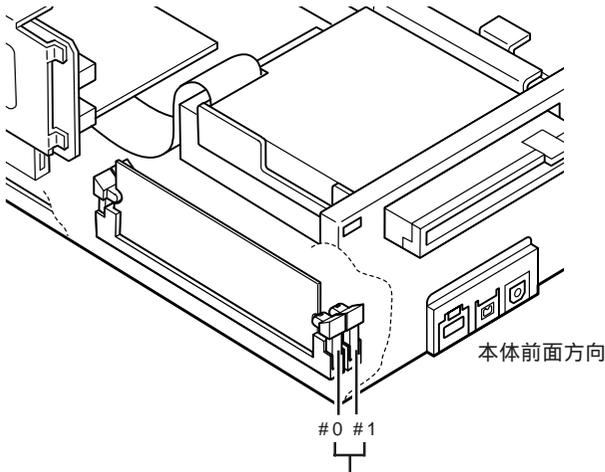
## 📖 参照

ルーフカバーの外し方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

## ✓ チェック!!

電源ケーブルやディスプレイケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。

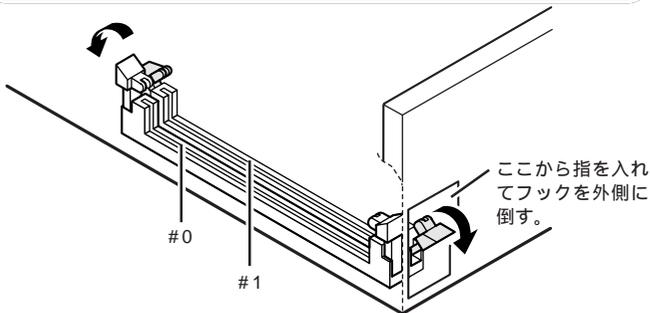
ここで、増設RAMサブボード用のコネクタの位置を確認しておいてください。



ここに増設RAMサブボード用コネクタがあります。本体外側に近い方から、#0、#1と呼びます。

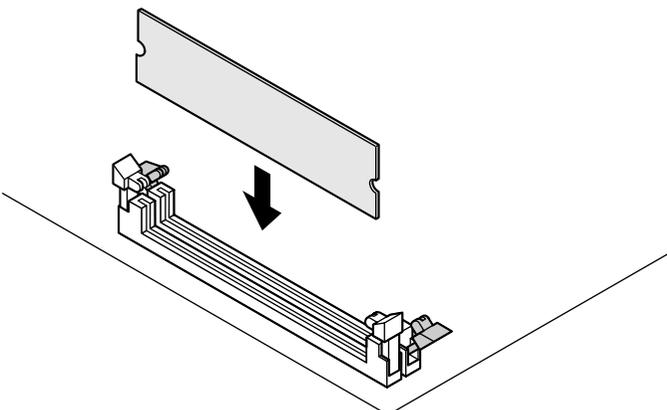
2

ボードを差し込むコネクタの両側のフックを外側に開く



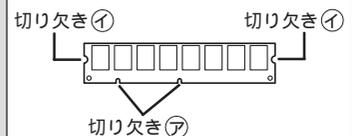
3

切り欠き㊦の方向とコネクタの溝の位置が合うように、空いているコネクタにボードを垂直に差し込む



左の図にはありませんが、実際には2つあるコネクタのうち、#0(本体外面に近い方)のコネクタには、標準でRAMサブボードが差し込まれています。1に増設RAMサブボードを取り付けるときは、0のRAMサブボードを一度抜くと作業しやすくなります。その場合、1に増設RAMサブボードを取り付けた後、再び0にRAMサブボードを取り付けてください。

増設RAMサブボードは、両手で持ってください。



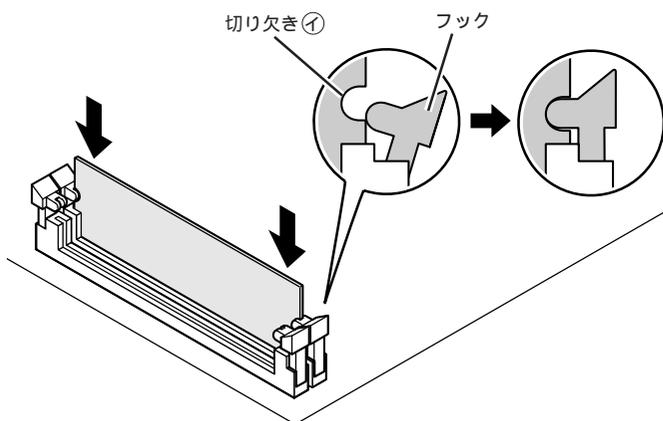
コネクタの溝とボードの切り欠き㊦の位置を確認してから差し込んでください。

☑️ **チェック!!**

- ・増設RAMサブボードの端子部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ・ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

4

そのまま垂直方向に力を加え、コネクタ両側のフックが切り欠き①に引っかかるまで、強く押し込む



5

正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

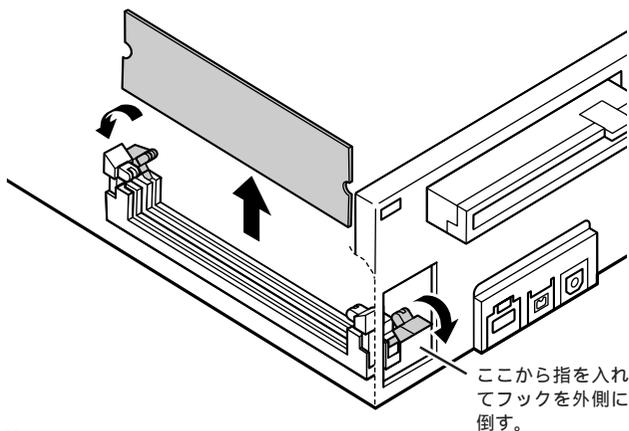
## RAM サブボードの取り外し方

1

正しい手順で本体のルーフカバーを外す

2

取り外したいボードの両側のフックを外側に開き、ゆっくりと、ボードを垂直に引き抜く



3

正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

増設 RAM サブボードを奥までしっかり差し込むには、強い力が必要です。手順 3 で差し込んだときに切り欠き①をコネクタの溝に正しく合わせてあれば、壊れることはありませんので、強く押し込むようにしてください。また、その際に、指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。

### ✓チェック!!

しっかり差し込んでおかないと、故障の原因になります。

### 📖参照

ルーフカバーの取り付け方 PART2 の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

### 📖参照

ルーフカバーの外し方 PART2 の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

### ✓チェック!!

電源ケーブルやディスプレイケーブルなど、本体に接続されているケーブルは本体からすべて取り外してください。

左の図にはありませんが、実際には 2 つあるコネクタのうち、#0 (本体外面に近い方) のコネクタには、標準で RAM サブボードが差し込まれています。#0 の RAM サブボードも同じ方法で取り外せます。

### ✓チェック!!

- ・フックを開きすぎて破損してしまわないように気をつけてください。
- ・メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した増設 RAM サブボードおよび標準で付いている RAM サブボードは、大切に保管してください。

### 📖参照

ルーフカバーの取り付け方 PART2 の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

# 増やしたメモリを確認する

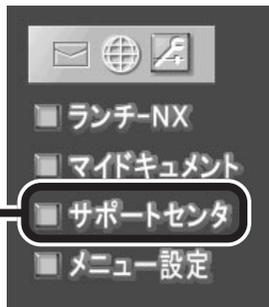
パソコンの電源を入れてみて、増やしたメモリが本当に使えるようになったかどうかを確認します。

## 確認のしかた

1

### サポートセンタを起動する

アクティブメニュー-NXの「サポートセンタ」をクリックします(キーボードの【サポート】ボタンを押して起動することもできます)。



「サポートセンタ」の画面が表示されます。

メモリはWindows Meの「システム情報」からも確認することができます。  
(「スタート」-「プログラム」-「アクセサリ」-「システムツール」-「システム情報」)

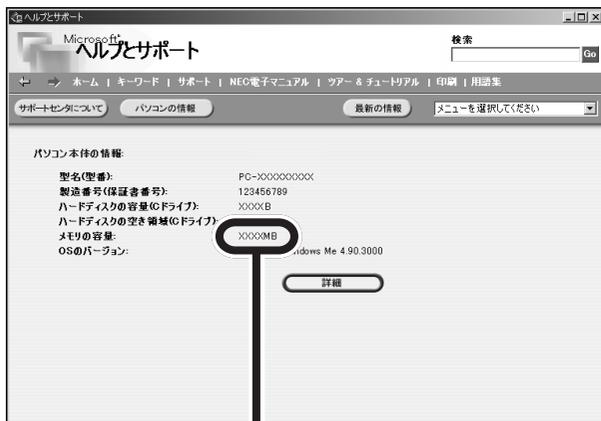
2

### 「パソコンの情報」をクリック



3

## メモリ容量を確認する



ここに表示されたメモリ容量を確認する  
(ここでは、増やした後の全メモリ容量(標準で入っている容量 + 増設した容量)が表示されます)

## メモリが増えていなかったら

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合には、次のことを確認してください。

**メモリが正しく取り付けられているか？**

**このパソコンで使える増設 RAM サブボードを取り付けているか？**

### ✓チェック!!

- ・ここでは、増やした後の全メモリ容量より数 M バイト少なく表示される場合がありますが故障ではありません。
- ・メモリを増設した場合、初期化のため、電源投入後にディスプレイの画面が表示されるまで時間がかかることがあります。

P A R T

# 8

## SCSI インターフェイス対応機器を使う

このパソコンで SCSI (スカジー) 機器を使うには、PCI スロットに対応した SCSI インターフェイスボードまたは PC カードタイプの SCSI カードが必要です。ここでは、SCSI の基礎知識、SCSI インターフェイスボードの取り付け方、SCSI インターフェイス対応機器を接続する方法を説明します。

# SCSI 機器を使うには

このパソコンで SCSI 機器を使うには、PCI スロット対応の SCSI インターフェイスボードまたは PC カードタイプの SCSI カードを取り付ける必要があります。ここでは、PCI スロット対応の SCSI インターフェイスボードの取り付け方について説明します。

SCSI 機器の接続は、次のような手順で行います。

## 必要なものを用意する( p.73 )

SCSI 機器のほかに、PCI スロット用の SCSI インターフェイスボードや SCSI ケーブル、ターミネータなどが必要です。

## 本体に SCSI インターフェイスボードを取り付ける( p.74 )

本体のカバーを開けて、PCI スロットに SCSI インターフェイスボードを取り付けます。

## SCSI 機器をボードの SCSI コネクタに接続する( p.75 )

各機器の SCSI ID を設定したら、ボードの SCSI コネクタに、SCSI ケーブルを使って接続します。

## SCSI 機器の電源を入れる

## パソコン本体の電源を入れる

### ✓チェック!!

SCSI インターフェイスを使って機器を接続した場合は、パソコンを休止状態にできません。SCSI 機器をご利用になる場合は、パソコンが自動的に休止状態にならないように設定を変更してください。

### 📖参照

自動的に休止状態にならないように設定を変更する PART10の「省電力の設定を変える」(p.96)

### ✓チェック!!

SCSI カードは CardBus 対応のものをお使いください。

SCSI カードの取り付け方は、一般の PC カードと同様です。

### 📖参照

SCSI カードを取り付ける PART5の「PC カードの入れ方と出し方」(p.49)

### 📖参照

SCSI ID この PART の「SCSI ID について」(p.72)

# SCSI インターフェイスについて

ここでは、SCSI インターフェイスを使って周辺機器を接続するとき、覚えておいて欲しいことを説明します。

## ✓チェック!!

SCSI インターフェイスを使って機器を接続した場合は、パソコンを休止状態にできません。SCSI 機器をご利用になる場合は、パソコンが自動的に休止状態にならないように設定を変更してください。

## 📖参照

自動的に休止状態にならないように設定を変更する PART10の「省電力の設定を変える」(p.96)

## 接続できる SCSI 機器

SCSI インターフェイスを使って接続できる機器には、次のようなものがあります。

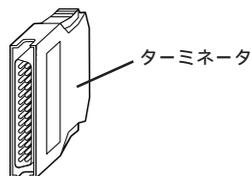
- ・ハードディスク
- ・CD-ROM ユニット
- ・DVD-RAM ドライブ
- ・DVD-ROM ドライブ
- ・CD-R/RW ドライブ
- ・MO ディスク(光磁気ディスク) など  
ドライブ
- ・PD ユニット
- ・Zip ドライブ
- ・ミニカートリッジテープユニット
- ・カセット磁気テープユニット
- ・イメージスキャナ

## SCSI に関する基礎知識

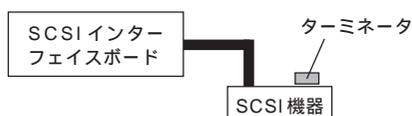
### SCSI 機器の接続方法について

SCSI 機器は、「デジーチェーン」と呼ばれる「数珠つなぎ」のような形式で、複数(最大7台)の機器をつなぐことができます。

また、その終端となる SCSI 機器には「ターミネータ」と呼ばれる装置を付けることになっています。



SCSI 機器が 1 台の場合



SCSI 機器が 3 台の場合



ターミネータは、「終端BOX」とも呼ばれます。

SCSI 機器によっては、ターミネータ機能を内蔵しているものもあります。使用する SCSI 機器のマニュアルをよくご覧になり、正しく設定してください。

## SCSI ID について

SCSI機器は、SCSI IDという0～7の認識番号で区別します。このSCSI IDが重複すると、SCSI機器が正常に動作しなくなりますのでご注意ください。

通常、SCSIインターフェイスボード自身が7番を使用します。一般的に、外付けのSCSI機器のSCSI IDは0～6番を使います。また、通常、0番はSCSIハードディスクで使います(その他の機器でも0番を使えないわけではありません)。

## SCSI 機器接続ケーブルの長さについて

複数のSCSI機器を接続するとき、ケーブルの総延長が3m以内になるようにしてください。

## SCSI インターフェイスの種類

現在一般に使われているSCSIインターフェイスの規格には、次の4種類があります。

- ・SCSI インターフェイス
- ・SCSI-2 インターフェイス
- ・Ultra SCSI インターフェイス
- ・Ultra Wide SCSI インターフェイス

SCSI-2 インターフェイスは、SCSI インターフェイスのデータ転送速度を2倍にしたものです。また、Ultra SCSI インターフェイスは、SCSI インターフェイスのデータ転送速度を4倍に、Ultra Wide SCSI インターフェイスは、SCSI インターフェイスのデータ転送速度を8倍にしたものです。

それぞれ、対応したインターフェイスボード、SCSI機器、ケーブルがあります。SCSIインターフェイスで、SCSI-2インターフェイスに対応した機器を使うことはできませんが、SCSI-2インターフェイスで、SCSIインターフェイスに対応した機器を使うことはできます。

### **チェック!!**

Ultraに設定したUltra SCSIインターフェイス対応機器を4台以上接続する場合は、ケーブルの総延長が1.5m以内になるようにしてください。

ケーブルの総延長は取り付ける機器などによって異なります。ボードや機器のマニュアルで確認してください。

## 用意するもの

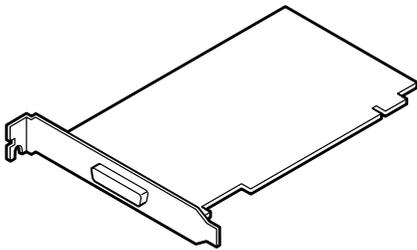
市販のSCSIインターフェイスボードやSCSI機器接続ケーブルなどが必要になります。あらかじめ用意しておきましょう。

### 接続する SCSI 機器とそのマニュアル

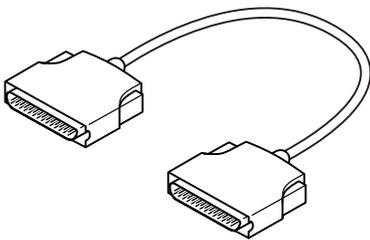
#### SCSI インターフェイスボード

PCIスロットに対応したSCSIインターフェイスボードが1つ必要です。このパソコンで使用できるSCSIインターフェイスボードには、次のようなものがあります。

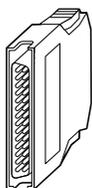
- ・Ultra SCSI インタフェースボード(Wide 対応)(PK-UG-X007)
- ・Ultra SCSI インタフェースボード(PK-UG-X014)



#### SCSI 機器接続ケーブル



#### ターミネータ(終端BOX)



このパソコンで使用できるのは、「ハーフサイズ」のSCSIインターフェイスボード(長さが約176mm以下のもの)です。

また、SCSIカードを使うこともできます。SCSIカードはPCカードスロットに差し込みます。

#### 📖 参照

ハーフサイズ PART6の「PCIスロット」(p.56)

#### ✔️ チェック!!

SCSI機器接続ケーブルは、プラグ部分の形状やケーブルの長さ、対応しているSCSIインターフェイス規格の違いによって、いくつかの種類があります。ボードや機器に添付のマニュアルを参照して、適切なケーブルを用意してください。

#### 📖 参照

SCSIインターフェイスの種類 前ページの「SCSIインターフェイスの種類」

ターミネータ(終端)機能を内蔵しているタイプのSCSI機器を接続するときは、ターミネータ(終端BOX)は不要です。詳しくは、SCSI機器に添付のマニュアルをご覧ください。

# SCSI インターフェイスボードを取り付ける

SCSI インターフェイスボードは、パソコン本体の PCI スロットに取り付けます。取り付け方は、一般の PCI ボードと同様です。

## ⚠ 注意



けが注意

PCI ボードの取り付けや取り外しを行うときは、指をぶついたり、切ったりしないように注意してください。

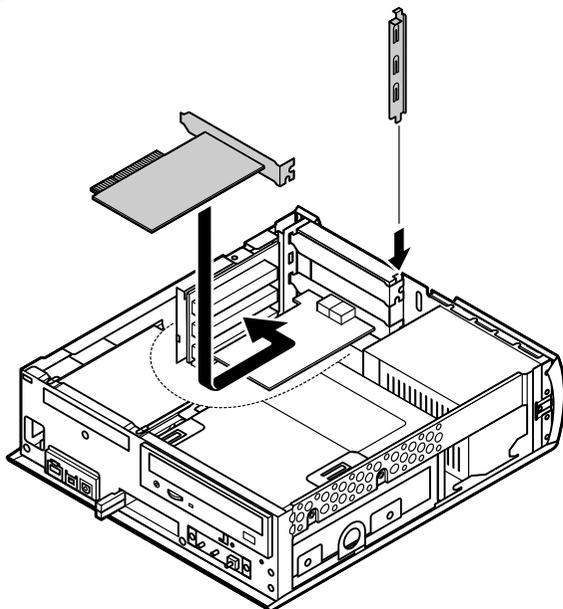
1

正しい手順で本体のルーフカバーを取り外す

2

正しい手順で、SCSI インターフェイスボードを PCI スロットに取り付ける

PCI スロットの-slot カバーを取り外してから、SCSI インターフェイスボードをスロットに慎重に差し込み、固定します。



3

正しい手順で本体のルーフカバーを取り付ける

## ✔ チェック!!

SCSI インターフェイスボードを取り付ける際は、本体のカバーを開けて作業します。



参照

ルーフカバーの外し方 PART2 の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

## ✔ チェック!!

電源ケーブルやディスプレイケーブルなど本体背面に接続されているケーブルは、本体からすべて取り外してください。

机やテーブルを傷つけないように、下に厚手の紙や布などを敷いておくことをおすすめします。



参照

ボードの取り付け方について詳しくは「PART6 PCI ボードを使う」(p.55)

## ✔ チェック!!

SCSI インターフェイスボードは、しっかり差し込んでください。しっかりと差し込んでおかないと故障の原因になります。

SCSI インターフェイスボードを取り付けるときには、必ず SCSI インターフェイスボードに添付のマニュアルもご覧ください。



参照

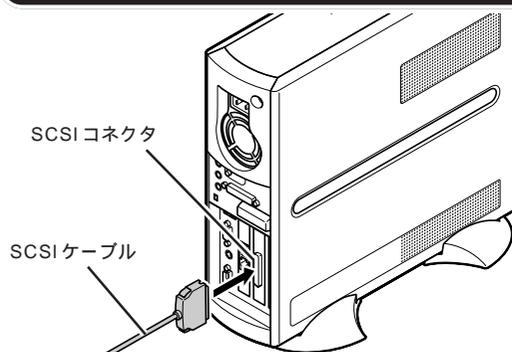
ルーフカバーの取り付け方 PART 2 の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

# SCSI 機器を接続する

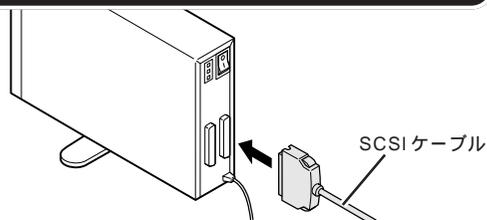
SCSI 機器は次のように接続します。

1 SCSI 機器の SCSI ID を設定する

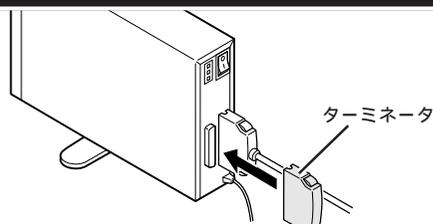
2 本体に取り付けた SCSI インターフェイスボードの SCSI コネクタに SCSI ケーブルのプラグを差し込む



3 SCSI 機器の SCSI コネクタに、SCSI ケーブルのもう一方のプラグを差し込む



4 SCSI 機器の残りの SCSI コネクタに、ターミネータを差し込む



SCSI ID の設定方法については、各 SCSI 機器に添付のマニュアルをご覧ください。

## ☑チェック!!

- ・接続はパソコン本体と SCSI 機器の電源を切ってから行ってください。
- ・SCSI ケーブルのコネクタは、逆向きに差し込めないようになっていきます。向きをよく確認して、無理に押し込まないようにしてください。

コネクタによっては、左右のフックでコネクタが外れないように固定することができます。このようなフックがある場合には、必ず固定するようにしてください。

SCSI 機器の SCSI コネクタは通常 2 つ用意されています。どちらのコネクタを使っても構いません。

複数の SCSI 機器を接続する場合には、ターミネータのかわりにもう 1 本の SCSI ケーブルを差し込み、数珠つなぎの方法で SCSI 機器を接続していきます。そして終端となる機器にターミネータを差し込みます。

# SCSI 機器がうまく動かないときは

取り付けた SCSI 機器が認識されないときには、次の点をチェックしてみてください。

## 電源を入れる順序は正しいですか？

SCSI インターフェイス対応機器を取り付けたときは、本体の電源を入れる前に SCSI 機器の電源を入れておかないと、本体の起動時に認識されません。電源を入れる順序をまちがっていた場合は、一度、本体の電源を切ってから SCSI 機器の電源を入れ、その後でもう一度本体の電源を入れ直してください。

## ケーブルがきちんと接続されていますか？

見落としがちなことですが、パソコンを移動したときなど、ケーブルが外れかかっていたりすることがよくあります。SCSI インターフェイスボードと各機器、または各機器どうしを接続しているケーブルやターミネータが、きちんと接続されているかどうか、確認してください。

## ケーブルが長すぎませんか？

また、SCSI インターフェイスや機器に対応したケーブルを使っていますか？

SCSI-2 のデジチェーンには、ケーブルの総延長が 3m 以内という制限があります。短いケーブルなどを使って、制限を超えない総延長にしてください。また、SCSI ケーブルは取り付ける SCSI 機器のインターフェイスによって使用できるケーブルが異なります。機器のコネクタの形をよく確認して適したものを使用してください。機器によっては変換アダプタが必要な場合もあります。

## SCSI インターフェイスボードは認識されていますか？

SCSI インターフェイスボードのリソースの設定、ドライバの組み込みが正しくできていない場合、SCSI インターフェイスボードが認識されません。「コントロールパネル」の「システム」の「デバイスマネージャ」で確認してください。正しく認識されていない場合には、SCSI インターフェイスボードのところに、赤い「×」や黄色い「！」のマークが表示されます。

## SCSI ID の設定は正しくできていますか？

複数の機器で同じ番号を設定していたりすると、各機器を認識できません。各機器の SCSI ID の設定を確認してください。

### 参照

使用できるケーブルについて  
SCSI インターフェイスボードのマニュアル、SCSI インターフェイス対応機器のマニュアル

### 参照

正しく認識されない場合の対処   
「サポートセンター」-「トラブル解決 Q&A」-「周辺機器」または Windows の「ヘルプとサポート」

## 9

## ハードディスクを増設する

データをたくさん保存したり、多くのアプリケーションをインストールしていくと、だんだんハードディスクがいっぱいになってきます。もっとたくさんの容量が必要な場合はハードディスクを増設します。このパソコンでは、ハードディスクは外部機器として接続します。

# ハードディスクを増設するには

このパソコンにハードディスクを増設する方法はいくつかありますが、ここでは、PCIスロット対応のSCSIインターフェイスボードを使って、本体の外側に設置するタイプのハードディスクを接続する手順を説明します。

## 必要なものを用意する( p.79 )

ハードディスクに添付のマニュアルを読み、スイッチなどの設定が必要ならば設定しておきます。パソコン本体の電源は切っておきます。また、SCSIインターフェイスボードやSCSI機器接続ケーブルが必要です。

## 本体にSCSIインターフェイスボードを取り付ける( p.80 )

本体のPCIスロットに、SCSIインターフェイスボードを取り付け、使用可能な状態にします。

## 増設ハードディスクをボードのSCSIコネクタに接続する( p.80 )

取り付けたSCSIインターフェイスボードのコネクタに、SCSI機器接続ケーブルを使ってハードディスクを接続します。

## 増設ハードディスクの電源を入れる

## パソコン本体の電源を入れる

## ハードディスクをフォーマットする

パソコンの電源を入れて、増設したハードディスクをフォーマットします。詳しくはハードディスクに添付のマニュアルで確認してください。

### ☑チェック!!

- ・このパソコンでは、本体に内蔵するタイプのハードディスクは増設できません。
- ・標準で本体に内蔵されているハードディスクを交換すると、サポートの対象外となります。

### 📖参照

SCSIインターフェイスボードの取り付け 「PART8 SCSIインターフェイス対応機器を使う」(p.69)

### 📖参照

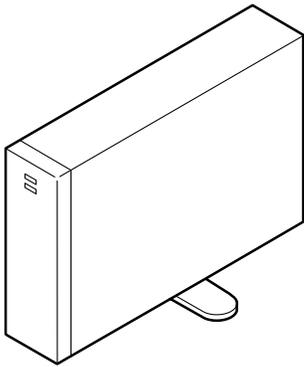
フォーマットのしかた ハードディスクに添付のマニュアル

## 用意するもの

作業を始める前に、あらかじめ、市販の外付け用ハードディスクやSCSIインターフェイスボードなどを購入して、用意しておきます。

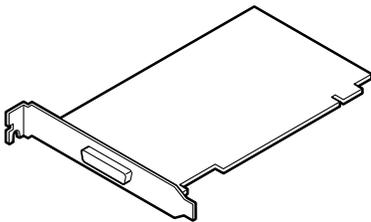
### ハードディスク

市販の「SCSIインターフェイス対応」の外付け用ハードディスクを用意します。容量や性能、大きさ、形などの違いにより、さまざまな種類のハードディスクがありますので、用途に合わせて、適切なものを選びましょう。



### SCSI インターフェイスボードなど

ハードディスクをパソコン本体に接続するために、市販のSCSIインターフェイスボードやSCSI機器接続ケーブル、ターミネータ(終端BOX)などが必要です。PART8の説明や機器に添付のマニュアルをご覧ください。SCSIインターフェイスボードには、PCカードスロットにセットできるタイプ(SCSIカード)もあります。



### ハードディスクやボードのマニュアル

ハードディスクとSCSIインターフェイスボードの組み合わせによっては、うまく接続できなかったり、専用の変換コネクタが必要になったりするので、購入する前にお店で確認してください。

#### 参照

SCSIインターフェイスボードの取り付け「PART8 SCSIインターフェイス対応機器を使う」(p.69)

# 本体にハードディスクを接続する

パソコン本体に SCSI インターフェイスボードを取り付けた後で、ボードの SCSI コネクタにハードディスクを接続します。

1

本体とハードディスクの電源が切れていることを確認する

2

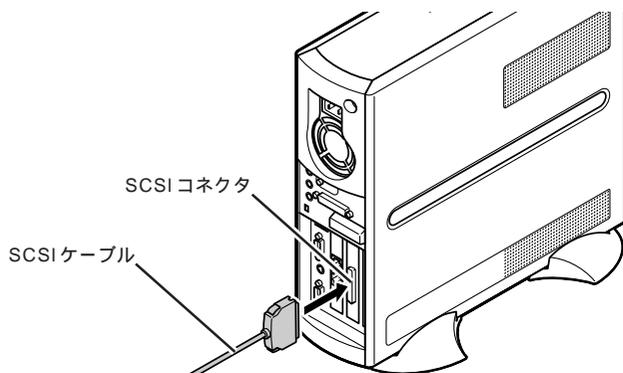
正しい手順で、本体に SCSI インターフェイスボードを取り付け、必要な設定を行う

3

接続しようとするハードディスクの SCSI IDを確認し、必要ならば設定を変更する  
0 ~ 6 のいずれかの番号に設定します。他の SCSI 機器も接続している場合には、それらの機器の番号と重複しないように気をつけてください。

4

本体に取り付けた SCSI インターフェイスボードの SCSI コネクタに SCSI 機器接続ケーブルのプラグを差し込む



外付け用のハードディスクを増設するときには、必ずハードディスクに付属のマニュアル、SCSI インターフェイスボードに付属のマニュアルもご覧ください。

## ✓チェック!!

SCSI インターフェイスボードを取り付ける際は、本体のカバーを開けて作業します。

## 📖参照

SCSI インターフェイスボードの取り付けと設定 「PART8 SCSI インターフェイス対応機器を使う」 (p.69)

SCSI 機器は、SCSI ID という 0 ~ 7 の番号で装置を識別します。ハードディスクにはこの番号を設定するボタンが付いているので、それを使って設定してください。

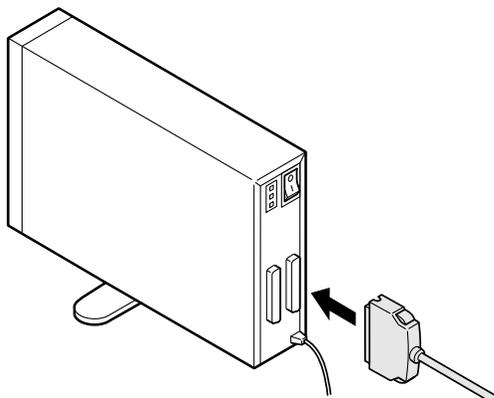
## ✓チェック!!

SCSI 機器接続ケーブルのプラグは、逆向きに差し込めないようになっています。向きをよく確認して、無理に押し込まないようにしてください。

コネクタによっては、左右のフックでプラグが外れないように固定することができます。このようなフックがある場合には、必ず固定するようにしてください。

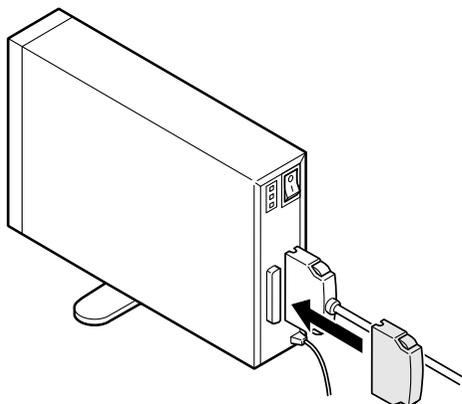
5

増設ハードディスクのSCSIコネクタに、SCSI機器接続ケーブルのもう片方のプラグを差し込む



6

増設ハードディスクの残りのSCSIコネクタに、ターミネータを差し込む



7

必要に応じて、フォーマットの作業に進む

ハードディスクのSCSIコネクタは通常2つ用意されています。どちらのコネクタを使ってもかまいません。

### ✓チェック!!

ハードディスクを接続するときは、ハードディスクに衝撃を加えないように十分取り扱いに気をつけてください。

### 📖参照

ターミネータについては PART 8 の「SCSIに関する基礎知識」(p.71)

### ✓チェック!!

ターミネータを取り付けないと、ハードディスクが正しく認識されない場合があります。

ハードディスクのフォーマットについては、ハードディスクに付属のマニュアルなどをご覧ください。ハードディスクを増設してドライブ番号が追加されると、CD-ROMドライブ(購入時はEドライブ)などのドライブ番号も変更されます。CD-ROMドライブを指定するようなアプリケーションをお使いの場合は注意してください。



PART

# 10

## ハードウェアの活用術

トラブルを解決するヒントやハードウェアを使うときのポイントについて説明しています。手順通りに取り付けたのに増設した周辺機器が使えないときやパソコンが起動しなくなったといったときには、このPARTを読んでみてください。

**困ったときのチェックポイント**

マウス

キーボード

ハードディスク / フロッピーディスク

省電力機能

# 困ったときの チェックポイント

増設した周辺機器やパソコンがうまく動かないときは、次の点をチェックしてみてください。

## 周辺機器に添付のマニュアルに沿って正しく取り付けましたか？

周辺機器のマニュアルをご覧になり、正しく取り付けたか、正しく設定したか、もう一度確認してください。また、そのマニュアルにQ&A情報があれば参照してください。

## 電源は入っていますか？

外付けの周辺機器の場合には、取り付けた周辺機器の電源が入っていることを確認してください。

## 取り付けた周辺機器は、このパソコンで使えるものですか？

取り付けた周辺機器がこのパソコンで使えるものかどうか、周辺機器のマニュアルを読んだりメーカーへ問い合わせ、確認してください。

また、その機器がWindows Meに対応しているかどうかも確認してください。

## ケーブルは正しく接続されていますか？

見落としがちなことですが、パソコンや周辺機器を動かしたときなどに、ケーブルが外れたり、ずれたりしていることがよくあります。ケーブルがきちんと接続されているか、確認してください。

## 本体内部のケーブル類はきちんと接続されていますか？

本体内部に機器を取り付けたときに、気づかないうちに内部の信号ケーブルなどを引っぱって、接続がゆるんでしまうことがあります。本体内部のケーブル類がきちんと接続されているかどうか、確認してください。

## ドライバは組み込みましたか？

周辺機器によっては、機器を取り付けた後、パソコン側にドライバ(やソフト)を組み込む必要のあるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧になり、正しくドライバを組み込んでください。

ドライバが正しく組み込まれているかどうかは、デバイスマネージャの画面で確認できます。組み込んだ機器のアイコンに黄色い「！」や赤い「×」が付いていると

きは、その周辺機器が正常に動作していないことを表しています。Windows ヘルプや周辺機器のマニュアルをご覧になり、設定し直してください。

ドライバの情報は、このパソコンの「サポートセンタ」にあります。また、このパソコンに入っている追加情報や周辺機器のReadmeファイルに書いてあることがあります。

周辺機器のドライバは、知らないうちに改善されて新しくなっていることもあります。「ドライバの組み込み方は正しいのに、うまく動かない」といった場合は、ドライバを最新のものにするとうまく動くようになることもあります。周辺機器のメーカーに問い合わせ、最新のドライバを入手してください。

## 参照

- ・ドライバについて PART2 の「ドライバなどをインストールする」(p.23)
- ・このパソコンのドライバ情報  「サポートセンタ」-「トラブル解決Q&A」-「追加情報」-「周辺機器を使おうとしたら...」

## 周辺機器を、一度に複数取り付けませんでしたか？

周辺機器を一度に複数取り付けると、不具合があったとき、原因究明が困難になります。このような場合は、取り付けた機器をいったん全部外し、1つずつ取り付けてパソコンの動作を確認してください。

## 設定はしましたか？

接続したあとで設定の必要な機器もあります。周辺機器のマニュアルをご覧になり、設定をしてください。

## 他の機器とリソースが競合していませんか？

システムのリソースが足りない場合、他の使用していないリソースを一時的に外し、そのリソースを割り当てる必要があります。リソースについて詳しく知りたい方は、市販のWindowsの解説本やパソコン専門誌などをご覧ください。

## 参照

リソースの問題について  「サポートセンタ」-「トラブル解決Q&A」-「周辺機器」またはWindowsの「ヘルプとサポート」

## 機器を取り外すときに正しい手順で取り外しましたか？

タスクトレイに  が表示されている機器は、正しい手順で取り外さないと正常にパソコンや機器が動作しなくなる場合があります。

**休止状態またはスタンバイ状態のときに、周辺機器の取り付け / 取り外しをしませんでしたか？**

休止状態またはスタンバイ状態のときに、周辺機器の取り付け / 取り外しを行うと、休止状態やスタンバイ状態にする前の内容が失われたり、復帰できなかったりすることがあります。周辺機器を休止状態またはスタンバイ状態にする前の状態に戻してから、電源を入れ直してください。

# マウス

スクロールボタンを使って画面を上下左右にスクロールすることができます。

## ✓チェック!!

コントロールパネルの「マウスのプロパティ」画面では、ダブルクリックの速さの調整、マウスポインタの形の変更や動きの調整、左ききの方のためのマウスの設定などができます。

## 📖参照

- ・マウスの使い方について 「パソコンのいろは」、『使っておぼえるパソコンの基本』後編の「マウス」
- ・マウスの設定  「添付ソフトの使い方」 「マウスの設定」

## スクロールボタンを使う

スクロールボタンを使うと、画面を上下左右にスクロールさせたり、拡大縮小させることができます。

## ✓チェック!!

スクロールボタンの機能に対応していないアプリケーションではスクロールボタンは使えません。

### 画面を上下方向にスクロールする

アプリケーションの上下スクロールバーがある画面をクリックしてアクティブにします。

スクロールボタンを前方に押す。または手前に引く。

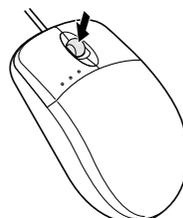


前方に押すと画面が上にスクロールし、手前に引くと画面が下にスクロールします。スクロールボタンを押しつづけると、画面が連続的にスクロールします。

### 画面を上下、左右方向にスクロールする

スクロールさせたい画面にマウスポインタを移動する。

スクロールボタンを真下に押す。

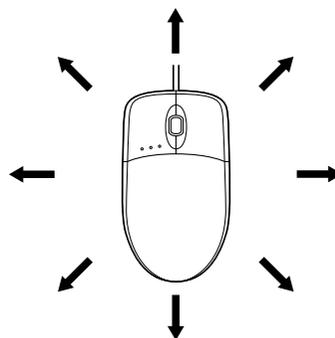


マウスポインタの形が  や  のように変わります。

## ✓チェック!!

スクロールボタンは、真下に押し込むようにしてください。スクロールボタンを前後に動かすと、通常の上下のスクロールになります。

 や  が表示されたらスクロールしたい方向にマウスを動かす。



マウスを動かした方向に画面がスクロールしていきます。もう一度スクロールボタンを押すと、マウスポインタの形が元に戻ります。

## ✓チェック!!

- ・アプリケーションによってスクロールできる方向は異なります。
- ・  が表示されているときは上下にだけスクロールすることができます。

## ズーム機能を使う

### ✔ チェック!!

アプリケーションによっては、この機能は使えません。

拡大、縮小したい画面にマウスポインタを動かす。

キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールボタンを前方に押す。または手前に引く。

前方に押すと画面の表示が拡大し、手前に引くと画面の表示が縮小します。

# キーボード

各キーの名称と一般的な機能を説明します。

## ☞ 参照

キーボードの使い方、日本語入力のしかた 『使っておぼえるパソコンの基本』後編の「文字入力」パソコンのいろは」

## ✔ チェック!

スタートメニューに「VALUESTARを使う準備をします」があると、このパソコンに日本語入力できる準備ができていないため、日本語入力できません。スタートメニューにある場合は、「スタート」ボタン「VALUESTARを使う準備をします」をクリックして画面の指示にしたがって操作し、このパソコンを使う準備を完了させてください。

## キーの役割

一般的なキーの役割です。

キーボードのキーは、一般的に次のように2種類に分けられます。

・文字を入力するキー

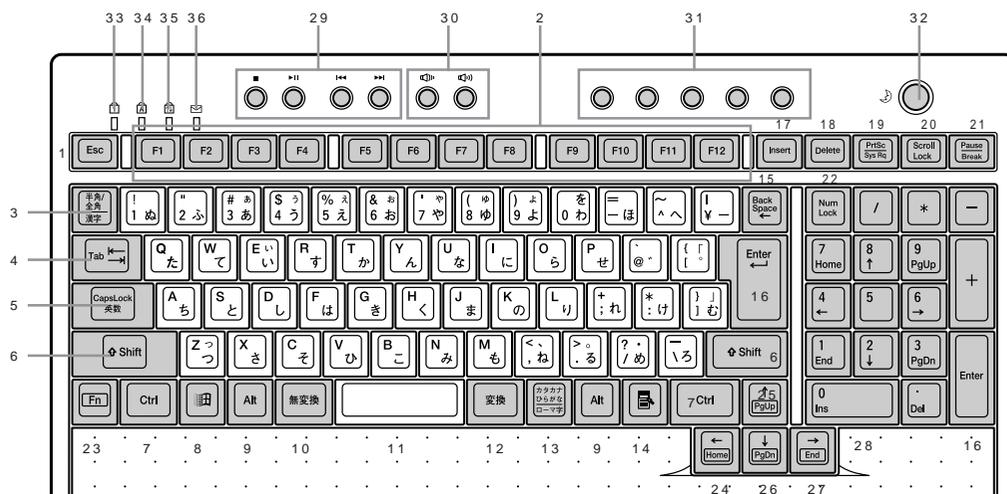
英数字やカタカナ、記号などの文字を入力します。下の図で白くなっている部分のキーです。

・コンピュータに指示を与えるためのキー  
コンピュータに直接指示を与えるためのキーです。下の図でグレーの色が付いている部分のキーです。このキーの動きは、お使いになるアプリケーションによって違います。詳しくは、各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

## キーの名称

### キーボード正面

- 1 【Esc】: エスケープキー
- 2 【F1】～【F12】: ファンクションキー
- 3 【半角 / 全角 / 漢字】: 半角 / 全角 / 漢字キー
- 4 【Tab】: タブキー
- 5 【CapsLock】: キャップスロックキー
- 6 【Shift】: シフトキー
- 7 【Ctrl】: コントロールキー
- 8 【】: Windows キー
- 9 【Alt】: オルトキー
- 10 【無変換】: 無変換キー
- 11 スペースキー
- 12 【変換】: 変換キー
- 13 【カタカナ / ひらがな / ローマ字】: カタカナ / ひらがな / ローマ字キー
- 14 【】: アプリケーションキー
- 15 【BackSpace】: バックスペースキー
- 16 【Enter】: エンターキー



- 17 【Insert】: インサートキー
- 18 【Delete】: デリートキー
- 19 【PrtSc/SysRq】:  
    プリントスクリーンキー / システムリクエストキー
- 20 【ScrollLock】: スクロールロックキー
- 21 【Pause/Break】: ポーズ / ブレークキー
- 22 【NumLock】: ニューメリックロックキー
- 23 【Fn】: Fn キー
- 24 【Home/   】: ホームキー / カーソルキー
- 25 【PgUp/   】: ページアップキー / カーソルキー
- 26 【PgDn/   】: ページダウンキー / カーソルキー
- 27 【End/   】: エンドキー / カーソルキー
- 28 【   】 【   】 【   】 【   】: カーソルキー
- 29 CD/DVD プレーヤーボタン
- 30 ボリュームボタン
- 31 ワンタッチスタートボタン
- 32 【スリープ】: スリープボタン
- 33 ニューメリックロックキーランプ
- 34 キャップスロックキーランプ
- 35 スクロールロックキーランプ
- 36 メール着信ランプ

## キーのロック

【NumLock】と【CapsLock】がロックされているかいないかでキーの機能は異なります。

ニューメリックロックキーは【NumLock】を押すたびに、キャップスロックキーは【Shift】を押しながら【CapsLock】を押すたびにロック状態を切り替えることができます。

それぞれのキーがロックされているときにはキーボード左上のランプが点灯します。

	ロックされているとき	ロックされていないとき
【NumLock】	テンキーから数字が入力できます。	テンキーの数字の下に表示されている機能が使えます。
【CapsLock】	アルファベットが表示されているキーを押すと大文字が入力されます。	アルファベットが表示されているキーを押すと小文字が入力されます。

## キーボード裏面

キーボード裏面には、PS/2 マウスコネクタ(  )があります。このコネクタには、添付のPS/2 対応マウスを接続します。

### ✓チェック!!

PS/2 マウスの抜き差しは、本体の電源を切った状態で行ってください。

### 📖参照

PS/2 マウスコネクタの位置 『はじめにお読みください』PART2 の「マウスを接続する」

## アプリケーションキーとWindows キーについて

アプリケーションキーとWindows キーはWindows Me で使用できるキーです。アプリケーションによってどのように利用するかは異なりますが、標準で次のような機能が割り当てられています。

### ■ アプリケーションキー( )

アプリケーションキーを押すと、マウスで右クリックしたときと同じ状態になります。

### ■ Windows キー( )

Windows キーを押すと、「スタート」メニューが表示されます。

Windows キーを押しながら次のキーを押すと、次のような機能を利用することができます。

【】+【R】 「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示する

【】+【M】 現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化する

【Shift】+【】+【M】 【】+【M】でアイコン化しているウィンドウを元に戻す

【】+【F1】 Windows のヘルプを起動する

【】+【F】 ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示する

【Ctrl】+【】+【F】 コンピュータを検索するウィンドウを表示する

【】+【Tab】 タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替える

## ✓チェック!!

キーボードの詳細な設定については、コントロールパネルの「キーボードのプロパティ」ウィンドウまたは「テキストサービス」ウィンドウ(Office XPモデルの場合)で行います。

### 📖参照

キーボードの設定  「添付ソフトの使い方」-「キーボードの設定」

## Fn キーについて

Fnキーを押しながら次のキーを押すと、キーの役割を変えることができます。

- 【Fn】+【】 【Home】を押したときと同じです。
- 【Fn】+【】 【End】を押したときと同じです。
- 【Fn】+【】 【PgUp】を押したときと同じです。
- 【Fn】+【】 【PgDn】を押したときと同じです。

## ✓チェック!!

キーボードの詳細な設定については、コントロールパネルの「キーボードのプロパティ」で行います。「キーボードのプロパティ」ウィンドウでは、文字入力やカーソル点滅の速度の調整、日本語入力システムの設定などができます。

### 📖参照

「キーボードのプロパティ」で設定する  「添付ソフトの使い方」-「キーボードの設定」

## ワンタッチスタートボタンの名前と役割

ボタンを押すだけでアプリケーションを起動することができるボタンを「ワンタッチスタートボタン」といいます。「CD/DVDプレーヤボタン」「ボリュームボタン」「ワンタッチスタートボタン」はキーボードの上部に並んでいます。

### CD/DVD プレーヤボタン

音楽CD やフォトCD、カラオケCD、ビデオCD、DVD-Videoディスクなどの再生をコントロールできます。

各ボタンの役割は次のとおりです。

- 1  : 停止
- 2  : 再生 / 一時停止
- 3  : 前のトラック / 巻き戻し
- 4  : 次のトラック / 早送り

## ✓チェック!!

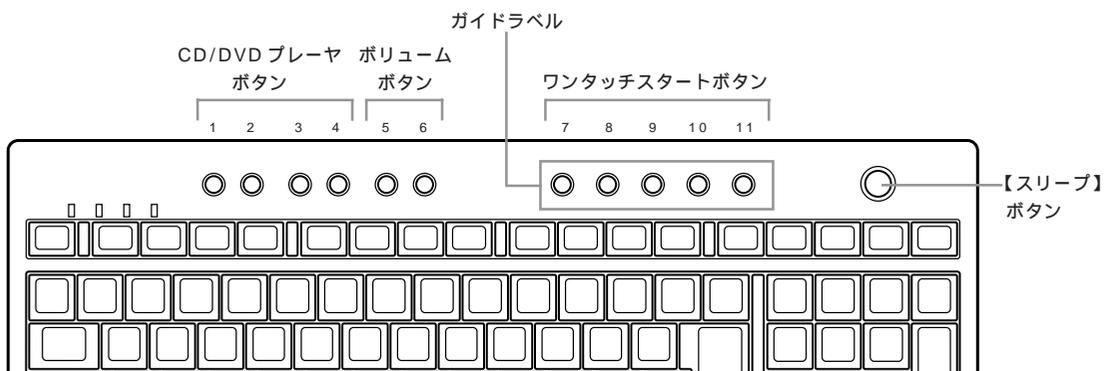
- ・このパソコンにインストールされている「Jet-Audio Player」は削除しないでください。CD/DVDプレーヤボタンの一部の機能が利用できなくなります。
- ・CD-R/RW モデルでは、DVD-Video ディスクは再生できません。

### ボリュームボタン

パソコンから出る音楽CDやビデオCDなどの音の大きさを調節できます。

各ボタンの役割は次のとおりです。

- 5  : ボリュームダウン
- 6  : ボリュームアップ



## ワンタッチスタートボタン

### 7 【メール】ボタン

このボタンを押すと、「Outlook Express」が起動します(ご購入時の状態では、メールボタンのご案内が表示されます)。

### 8 【インターネット】ボタン

このボタンを押すとインターネットエクスプローラが起動します(ご購入時の状態では、「インターネット無料体験」がスタートします)。

### 9 【サポート】ボタン

このボタンを押すと、「サポートセンタ」が起動します。

### 10 【121ware】ボタン

このボタンを押すと、NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」を見ることができます。

### 11 【ユーザ】ボタン

購入時には何も登録されていません。好きなアプリケーションを登録できます。

## 【スリープ】ボタン

パソコン本体をスタンバイ状態にします。

## ガイドラベル

ワンタッチスタートボタンにどんなアプリケーションが割り当てられているかを示すラベルです。

### ✓チェック!

- ・Windows Meのセーフモードなど、Windows Meのキーボードドライバが動作しない状態では、CD/DVDプレーヤボタン、ボリュームボタン、ワンタッチスタートボタン、【スリープ】ボタンの機能は使えません。
  - ・【メール】ボタンと【インターネット】ボタンは、「インターネットするならBIGLOBE( BIGLOBE インターネット接続ツール )」を使ってBIGLOBEに入会すると、【メール】ボタンではOutlook Expressが起動するようになり、【インターネット】ボタンではBIGLOBEかんたん接続ナビで接続した後、インターネットエクスプローラが起動するようになります。
- それ以外の方法でプロバイダに入会した場合に【メール】ボタンと【インターネット】ボタンでOutlook Expressとインターネットエクスプローラを起動させるには、ワンタッチスタートボタンの設定が必要です。

### 📖参照

ワンタッチスタートボタンの設定  「添付ソフトの使い方」-「ワンタッチスタートボタンの設定」

## PC-9800 シリーズの キーボードとのキーの違い

PC-9800シリーズに添付されているキーボードとこのパソコンのキーボードとのキーの違いは、以下のとおりです。

PC-9800シリーズのキーボード	本機のキーボード	備考
【リターン】	【Enter】	
【GRPH】	【Alt】	
【BS】	【BackSpace】	
【STOP】	【Pause】	
【CAPS】	【Shift】+【CapsLock】	大文字
【CTRL】	【Ctrl】	
【DEL】	【Delete】	
【ESC】	【Esc】	
【f・1】-【f・10】	【F1】-【F10】	
【vf・1】-【vf・2】	【F11】-【F12】	
【INS】	【Insert】	
【SHIFT】	【Shift】	
【COPY】	【PrtSc】	
【TAB】	【Tab】	
【XFER】	【変換】	
【NFER】	【無変換】	
【CTRL】+【XFER】	【Alt】+【半角/全角】 または【半角/全角】	日本語入力
【かな】	【Ctrl】+【英数】	

## 使用上の注意

### N キーロールオーバー

N キーロールオーバーとは、複数のキーを押した場合に、最後に入力したキーが有効となる機能です。ただし、このパソコンのキーボードは疑似Nキーロールオーバーのため、複数のキーを同時に押した場合には、正常に表示されないことや有効にならないことがあります。

# ハードディスク/ フロッピーディスク

ここでは、このパソコンに内蔵のハードディスクの使用上のポイントと、このパソコンで使用できるフロッピーディスクについて説明しています。

## ハードディスクの取り扱い上の 注意

ハードディスクは、たいへん精密な機械です。取り扱いには、次のことに十分注意してください。

- ・電源が入っているときは、本体に振動や衝撃を加えたり、持ち運んだりしないでください。
- ・電源を切って本体を運ぶときでも、できるだけ慎重に扱ってください。
- ・電源を切るときは、『はじめにお読みください』PART3の「電源の入れ方と切り方」で説明されている手順に従ってください。
- ・温度・湿度条件を守ってください。  
温度 10 ~ 35 、湿度 20% ~ 80% (ただし、結露しないこと)
- ・ゴミやホコリの多い場所での使用・保管は避けてください。

### 参考

ハードディスクを増設する「PART9 ハードディスクを増設する」(p.77)

## ハードディスク内のデータの バックアップはこまめにとる

このパソコンに内蔵されているハードディスクは、非常に精密に作られています。毎分数千回転するディスク面と情報を読み取る磁気ヘッドの間は、わずかしき空いていません。このため、データを読み書きしていることを示すハードディスクアクセスランプの点灯中には、少しの衝撃を与えても故障の原因となることがあります。ハードディスクが故障すると、大切なデータが一瞬にして消滅してしまい、復帰できない可能性があります。二度と同じものを作れないような大切なデータは、バックアップをこまめにとることをおすすめします。

### 参考

バックアップ 『使っておぼえるパソコンの基本』前編PART6の「大切なデータの保管方法」、『困ったときのQ&A』PART1の「データとインターネット設定のバックアップ」、『添付ソフトの使い方』「バックアップ-NX」

## 使用できるフロッピーディスク の種類

このパソコンのフロッピーディスクドライブでは、以下のようなフロッピーディスクを使用できます。

フロッピーディスクの種類	容量	読み書き 1	フォーマット
2DD	640Kバイト	x	x
	720Kバイト		
2HD	1.2Mバイト	2	x
	1.44Mバイト		

- 1 WindowsまたはMS-DOSでフォーマットされたものが使用できます。
- 2 3モードFDドライバのインストールが必要です。アプリケーションCD-ROM Vol.2からインストールしてください。3モードFDドライバについて詳しくは、E:\winme\3modefdフォルダにあるreadmeファイルをご覧ください。

### チェック!!

- ・購入時の状態では、CD-ROM ドライブはEドライブになります。
- ・1.2Mバイトのフロッピーディスクは、Windows Meの「ディスクのコピー」ではバックアップがとれません。また、「ディスクのコピー」のコピー先で使用するフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたフロッピーディスクを使用してください。

## 省電力機能

パソコンを使っていないときに、消費電力を節約する省電力機能について説明します。

### 概要

作業を中断したいことがあるたびにパソコンの電源を切る場合、電源を切る前にデータを保存したり、次に電源を入れたときにWindowsが起動するのに時間がかかるなど手間が多いものです。このパソコンには、こうした手間をかけずに消費電力を抑え、すぐに作業を再開できる「省電力機能」があります。

### 電源の状態

パソコンの電源の状態には、次の4種類があります。

#### 電源が入っている状態

パソコンの電源を入れて、Windowsが起動している状態です。

#### 電源が切れている状態

Windowsを終了して、パソコンの電源を切った状態です。

#### 休止状態

作業中のデータをハードディスクに保存して、Windowsを終了せずにパソコンの電源を切ります。消費電力は、Windowsを終了してパソコンの電源を切ったときとほとんど同じです。普通に電源を切るのとは異なり、Windowsを終了せずに電源を切るため、休止状態から元の状態に戻すときにWindowsが起動する時間は省かれます。ただしスタンバイ状態から元の状態に戻すよりも時間がかかります。

購入時には、マウスやキーボードを操作しなかったり、ハードディスクなどへのアクセスがない状態が20分以上続くと、自動的に「休止状態」になるように設定されています。

#### スタンバイ状態

ディスプレイの表示を消し、ハードディスクの電源を切りますが、パソコンの電源は完全に切れているわけではありません。作業中のデータをメモリに保存しているためわずかに電力を消費しますが、すぐに作業を再開できます。

このような休止状態にする機能やスタンバイ状態にする機能などを「省電力機能」といいます。

#### 省電力機能の特徴

	休止状態	スタンバイ状態
電力	スタンバイ状態に比べ消費しない	わずかに消費する
復帰までの時間( )	約30秒	約20秒
こんなときに便利	長時間作業を中断するとき	すこしの間作業を中断するとき

( ) 復帰までの時間は、使用環境により異なるため、おおよその目安にしてください。

### ✓チェック!!

- ・アプリケーションによっては、休止状態のことを「ハイバネーション」、スタンバイ状態のことを「サスペンド」、休止状態やスタンバイ状態から復帰させることを「レジューム」と呼ぶこともあります。
- ・Windows Meで電力を節約する機能を使うための電源管理のモードは、ACPIモードです。APMモードは使用できません。

#### 用語

##### ACPIモード

ACPI(Advanced Configuration and Power Interface)を使って電源の管理を行うモードです。ACPIとは、パソコンや周辺機器の電源の管理をOSで行うためのしくみです。

#### 用語

##### APMモード

APM(Advanced Power Management)を使って電源の管理を行うモードです。APMとは、パソコンや周辺機器の電源の管理をBIOSやデバイスドライバなどのソフトウェアで行うためのしくみです。

### 電源ランプ、ディスプレイの表示

電源の状態によって、電源ランプ、ディスプレイの表示は次のように変化します。

電源の状態	パソコン本体の電源ランプ	ディスプレイの電源ランプ	ディスプレイの表示
入っている	緑色に点灯する	緑色に点灯する	表示される
切れている	消灯する	オレンジ色に点灯する	何も表示されない
休止状態	消灯する	オレンジ色に点灯する	何も表示されない
スタンバイ状態	オレンジ色に点灯する	オレンジ色に点灯する	何も表示されない

別売のディスプレイでは、異なることがあります。

## 省電力機能を使う

### 休止状態やスタンバイ状態にできないとき

次のようなときには、休止状態やスタンバイ状態にできないなかったり、休止状態やスタンバイ状態から復帰するときに作業前の内容が復元できなかったり、パソコンが正しく動作しなかったりします。このようなときは休止状態やスタンバイ状態にしないでください。また、自動的に休止状態やスタンバイ状態になる設定も行わないでください。

#### ✓チェック!

このパソコンは、購入時には、マウスやキーボードからの入力やハードディスクへのアクセスがない状態が20分以上続くと、自動的に休止状態になるように設定されています。自動的に休止状態にならないようにするには、この項の「省電力の設定を変える」をご覧ください。

- ・休止状態またはスタンバイ状態に対応していないPCカード( LANカードを含む )を使用しているとき
  - ・SCSI インターフェイスを使って機器を接続しているとき
  - ・プリンタが出力しているとき
  - ・音声や動画を再生しているとき
  - ・フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROMなどを読み書きしているとき
  - ・休止状態やスタンバイ状態に対応していないアプリケーションや周辺機器を使っているとき
  - ・「デバイスマネージャ」でドライブなどの設定をしているとき
  - ・「プリンタウィザード」や「ハードウェアウィザード」、「モデムウィザード」を実行しているとき
  - ・モデムを使ってインターネットに接続しているとき
  - ・LANを使ってネットワークにアクセスしているとき
- また、休止状態やスタンバイ状態にする前の内容の記憶中または復元中に、次の操作を行わないでください。
- ・フロッピーディスク、CD-ROM などを入れ替える
  - ・PCカードの抜き差しをするなど、このパソコンの環境を変更する

### 休止機能

#### 休止状態にする

購入時の状態では、休止状態にするには次の2つの方法があります。

- ・「Windowsの終了」ウィンドウで「休止状態」を選ぶ  
「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリック  
「休止状態」を選び、「OK」をクリック
- ・一定時間後に自動的に休止状態にする  
このパソコンは、購入時には、マウスやキーボードからの入力やハードディスクへのアクセスがない状態が20分以上続くと自動的に休止状態になるように設定されています。

#### 📖参照

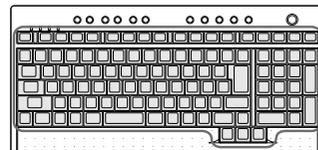
自動的に休止状態にならないように設定を変更する  
この項の「省電力の設定を変える」( p.96 )

#### 休止状態にする前の状態に戻す

休止状態にする前の状態に戻すには、次の2つの方法があります。

- ・電源スイッチを押す
- ・FAX モデムによるリング機能を使う  
パソコンに電話がかかってきたときに、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

このとき、パソコン本体は復帰しても画面がまっくらな場合は、キーボードのいずれかのキー( )を押してください。



### スタンバイ機能

#### スタンバイ状態にする

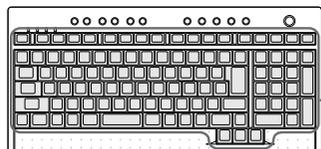
購入時の状態では、スタンバイ状態にするには次の2つの方法があります。

- ・キーボードの【スリープ】ボタンを押す
- ・「Windowsの終了」ウィンドウで「スタンバイ」を選ぶ  
「スタート」ボタン 「Windowsの終了」をクリック  
「スタンバイ」を選択して、「OK」をクリック

### スタンバイ状態にする前の状態に戻す

スタンバイ状態にする前の状態に戻すには、次の2つの方法があります。

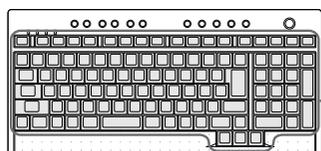
- ・ キーボードのいずれかのキー( )を押す  
それでも画面が表示されない場合はもう一度同じ操作をしてください。



( )この中の  
キーの  
いずれか

- ・ FAX モデムによるリング機能を使う  
パソコンに電話がかかってきたときに、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

このとき、パソコン本体は復帰しても画面がまっくらな場合は、キーボードのいずれかのキー( )を押してください。



( )この中の  
キーの  
いずれか

### 省電力機能を使うときの注意

#### 休止状態にするときの注意

通信ソフトやモデムなどを使ってインターネットに接続している場合は、休止状態にすると強制的に通信が切断されることがあります。休止状態にする前に必ず通信を終了させてください。

#### スタンバイ状態にするときの注意

- ・ 通信ソフトやモデムなどを使ってインターネットに接続しているときは、必ず通信を終了させてからスタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- ・ CDの再生中にスタンバイ状態にした場合、CDは再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前にCDの再生を止めてください。
- ・ CD-ROMドライブにフォトCDなどが入っているときにスタンバイ状態にした場合は、復帰に時間がかかることがあります。
- ・ スタンバイ状態のときでも、使用環境、温度などによっては、ファンは回りつづけることがあります。

### 休止状態またはスタンバイ状態になっているときの注意

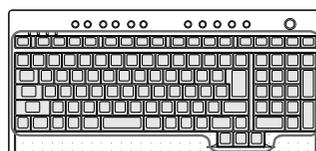
- ・ パソコン本体へ機器を取り付けたり、パソコン本体から機器を取り外したりしないでください。
- ・ スタンバイ状態になっているときに次のことが起こると、電源が切れた状態になるため、スタンバイ状態にする前の内容は失われます。
  - 電源ケーブルが本体やACコンセントから外れた
  - 停電が起きた
  - 電源スイッチを約4秒以上押し続けて、強制的に電源を切った

このような場合は、次に電源を入れたときに、「Windowsが正しく終了されませんでした...」と表示されますので、画面の指示にしたがってください。

### 省電力状態からの復帰がうまくいかなかったときは

次のような場合には、省電力状態からの復帰が正しく実行されなかったことを示しています。

- ・ 復帰直後にアプリケーションが正常に動作しない
- ・ 休止状態またはスタンバイ状態にする前の内容を復元できない
- ・ 電源スイッチを押しても復帰しない(休止状態のみ)
- ・ キーボードのいずれかのキー( )を押しても復帰しない。それでも画面が表示されないのでもう一度同じ操作をしたが復帰しない(スタンバイ状態のみ)



( )この中の  
キーの  
いずれか

### 休止状態からの復帰がうまくいかなかったときは

『困ったときのQ&A』PART2の「省電力機能」をご覧ください。

### スタンバイ状態からの復帰がうまくいかなかったとき

電源スイッチを4秒以上押し続けて強制的に電源を切り、再度電源を入れてください。この場合、BIOSセットアップメニューの内容が、ご購入時の状態に戻ることがあります。必要な場合は再設定してください。また、MS-DOSプロンプトがアクティブのときにスタンバイ状態にすると、スタンバイ状態から復帰させても画面が復帰しないことがあります。この場合は【Alt】を押しながら【Tab】を押してタスクを切り替えることで正常に動作します。

## 省電力の設定を変える

省電力の設定は「コントロールパネル」の「電源の管理」で行います。

### 自動的に休止状態やスタンバイ状態にならないように設定する

アプリケーションや周辺機器によっては、休止状態やスタンバイ状態に対応していないものもあります。このようなアプリケーションや周辺機器を利用するときは、自動的に休止状態やスタンバイ状態にならないように設定を変更する必要があります。また、休止状態やスタンバイ状態になる時間を変更することもできます。

「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリック

「電源の管理」アイコンをダブルクリック

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されず。

#### チェック!

「コントロールパネル」に「電源の管理」アイコンが表示されていない場合は、画面左の「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。

「電源設定」タブをクリック

スタンバイ状態にならないようにするには「システムスタンバイ」で「なし」を選択します。休止状態にならないようにするには「システム休止状態」で「なし」を選択します。

#### チェック!

休止機能を使いたくない場合は、「休止状態」タブで「休止状態をサポートする」の  を  にしてください。

「OK」をクリック

### その他の設定を変更する

「電源の管理」では、次の設定も変更できます。

- ・ 省電力の設定ファイルの変更  
省電力の設定にファイル名をつけて保存できます。また、保存したファイルの設定を変更できます。
- ・ 電源スイッチの役割  
本体の電源スイッチを押したときの動作の設定をします。



「電源の管理」での設定 Windowsのヘルプ、サポートセンター

P A R T

# 11

## さらに広がるパソコンワールド

ここでは、パソコンの使い方を広げるアプリケーションを紹介します。自分流にパソコンを使いこなすための参考にしてください。

**携帯電話と連携する**

**インターネットで映像を楽しむ**

**CD-R や CD-RW にデータを書き込む**

# 携帯電話と連携する

このパソコンでは、携帯電話に登録されている予定表や連絡先、画像などのデータを編集できます。編集したデータは、iモード機能のある携帯電話で閲覧できます。

## 携帯電話に登録されている情報を編集する

このパソコンと携帯電話を接続して、携帯電話に登録されている電話番号や連絡先などの情報をパソコン上で編集できます。「携快電話 4N」というアプリケーションを使います。「携快電話 4N」では、着信メロディやメール、待ち受け画面、ブックマークなどの編集もできます。



### 「携快電話 4N」を使うには

・「携快電話 4N」は、購入時にはこのパソコンにインストールされていません。このパソコンに添付のアプリケーション CD-ROM からインストールしてお使いください。



「携快電話 4N」のインストール サポートセンター  
「アプリケーションの追加と削除」-「携快電話 4N」

・このパソコンと携帯電話を接続するためのケーブルが必要になります。別売の携帯電話接続ケーブル (PC-VS-K10 または PC-VS-K11) を購入してください。なお、携帯電話の機種によって接続できるケーブルが異なります。ご購入の際は、販売店にてよくお確かめください。

・「携快電話 4N」に対応している携帯電話の機種、注意事項などの情報は、次のReadmeファイルをご覧ください。

携快電話 4N の Readme ファイル

「スタート」-「プログラム」-「携快電話 4N」-「Readme」(「携快電話 4N」をこのパソコンにインストールしてからご覧ください)

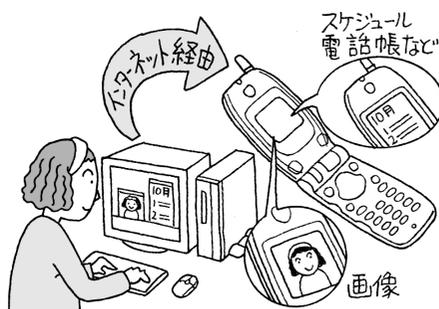


携快電話 4N の詳しい使いかた 携快電話 4N のヘルプまたは、「添付ソフトの使い方」-「携快電話 4N」または「携快電話 4N ユーザーズガイド」

## パソコンで作成したデータを iモード機能のある携帯電話で閲覧する

このパソコンにインストールされているスナップショットを使うと、パソコンで作成した画像をインターネット経由で、iモード機能のある携帯電話で見ることができます。

また、インターネット上のサイト、NEC PC オーナズスケジュールを利用すると、自分の予定表や連絡先のデータをそこに登録して、iモード機能のある携帯電話で見ることができます。



### 携帯電話でデータを閲覧できるようにするための準備

携帯電話でデータを閲覧できるようにするには、次の準備が必要です。

iモード機能のある携帯電話(別売)を準備する

インターネットに接続できる環境にする

プロバイダに入会してインターネットに接続できるように設定しておきます。

**閲覧したいデータを置いておく場所を確保する**

iモード機能のある携帯電話で閲覧したいデータを置いておく場所を確保するには、自分のホームページスペースを開設する方法と、NEC PC オーナーズスケジューラを利用する方法があります。

- ・スナップショットの画像をおくための自分のホームページスペースを開設する

FTP プロトコル(インターネット上でファイルを転送するための規格)に対応した、インターネットに公開可能なホームページスペースを開設しておきます。ここでいうホームページスペースとは、プロバイダに入会して開設する個人ホームページのことです。開設した個人ホームページに、自分の予定表や画像などのデータを登録し、携帯電話からそのホームページを閲覧します。

- ・NEC PC オーナーズスケジューラに登録する

「NEC PC オーナーズスケジューラ」は、予定表、アドレス帳などの情報を、まとめて管理するためのホームページです。自分の情報にアクセスするには、メンバー名とパスワードが必要なので、他人に勝手に見られることはありません。

自分の情報を仲間に公開すれば、グループ内で情報共有することもできます。このグループ機能を使えば、仲間との予定の調整と自分のスケジュールの管理が同時にできます。

NEC PC オーナーズスケジューラの基本サービスへの登録は無料です。

準備ができたなら、見たい情報の操作手順を確認してください。

**写真などの画像を携帯電話で見る****携帯電話で見たい画像を用意する**

デジタルカメラで撮影した写真などの画像ファイルをパソコンに取り込んでおきます。

**携帯電話で見られるように画像を編集する**

画像を編集するには、「スナップショット」を使います。「スナップショット」では、各機種に対応したサイズに画像データを再編集したり、EZweb、J-Sky WEB機能を持つ携帯電話で見られるように、画像を編集したりできます。

 参照

「スナップショット」の詳しい使いかた  「添付ソフトの使い方」「スナップショット」または「スナップショット」のヘルプ

**画像データを個人ホームページに登録する**

BIGLOBE に入会している場合は、BIGLOBE のiモード向けサービス「らくらくピクチャー・ミニ for iモード」(有料)が利用できます。「らくらくピクチャー・ミニ for iモード」では、アルバム形式でホームページに画像を登録できます。

その他のプロバイダに入会した場合は、開設した個人ホームページに登録します。ホームページへの登録方法は、各プロバイダに確認してください。

 参照

「らくらくピクチャー・ミニ for iモード」について  
<http://itool.kingdom.biglobe.ne.jp/ialbum/>(トップページ URL)  
<http://itool.kingdom.biglobe.ne.jp/ialbum/manual.html>(操作方法の URL)

**登録したデータを携帯電話のiモード機能で見る**

ホームページのアドレスを携帯電話に入力します。

パソコンで作成した予定表や連絡先などをiモード機能のある携帯電話で見る

### NEC PCオーナーズスケジューラに予定表などの情報を登録する

NEC PCオーナーズスケジューラにアクセスし、情報を登録します。



NEC PCオーナーズスケジューラのURL  
[http://www.biglobe.ne.jp/nec\\_pc/imodel/schedule/](http://www.biglobe.ne.jp/nec_pc/imodel/schedule/)

### ✓チェック!!

NEC PCオーナーズスケジューラを利用するには、BIGLOBEのCYBER PLAZAメンバーシップへの登録(無料)が必要です。

NEC PCオーナーズスケジューラ(正式名称: NEC PCオーナーズスケジューラ by BIGLOBEスケジューラ)は、BIGLOBEのサービス「BIGLOBEスケジューラ」を利用して実現しています。NEC PCオーナーズスケジューラを利用する際の規約や説明文などには「BIGLOBEスケジューラ」と表示されていることがあります。

### 登録したデータを携帯電話のiモード機能で見る

ホームページのアドレスを携帯電話に入力して、NEC PCオーナーズスケジューラにアクセスします。メンバー名とパスワードを入力すると、登録したデータが見られます。



NEC PCオーナーズスケジューラの操作方法  
NEC PCオーナーズスケジューラのヘルプ

## インターネット で映像を楽しむ

このパソコンでは、USBカメラなどで撮影した画像、デジタルビデオカメラで撮影した映像などをインターネットに公開できます。インターネットに公開した画像や映像は、iモード機能のある携帯電話や他のパソコンで楽しむことができます。

### いまこの瞬間をインターネット で中継 ~ライブフォト/i~

このパソコンに添付されている「ライブフォト/i」を使うと、USBカメラなどからパソコンに取り込んだ画像を「ライブカメラ(世界中のさまざまな場所からリアルタイムの景色や室内の様子を発信するインターネットのサービス)としてインターネットに公開できます。インターネットに公開した画像は、外出先からiモード機能のある携帯電話などで閲覧できます。ADSL接続などのインターネットに高速に常時接続できるサービスを利用すると、より快適に「ライブカメラ」が楽しめます。

#### ✓チェック!

- ・ライブフォト/iは娯楽目的に開発されたソフトウェアであり、ホームセキュリティ、介護、医療、その他業務目的等の使用はしないでください。
- ・使用に際しては、第三者の権利、肖像権、プライバシーの侵害とならないよう充分ご注意ください。

「ライブフォト/i」を使うと、次のようなことができます。

- ・留守中の家の様子を外出先からチェック
- ・大好きなペットがいま何をしているかがわかる
- ・パーティーの様子を実況中継

携帯電話などで画像を閲覧できるようにするために必要なもの、準備

- ・iモード機能のある携帯電話(別売)
- ・USBカメラや低画素数のデジタルカメラ(別売)  
動作確認済機種については、ライブフォト/iを起動すると表示される電子マニュアルで紹介しているホームページでご確認ください。
- ・プロバイダに入会して、画像を置くための自分のホームページを開設する。

なお、ライブフォト/iの詳しい使いかたや必要な準備については、ライブフォト/iをインストールして、起動すると表示される電子マニュアル「はじめよう!ライブカメラ」をご覧ください。

### 「ライブフォト/i」をインストールする

「ライブフォト/i」は、購入時にはこのパソコンにインストールされていません。添付のアプリケーションCD-ROMからインストールしてお使いください。

#### 📖参照

「ライブフォト/i」のインストール 「サポートセンター」-「アプリケーションの追加と削除」-「ライブフォト/i」

### インターネットに映像を公開 する ~ビデオ登録君~

このパソコンに添付されている「ビデオ登録君」と、BIGLOBEの映像配信サービス「My放送局(有料)」を使うと、あなたがデジタルビデオカメラで撮影した映像などをインターネットに公開できます。結婚式、運動会、自分の趣味や特技をアピールしたものなどさまざまな映像をインターネットに公開して、家族や親戚、仲間同士で楽しむことができます。

ADSL接続などのインターネットに高速に常時接続できるサービスを利用すると、より大きく、なめらかな映像を楽しむことができます。

## 映像を他のパソコンで閲覧できるようにするために必要なもの、準備

- ・デジタルビデオカメラ(別売)
- ・BIGLOBE に申し込み、「My 放送局」に登録する

「ビデオ登録君」を使って映像をインターネットに公開するには、「My 放送局」へ映像を置くための設定などが必要です。詳しくは、「ビデオ登録君」をインストールして、起動すると表示される電子マニュアル「はじめよう！インターネットで映像配信」をご覧ください。

### ✓チェック!

- ・あなたがテレビ放送や録画物などから取り込んだ映像や音声は、個人として楽しむなどのほかは、著作権上、権利者に無断で使用できません。
- ・使用に際しては、第三者の権利、肖像権、プライバシーの侵害とならないよう充分ご注意ください。

「ビデオ登録君」を使うと、次のようなことができます。

- ・年賀状の代わりに、ビデオメールでごあいさつ
- ・運動会で活躍の様子を、離れて住んでいるおじいさんおばあさんに報告する
- ・旅先で撮った映像をすかさず公開して、仲間に見てもらおう

## 「ビデオ登録君」をインストールする

「ビデオ登録君」は、購入時にはこのパソコンにインストールされていません。添付のアプリケーションCD-ROM からインストールしてお使いください。

### 📖参照

「ビデオ登録君」のインストール  「サポートセンタ」-「アプリケーションの追加と削除」-「ビデオ登録君」

## インターネットで映像を快適に楽しむためのヒント

「ブロードバンド」とは、インターネットへの高速な接続を実現する回線のことです。「ブロードバンド」によって、インターネットでより大きく、なめらかな映像を観たり、容量の大きなファイルを短い時間でやりとりしたりできるようになります。「ブロードバンド」に対応したサービスにはさまざまな種類があります。最近では、ADSL(エーディーエスエル)と呼ばれる、電話回線を利用してインターネットへの高速な接続を実現できるサービスの普及がはじまっています。これらのサービスでは、月々のインターネット接続料金が定額になっているものが多いため、時間を気にせず好きなだけインターネットを楽しむことができます。

## CD-RやCD-RW にデータを書き 込む

CD-R/RW with DVD-ROMモデルまたはCD-R/RWモデルでは、CD-RやCD-RWというメディア(記録媒体)に大量にデータを書き込むことができます。ここではCD-RやCD-RWにデータを書き込むときのポイントなどについて説明します。

CD-R/RW with DVD-ROMドライブはDVD-ROMの読み出しに対応したCD-R/RWドライブです。CD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブでは、CD-RやCD-RWという持ち運び可能なメディアに大量のデータ(650Mバイトなど)を記録できます。また、CD-RやCD-RWは多くのCD-ROMドライブで読み込むことができるため、CD-ROMドライブのある他のパソコンとのデータの受け渡しに適しています。

### ✓チェック!!

CD-ROMモデル、DVD-ROMモデルには外付けのCD-R/RWドライブを増設することでCD-R、CD-RWにデータを記録できます。

## CD-RとCD-RWの特長

CD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブでデータを書き込む(記録する)ことができるメディアには、CD-R(CD-Recordable)とCD-RW(CD-ReWritable)があります。それぞれ、次のような特長があります。

- ・CD-R(CD-Recordable)
  - 一度だけデータを書き込むことができる(書き換え不可)
  - CD-ROMドライブで読み込みが可能
  - メディアが安価
- ・CD-RW(CD-ReWritable)
  - データを繰り返し書き換えることができる

## CD-RやCD-RWにデータを書き込むソフトについて

CD-RWやCD-Rにデータを書き込むためには、専用のアプリケーション(ライティングソフト)が必要です。このパソコンには、次の2種類のライティングソフトが用意されています。それぞれに特徴がありますので、目的に応じて適した方をお使いください。

### Easy CD Creator

Easy CD Creatorには、次のような特徴があります。

- ・データを書き込むときに、Easy CD Creatorを起動させる必要がある
- ・いろいろな形式のCDをガイドに沿って簡単に作成できる
- ・作成したCDを他のパソコンでそのまま読み込むことができる
- ・大きなデータをまとめて書き込むのに適している
- ・デジタルカメラで撮った写真データなどの受け渡しに適している

### 📖参照

Easy CD Creatorの操作について「スタート」「プログラム」-「Adaptec Easy CD Creator 4」-「クイックリファレンス」

### DirectCD

DirectCDは、ご購入時ではインストールされていません。DirectCDを使うには、添付のアプリケーションCD-ROMからインストールします。

### 📖参照

DirectCDのインストール方法  「サポートセンター」-「アプリケーションの追加と削除」-「DirectCD」

DirectCDには、次のような特徴があります。

- ・書き込む前に、メディアをDirectCD専用フォーマットする必要がある
- ・フロッピーディスクに保存するように、マイコンピュータやエクスプローラ、アプリケーションなどからデータを直接書き込める
- ・作成したCDを他のパソコンで読み込むには、CD-Rの場合は、DirectCDでの処理が必要。CD-RWの場合は、UDF Readerのインストールが必要
- ・いろいろなデータを頻繁に書き込むのに適しているため、データのバックアップに向いている
- ・バックアップ-NXを使ってバックアップをするのに適している



参照

DirectCD の操作について 「スタート」-「プログラム」-「Adaptec DirectCD」の「DirectCD ヘルプ」または「クイックリファレンス」

### データを書き込む際の注意

- ・書き込みを行う前には必ず、他のアプリケーションを終了し、スクリーンセーバーや常駐プログラムを解除してください。
- ・書き込みに失敗した CD-R は再生できなくなります。書き損じによる CD-R の補償はできませんのでご注意ください。
- ・データを書き込むときは、書き込み中に休止状態またはスタンバイ状態にならないように、省電力の設定を「なし」に設定してください。
- ・作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他の CD-ROM ドライブ、CD-R ドライブ、CD-RW ドライブでは使用できない場合がありますのでご注意ください。



参照

自動的に休止状態にならないように設定する PART 10 の「省電力の設定を変える」(p.96)

## 他の CD-ROM ドライブでメディアを読み込むときの注意

CD-R/RW with DVD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブでデータを記録したメディアを、他の CD-ROM ドライブで読み込めるようにするには、書き込みに使用したアプリケーションによっては注意が必要な場合があります。詳しくは、アプリケーションに必要な場合があります。詳しくは、アプリケーションに添付のマニュアルやヘルプで確認してください。また CD-R/RW メディアによっては、お使いの CD-ROM ドライブでは、読み込めない場合があります。マルチリード対応の CD-ROM ドライブであれば読み込むことができます。マルチリード対応の CD-ROM ドライブについては、各メーカーにお問い合わせください。



チェック!

お客様がオリジナルの CD-ROM、音楽 CD、ビデオ CD などの複製や改変を行う場合、オリジナルの CD 等について著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製等の際は、オリジナルの CD-ROM などの利用許諾条件や複製等に関する注意事項にしたがってください。

P A R T

# 12

## 本機の設定を変更する

ここでは、本機の使用環境を設定する BIOS セットアップメニューとこのパソコンのリソースについて説明しています。

通常は、この設定を変更する必要はありません。

BIOS セットアップメニュー

このパソコンが使用しているリソース

# BIOS セットアップメニュー

「BIOS セットアップメニュー」ではハードウェア環境の確認と変更、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

## 参照

BIOSセットアップメニューの操作方法や各設定項目について「サポートセンタ」-「ハードウェア情報」-「BIOS 設定」

## チェック!!

BIOS セットアップメニューは画面上では「Phoenix BIOS セットアップユーティリティ」と表示されます。

## BIOS セットアップメニューを使ってできること

次のような設定ができます。

- ・現在の日付と時間の設定
- ・BIOS セットアップメニューで使用する言語の選択
- ・ハードウェア環境の確認と変更
- ・セキュリティの設定
- ・省電力管理の設定
- ・起動の設定

## BIOS セットアップメニューを使う

### BIOS セットアップメニューの起動とメイン画面

電源を入れ、「NEC」ロゴの画面で「< F2 > キーを押すと、BIOSセットアップメニューを起動します。」と表示されたら、すぐに【F2】を押す。

「セットアップを起動しています...」と表示された後、BIOS セットアップメニューが起動します。

## チェック!!

Windows が起動した場合は、Windows を終了して電源を切り、もう一度手順 からやり直してください。

Phoenix BIOS セットアップユーティリティ					
メイン	詳細	セキュリティ	省電力管理	起動	終了
システム時刻: システム日付:	[XX:XX:XX] [XXXX/XX/XX]				項目ヘルプ <Tab>キー、<Shift-T ab>キー、<Enter>キー は、項目を選択します。
言語: フロッピーディスクA:	[日本語 (JP)] [1.44/1.25Mb 3.5"]				
プライマリマスタ プライマリスレーブ セカンダリマスタ セカンダリスレーブ	[XXXXMB] [なし] [CD-ROM] [なし]				
キーボード機能 起動時の自己診断画面		[使用しない]			
システムメモリ: 拡張メモリ: BIOS リビジョン	640KB x xKB XXXX				
F1 ヘルプ Esc 終了	項目の選択 メニューの選択	-/+ Enter	値の変更 サブメニューの選択	F9 デフォルトの設定 F10 保存して終了	

上の画面は、機種によって異なる場合があります。

## BIOS セットアップメニューの終了

### 変更した設定を有効にして終了する場合

【F10】を押す。

「セットアップ確認」画面が表示されます。

「はい」を選んで【Enter】を押す。

設定値が保存され、BIOS セットアップメニューが終了します。また、メニューバーの「終了」でも BIOS セットアップメニューを終了することができます。

### 起動前の設定のまま終了する場合

【 】でメニューバーの「終了」を選ぶ。

【 】を押して「変更を保存せずに終了する」にカーソルを合わせ【Enter】を押す。

## チェック!!

ここで「設定が保存されていません！保存してから終了しますか？」と表示された場合は、【 】を押して「いいえ」にカーソルを合わせ【Enter】を押してください。

BIOSセットアップメニューを起動する前の設定のまま（設定の変更を行った場合はすべて無効にして）BIOS セットアップメニューが終了します。

## デフォルト値の設定

以下の手順で設定値をデフォルト値（購入時の値）に戻すことができます。

【F9】を押す。  
「セットアップ確認」画面が表示されます。

【 】【 】で「はい」を選んで【Enter】を押す。  
すべての設定値をデフォルト値(購入時の値)に戻します。また、メニューバーの「終了」でもデフォルト値の設定ができます。

次にメニューバーで選択された各画面について説明します。

## BIOS セットアップメニューの基本操作

- ・操作はキーボードで行います。
- ・【 】【 】でメニューバーのカーソルを選択し、【 】【 】で設定項目を選択します。
- ・設定内容(例:システム時計の時、分、秒)のカーソル移動は【Tab】で選択します。設定内容の値は【+】【-】で変更します。
- ・▶印がついた設定項目は【Enter】でサブメニューを表示し、【Esc】で元の画面に戻ります。

## BIOS セットアップメニュー

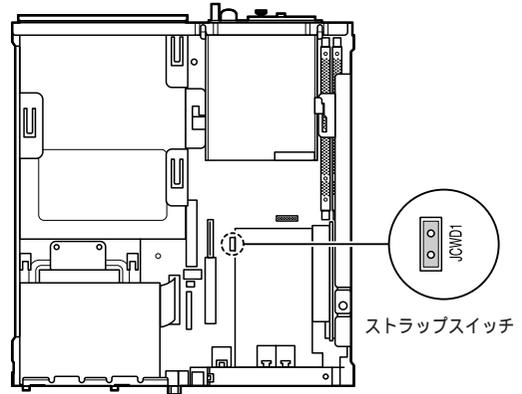
BIOS セットアップメニューの設定について詳しくは、「サポートセンター」-「ハードウェア情報」-「BIOS 設定」をご覧ください。

## パスワードの解除

このパソコンでは、ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードを設定できます。これらのパスワードを忘れると、本機を起動できなくなります。パスワードを忘れた場合は、本体内部のストラップスイッチを使ってパスワードを解除します。

## ストラップスイッチ

本体内部には、次の図のようなストラップスイッチがあります。ストラップスイッチの位置を次の図を見てよく確認してください。このスイッチを取り外すことでパスワードの解除ができます。



## パスワードの解除のしかた

### ⚠ 注意



けが注意

本体内部に手を入れるときは、指をはさんだり、ぶつかけたり、切ったりしないように注意してください。



高温注意

このパソコンの使用直後は、CPU や CPU の周辺に触れないでください。

CPUが高温になっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。

パソコンの電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

正しい手順でルーフカバーを外す。

 参照

ルーフカバーの開け方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

ストラップスイッチを上引き抜く。  
ストラップスイッチを引き抜くには、ピンセットなどを使ってください。

### **チェック!**

抜いたストラップスイッチはなくさないようにしてください。

正しい順序でルーフカバーを取り付ける。

 参照

ルーフカバーの閉め方 PART2の「本体の開け方と閉め方」(p.27)

本体背面から外したケーブルを元通りに接続して、本機の電源を入れる。

Windows が起動します。

Windows を終了し、本機の電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

手順 で引き抜いたストラップスイッチを元通りに差し込む。

ピンセットなどを使ってストラップスイッチを元通りに取り付けます。

正しい手順でルーフカバーを取り付ける。

外したケーブルを元通りに接続する。

# このパソコンが使用しているリソース

このパソコンは、次のようにリソースを使用しています(購入時の設定)。



リソースについて詳しく知りたい方は、市販のWindowsの解説本やパソコン専門誌などをご覧ください。

## 割り込みレベル(IRQ)

IRQ	機能
0	システムタイマ
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	(空)
4	シリアルポート(COM1)
5	(空)
6	フロッピーディスクコントローラ
7	パラレルポート
8	リアルタイムクロック
9	ACPI/CardBus
10	USBインターフェイス/CardBus/ACPI
11	サウンド/ACPI/PCI/FAXモデムボード /IEEE1394/アクセラレータ/LANボード <sup>1</sup>
12	マウス
13	数値データプロセッサ
14	IDEコントローラ(プライマリ)
15	IDEコントローラ(セカンダリ)

<sup>1</sup> LANボードはLANモデルのみ。

## DMA チャンネル

DMA	機能
#0	(空)
#1	(空)
#2	フロッピーディスクコントローラ
#3	(空)
#4	DMAコントローラ
#5	(空)
#6	(空)
#7	(空)



PART

# 13

## LAN ボードを使う(LAN モデルのみ)

LAN(ローカルエリアネットワーク)は、同じ建物の中など比較的近距离で、複数のコンピュータを接続したネットワークのことです。LANでコンピュータ同士を接続すれば、データの移動、ファイルやプリンタの共有などが簡単にできるようになります。

# LAN に接続する

LANモデルでは、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することにより、コンピュータ同士でデータを共有したり、メッセージを送受信したりできます。

## 接続前の確認

LANモデルでは、100BASE-TXまたは10BASE-Tに対応したLANに接続できます。このパソコンをネットワークに接続するには、別売のハブ(マルチポートリピータ)と、別売の専用ケーブル(リンクケーブル)が必要です。

### ✓チェック!!

100BASE-TXでLANに接続するには、カテゴリ5のリンクケーブルが必要です。

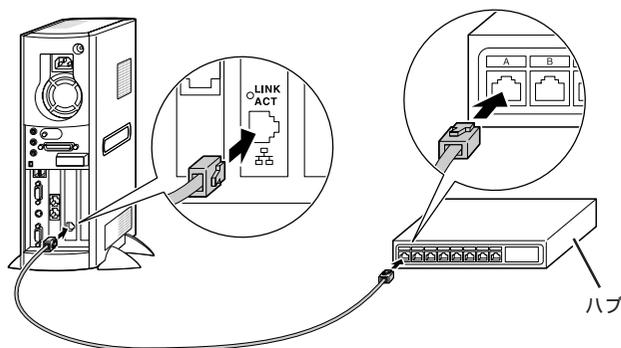
### 📖参照

- ・ LANボードの各部の名称について 付録の「本体の各部の名称」(p.119)
- ・ LANボード機能仕様について 付録の「LANボード機能仕様(LANモデルのみ)」(p.128)

## リンクケーブル(別売)を接続する

LANに接続するときは、リンクケーブル(別売)を使い、次の手順で接続します。

- 1 リンクケーブルのコネクタを本体背面の100BASE-TX/10BASE-T用コネクタ(品)に接続する
- 2 ハブ(マルチポートリピータ)に、リンクケーブルのもう一方のコネクタを接続する



### ✓チェック!!

LANモデルに搭載されているLANボードは、接続先の機器との通信速度(100Mbps/10Mbps)を自動検出して最適な通信モードで接続する「オートネゴシエーション機能」をサポートしています。セットアップが完了したときには、オートネゴシエーション機能は有効に設定されています。

接続先の機器がオートネゴシエーション機能をサポートしていない場合は、「ネットワークのプロパティ」で通信モードを接続先の機器に合わせるか、接続先の機器の通信モードを半二重(HalfDuplex)に設定してください。

## LAN の設定

ここでは、LANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。必要な構成要素の詳細については、Windows Meのヘルプをご覧ください。

### ネットワークのセットアップ(設定)

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック
- 2 「ネットワーク」をダブルクリック  
「ネットワーク」アイコンが表示されていない場合は、「コントロールパネル」ウィンドウの左にある「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。
- 3 「ネットワークの設定」タブの「追加」をクリック
- 4 必要な機能を追加する

### ネットワーク上で自分のコンピュータを認識させる

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック
- 2 「ネットワーク」をダブルクリック
- 3 「ネットワークの設定」タブの「追加」をクリック
- 4 共有サービスを追加する
- 5 「識別情報」タブをクリック
- 6 「コンピュータ名」、「ワークグループ」、「コンピュータの説明」に、必要な情報を入力する
- 7 「OK」をクリック

## LANに関するトラブル

### ネットワークコンピュータに「ネットワーク全体」のアイコンしか表示されない

ネットワークに正常に接続されていないか、ネットワークの設定が正しくありません。接続の方法やネットワークの設定を確認してください。

### ネットワークコンピュータに自分のコンピュータしか表示されない

接続しようとしているドメインまたはワークグループが正しいかどうかを確認してください。設定されているドメインまたはワークグループは、「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリックし、「ネットワーク」をダブルクリックして調べることができます。ネットワークコンピュータに表示されるまでには時間がかかることがあります。この場合は、しばらく待ってから「表示」メニューの「最新の情報に更新」をクリックしてください。

### 共有ファイルやフォルダが使えない

ネットワークで、このパソコンと他のコンピュータとでファイルを共有するためには、設定が必要になります。

- ・このパソコンが共有を行う設定になっていない  
共有ドライブ、フォルダを設定してください。ネットワークに接続された他のコンピュータからこのパソコンを利用するには、「共有する」の設定が必要です。「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリックし、「ネットワーク」をダブルクリックして、共有サービスが追加されているかを確認します。追加されていない場合は追加してください。
- ・共有ドライブやフォルダにアクセス権が設定されている  
共有ドライブやフォルダは、その所有者がアクセス権を設定します。アクセス権が設定されている場合、まったく利用できないか、読み取りのみ可能な設定、読み取りも書き込みも可能な設定と、いくつかのパターンが設定できます。必要に応じて設定してください。

# 付 録

**パソコンのお手入れ**

**本体の各部の名称**

**機能仕様**

**FAX モデムボード機能仕様**

**LAN ボード機能仕様(LAN モデルのみ)**

# パソコンのお手入れ

パソコンを長く使っていると、本体やディスプレイの汚れが気になるものです。また、マウス内部のローラーやボールにホコリなどがついて汚れてしまうと、マウスの操作がうまくできなくなります。日頃から、お手入れをするように心がけましょう。

## ⚠注意



お手入れの前には、パソコンの電源を切り、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。

感電の原因になります。



## 準備するもの

- 軽い汚れのとき  
乾いたきれいな布



- 汚れがひどいとき  
水かぬるま湯を含ませて、よくしぼった布



- フロッピーディスクドライブをクリーニングするとき  
クリーニングディスク



フロッピーディスクドライブをクリーニングするときは、クリーニングディスク(別売)を使います。クリーニングディスクについては、ご購入元または NEC に問い合わせてください。

- マウスをクリーニングするとき  
綿棒



## ✓チェック!!

OA機器用クリーニングキットも汚れをふきとるのに便利です。

OA機器用クリーニングキットについては、ご購入元または NEC に問い合わせてください。

## ✓チェック!!

シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や揮発性の有機溶剤を含む化学ぞうきんは、使わないでください。キーボードを傷めたり、故障の原因になります。

## 📖参照

NECのお問い合わせ先 『121ware ガイドブック』

## 電源を切って、電源ケーブルを外す

お手入れの前には、かならず、パソコンの周辺機器やパソコンの電源を切ってください。電源ケーブルはコンセントから抜いてください。

電源を切らずにお手入れをはじめると、感電することがあります。

## 清掃する

### パソコン本体、 スピーカ

やわらかい布でふいてください。

汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

### パソコンの内部

長期間使うと、ほこりがたまるので、定期的に清掃してください。パソコン内部の清掃については、ご購入元または NEC にお問い合わせください。

### ディスプレイ

やわらかい布でふいてください。  
化学ぞうきんやぬらした布は使わないでください。

### チェック!!

水やぬるま湯は、絶対にパソコン本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。



NECのお問い合わせ先 『121ware  
ガイドブック』

### フロッピーディスクドライブ、 CD-R/RW with DVD- ROM ドライブ

クリーニングディスク(別売)を使ってクリーニングします。ひと月に一回を目安にクリーニングしてください。

### キーボード

やわらかい布でふいてください。

汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

キーのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、ご購入元または NEC にお問い合わせください。

### 電源ケーブル

電源ケーブルのプラグを長期間コンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にやわらかい布でふいて、清掃してください。

### マウス

やわらかい布でふいてください。

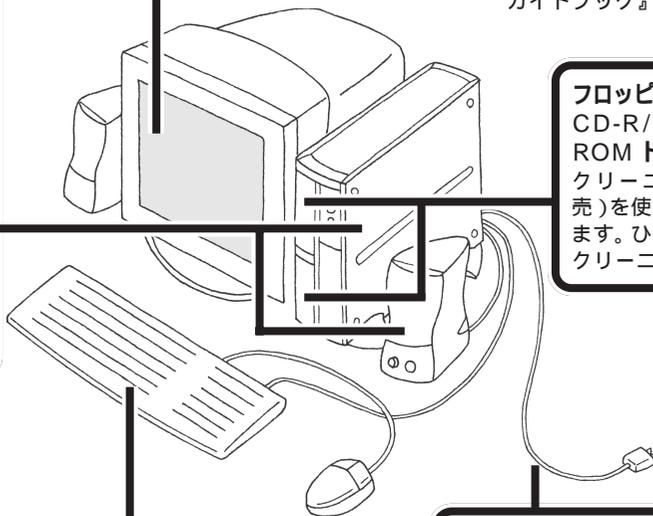
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

### マウスの内部

マウスポインタの動きが悪いときは、ボールとローラーもクリーニングしてください。



「マウスのクリーニング」(次ページ)



## マウスのクリーニング

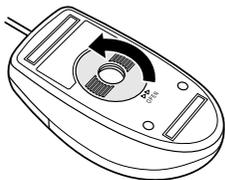
マウス内部のローラーやボールが汚れると、マウスポインタの動きが悪くなります。とくに、ローラーやボールに油分が付くと、故障の原因になったりします。ローラーにはとくに汚れがたまりやすいので、定期的なクリーニングしてください。ローラーだけクリーニングするときは、手順 ~ は省略しても構いません。

### ✓チェック!!

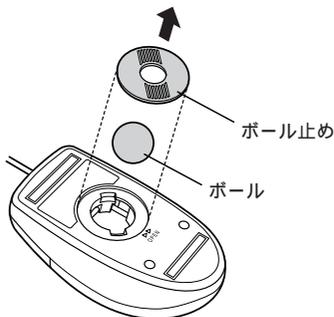
取り外したボールやボール止めは、お子さまが誤って飲みこんだりしないよう、ご注意ください。

パソコンの電源を切り、マウスのケーブルをキーボードから外す。

マウスの裏側のボール止めを、下図の矢印の方向に回転させる。



ボール止めを取り外し、ボールを取り出す。



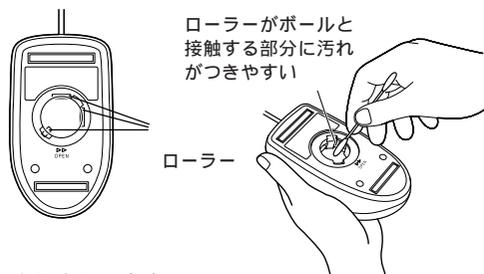
ボールを中性洗剤で洗い、汚れを落とす。

水で中性洗剤を洗い落とす。

布で水分をふき取り、風通しの良いところで十分に乾燥させる。

マウス内部のローラーの汚れを、水分を含ませた綿棒でこすり落とす。

汚れが落ちないときは、やわらかい歯ブラシなどで汚れを取る(このとき、歯ブラシに、水やはみがき粉などをつけないでください)。



ボールをマウスに戻す。

ボール止めを取り付け、手順 と逆の方向に回して固定する。

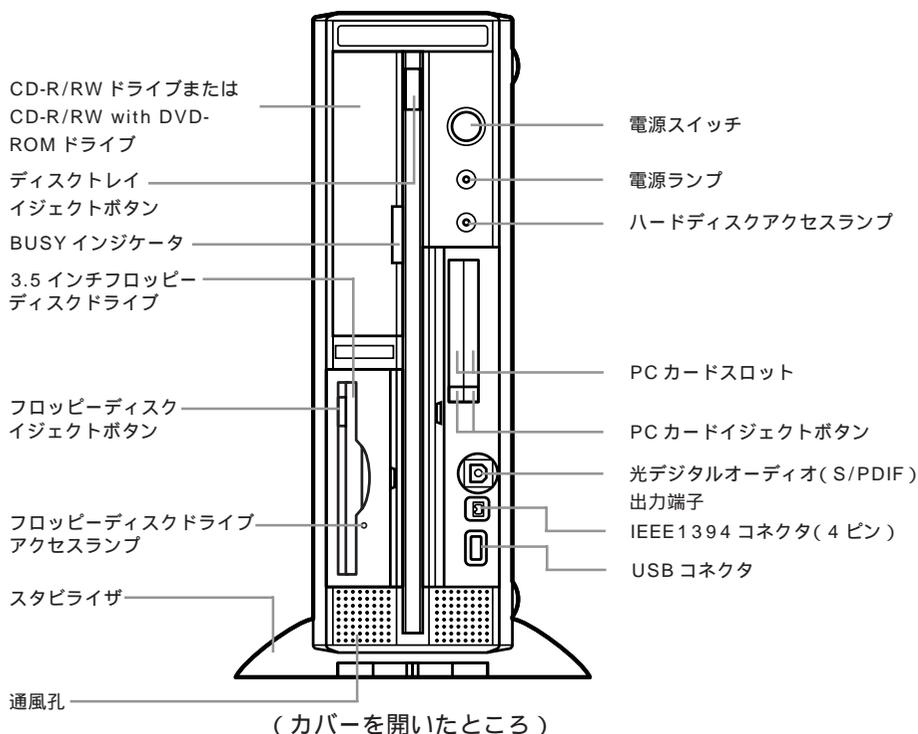
マウスのケーブルをキーボードに取り付ける。

### ✓チェック!!

- ・クリーニング中に、マウス内部にゴミが入らないように注意してください。
- ・クリーニングの際にマウスから取り出した部品は、なくさないようにしてください。
- ・水や中性洗剤は、絶対にマウスに直接かけないでください。故障の原因となります。
- ・シンナーやベンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。マウスの外装をいためたり、故障の原因となったりします。
- ・ローラーの汚れを取る場合には、絶対に金属ブラシやカッター、ヤスリなどのような硬いものは使用しないでください。ローラーに傷が付き、故障の原因となります。

# 本体の各部の名称

## 本体前面



### 電源スイッチ(🔌)

電源を入れるスイッチ。休止状態からの復帰にも利用します。電源を切るときは、Windows Meの「スタート」メニューで「Windowsの終了」をクリックして「終了」を選んで「OK」をクリックします。電源スイッチを切る/入れる操作はコンピュータに負担をかけるので、少なくとも5秒以上の間隔をあけてください。

### 🔍チェック!!

- ・Windowsが明らかに停止している状態になった場合は、電源スイッチを約4秒以上押し続けることで、強制的に電源を切ることができます。なお、この場合、作成中のデータなどは消えてしまいますので正しい方法で操作してください。
- ・停電や、電源ケーブルを抜いているために本体に電源が供給されていないときは、電源スイッチを押しても電源を入れることはできません。

### 電源ランプ(💡)

電源の入/切状態を表示するランプ。電源を入れると緑色に、スタンバイ状態のときはオレンジ色に点灯します。休止状態または電源が切れている状態のときは、消灯します。

### ハードディスクアクセスランプ(💡)

ハードディスクの動作中に点灯するランプ。

### 🔍チェック!!

点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスクの内容が壊れることがあります。

### PC カードスロット

PCカードを取り付けるスロット。2スロットあります。PCカードには、メモリカードやモデムカード、SCSIインターフェイス対応機器とつなげるためのSCSIカードなどいろいろな種類があります。

#### PC カードイジェクトボタン

PC カードを PC カードスロットから取り出すときに使うボタン。

光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子 (  ) MDデッキやAVアンプなどデジタル入力機能を持ったオーディオ機器を接続する端子。ただし、プラグ形状によっては使用できないものがありますので、ケーブルは、よくお確かめになり、ご購入ください。

#### IEEE1394 コネクタ (4ピン) ( )

IEEE1394 対応機器 (4ピン) を接続するためのコネクタ。

#### USB コネクタ ( )

USB 対応機器を接続するためのコネクタ。

USB コネクタに接続する周辺機器が本機で使用できるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。

#### CD-R/RW ドライブまたは CD-R/RW with DVD-ROM ドライブ

##### ・CD-R/RW モデル

CD-ROM や音楽 CD を入れるところ。また、CD-R、CD-RW メディアにデータを記録するところ。

##### ・CD-R/RW with DVD-ROM モデル

DVD-ROM や CD-ROM、音楽 CD を入れるところ。また CD-R、CD-RW メディアにデータを記録するところ。

#### ディスクトレイイジェクトボタン

ディスクをセットするディスクトレイを出し入れするためのボタン。

#### BUSY インジケータ

CD-R/RW ドライブまたは CD-R/RW with DVD-ROM ドライブがデータを読み書きしているときに点灯します。

#### **チェック!**

点灯中は電源を切ったり、CD-ROM などを取り出したりしないでください。故障の原因になります。

#### 3.5 インチフロッピーディスクドライブ

3.5 インチサイズのフロッピーディスクを入れるところ。

#### フロッピーディスクイジェクトボタン

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出すときに使うボタン。

#### フロッピーディスクドライブアクセスランプ

フロッピーディスクドライブがデータを読み書きしているときに点灯するランプ。

#### **チェック!**

ランプの点灯中は電源スイッチを押したり、フロッピーディスクイジェクトボタンを押したりしないでください。フロッピーディスクドライブやフロッピーディスクがこわれることがあります。

#### スタビライザ

本体を安定して設置するための脚。

#### **チェック!**

スタビライザは必ず付属のネジで本体に固定してください。また、本体を横置きにする場合は、ネジとスタビライザをなくさないよう大切に保管してください。

#### 通風孔

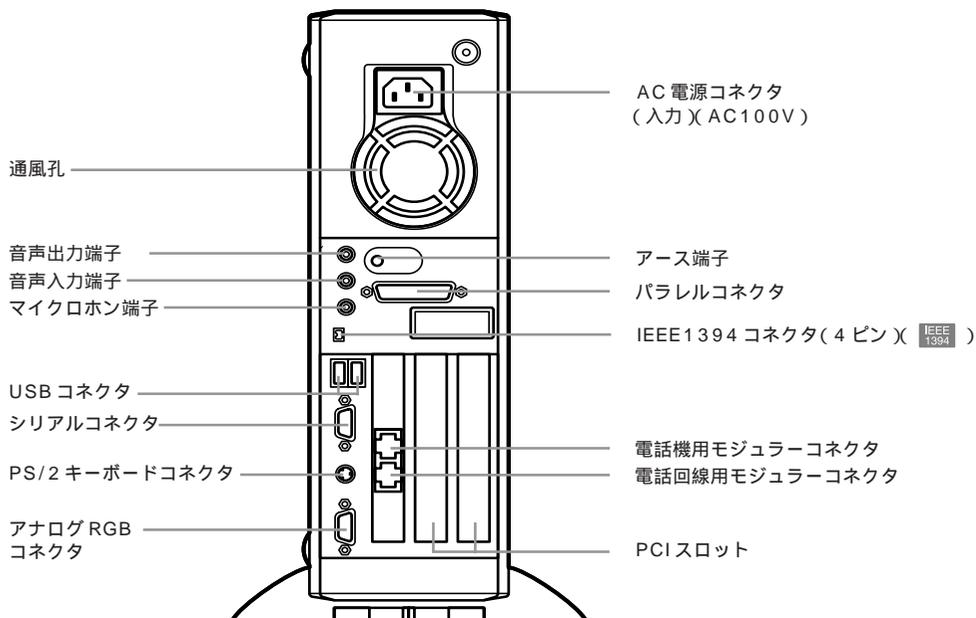
本体内部の熱を逃がすための孔。

#### **チェック!**

物を置いたりして、通風孔をふさがないようにしてください。

## 本体背面

各アイコンの向きは、下の説明と異なることがあります。



AC 電源コネクタ(入力) (AC100V)  
ACコンセントから本体に電源を供給するためのコネクタ。添付の電源ケーブルを接続します。  
本体添付の電源ケーブルは、ACコンセント側が普通の2ピン、本体側が特殊な3ピンになっています。

アース端子 (⏚)  
アース線を接続するための端子。

パラレルコネクタ (☐)  
プリンタなどを接続するためのコネクタ。

### ✓チェック!!

PC-9800シリーズ用のプリンタケーブルを接続する場合は、別売のプリンタインタフェース変換アダプタ (PK-CA101) が必要です。

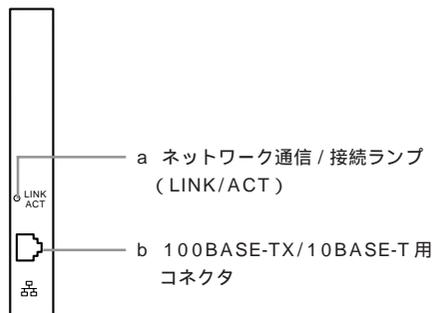
IEEE1394 コネクタ(4ピン) (IEEE 1394)  
IEEE1394対応機器(4ピン)を接続するためのコネクタ。

電話機用モジュラーコネクタ (☎)  
電話機を接続するためのコネクタ。

電話回線用モジュラーコネクタ (☎)  
電話回線を接続するためのコネクタ。

PCIスロット  
本機の機能を強化したり拡張したりするための各種ボードを、取り付けるためのスロット。高速なデータ転送ができるPCIバスに対応。モデルにより、購入時に取り付けられているPCIボードは異なります。LANモデルの場合、左側のスロットに標準でLANボードが取り付けられています。

LANボード (LANモデルのみ)



- a ネットワーク通信 / 接続ランプ( LINK/ACT )  
 ネットワーク上で読み込みや書き込みが発生すると点滅します。また、ハブ( マルチポートリピータなど )から、リンクパルスを受信すると点灯します。  
 ・100Mbps ネットワーク接続時  
 緑色に点滅または点灯します。  
 ・10Mbps ネットワーク接続時  
 黄色に点滅または点灯します。  
 ただし、必ずしも本機の見込みみや書き込みとは限りません。

- b 100BASE-TX/10BASE-T 用コネクタ(  )  
 100BASE-TX/10BASE-T 対応のケーブルを接続します。

#### 通風孔

本体内部の熱を逃がすための孔。壁などでふさがないように注意してください。

#### 音声出力端子(ステレオ) ( )

添付の外付けスピーカや市販のオーディオ機器などに、音声信号(ステレオ)を出力するためのミニジャック端子。

#### 音声入力端子(ステレオ) ( )

市販のオーディオ機器などから、音声信号(ステレオ)を本体に入力するためのミニジャック端子。

#### マイクロホン端子(モノラル) ( )

マイクロホンを接続するためのミニジャック端子。

#### USB コネクタ ( )

USB 対応機器を接続するためのコネクタ。  
 USB コネクタに接続する周辺機器が本機で使用できるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。

#### シリアルコネクタ ( )

周辺機器を接続するためのコネクタ。  
 通信を行うときに必要な通信機器や、イメージスキャナなどの周辺機器を接続します。

### ✔チェック!!

- ・PC-9800 シリーズ用の機器を接続する場合は、別売のRS-232C変換アダプタ( PK-CA102 )が必要です。
- ・周辺機器によっては、変換アダプタを使用すると動作しないことがあります。

#### PS/2 キーボードコネクタ ( )

PS/2コネクタに対応したキーボードを接続するためのコネクタ。

### ✔チェック!!

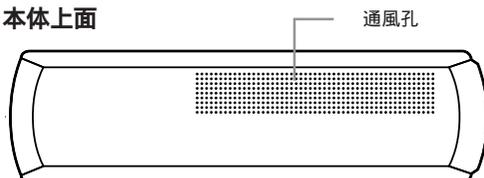
PS/2 キーボードを抜き差しするときは、本体の電源を切った状態で行ってください。

#### アナログRGB コネクタ ( )

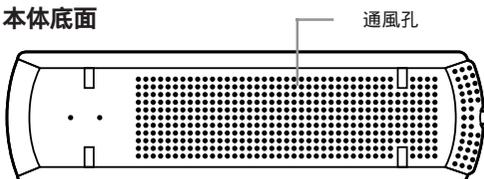
アナログRGB対応ディスプレイを接続するためのコネクタ。

### 本体上面、本体底面、本体側面

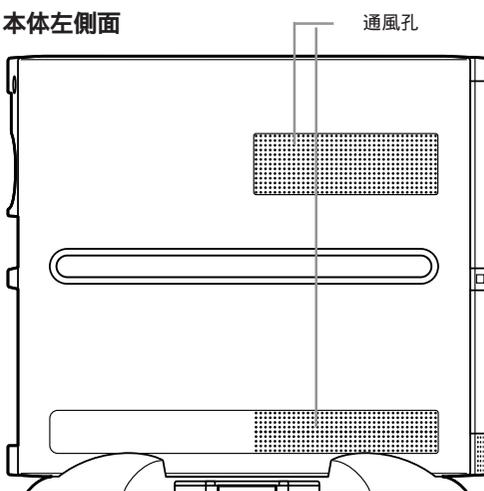
#### 本体上面



#### 本体底面



#### 本体左側面



#### 通風孔

本体内部の熱を逃がすための孔。  
 本体底面の通風孔は、底面にスタビライザを取り付けることで、通風孔をふさがらない状態になります。

### ✔チェック!!

- ・物を置いたりして、通風孔をふさがないようにしてください。
- ・パソコン本体を横置きにする場合は、通風孔をふさがないようにしてください。

# 機能仕様

## VL800R/8、VL1000N/8

型名	VL800R/85DR	VL800R/85D	VL800R/87D	VL1000N/87D
型番	PC-VL800R85DR	PC-VL800R85D	PC-VL800R87D	PC-VL1000N87D
CPU	800MHz AMD Duron™ プロセッサ			エンハンスト 3DNow!™ テクノロジ1.0GHz AMD Athlon™ プロセッサ
チップセット	VIA社製 Apollo KL133 Chipset			
システムバスクロック	200MHz(メモリバス:133MHz)			
キャッシュ	1次	128Kバイト(CPU内蔵)		
メモリ	2次	64Kバイト(CPU内蔵)		256Kバイト(CPU内蔵)
メインRAM	標準容量	64Mバイト 1(SDRAM-DIMM、PC133対応)	128Mバイト 1(SDRAM-DIMM、PC133対応)	
	スロット数	2スロット(DIMMスロット) [空きスロット1]		
	最大容量	512Mバイト 2		
表示機能	ビデオRAM	8Mバイト 1		
	グラフィックアクセラレータ	VIA社製 VT8364(AGP [Chipset内蔵])		
	解像度	640×480ドット	最大1,677万色	
	表示色	800×600ドット	最大1,677万色	
		1,024×768ドット	最大1,677万色	最大1,677万色 3
1,280×1,024ドット	最大65,536色	最大65,536色 4		
サウンド機能	音源	PCM 録音再生機能:ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8~48KHz、全二重対応(モノラル、量子化8ビット時)		
	サラウンド機能	エンハンストステレオ		
	ステレオスピーカ	外付けスピーカ		
入力装置	キーボード	PS/2キーボード、JIS標準配列(英数、かな)、109キーレイアウト準拠、スリープボタン、ワンタッチスタートボタン、CD/DVDプレーヤボタン、ボリュームボタン、テンキー・12ファンクションキー付き、マウス専用コネクタ(1ポート)付き		
	マウス	PS/2マウス 6、スクロール機能付き		
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ(720Kバイト/1.2Mバイト/1.44Mバイト)×1 8		
	ハードディスクドライブ 9 (Ultra ATA-66)	約40Gバイト 10	約60Gバイト 11	
	CD/DVDDドライブ	CD-R/RWドライブ 12 [CD読出:最大32倍速、 CD-R書込:最大8倍速、 CD-RW書換:最大4倍速 7]	マルチブレードドライブ(CD-R/RW with DVD-ROM) 12 13 [DVD読出:最大8倍速、CD読出:最大32倍速、CD-R書込:最大8倍速、CD-RW書換:最大4倍速 7]	
インターフェイス	USB 5	コネクタ4ピン×3		
	パラレル	D-sub25ピン×1		
	シリアル	D-sub9ピン×1		
	ディスプレイ	ミニD-sub15ピン×1(アナログRGB)		
	PS/2	ミニDIN6ピン×1		
	FAXモデム	モジュラコネクタ×2(LINE×1、TELEPHONE×1)		
	LAN	-	RJ45コネクタ×1 (100BASE-TX/10BASE-T)	
	IEEE1394(DV)	4ピン×2 14		
	サウンド関連	光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力×1(角形(PCM/ドルビーデジタル)) 15、LINE入力×1(ステレオ、ミニジャック)、LINE出力×1(ステレオ、ミニジャック)、マイク入力×1(モノラル、ミニジャック)		
通信機能	FAXモデム	データ通信:最大56Kbps 16(K56flex™、V.90対応)/FAX通信:最大14.4Kbps(V.17)、Resume On Ring機能対応		
	LAN	-	100BASE-TX/10BASE-T	
5型ベイ	1スロット(CD/DVDDドライブで1スロット占有済)[空きスロット0]			
内蔵3.5型ベイ	1スロット(HDDで1スロット占有済)[空きスロット0]			
拡張スロット	PCカードスロット	Type ×2(Type ×1スロットとしても使用可)、PC Card Standard準拠、CardBus対応 17		
	PCIスロット	2スロット(ハーフ×2 [空きスロット2])		2スロット(ハーフ×2) [空きスロット1]

## VL800R/8、VL1000N/8

型名	VL800R/85DR	VL800R/85D	VL800R/87D	VL1000N/87D
電源	AC100V±10%、50/60Hz			
消費電力	本体	約62W(最大108W)	約65W(最大111W)	約66W(最大111W)
	ディスプレイ	約72W		約90W
エネルギー消費効率	R区分 0.0014			R区分 0.0011
温湿度条件	10～35、20～80%(ただし結露しないこと)			
外形寸法	本体	97(W)×360(D)×325(H)mm(ゴム足除く) 18		
	ディスプレイ	360(W)×391(D)×380(H)mm(専用回転台含む)		410(W)×426(D)×429(H)mm(専用回転台含む)
	キーボード	382(W)×179(D)×44(H)mm		
質量	本体	約8.2kg	約8.0kg	
	ディスプレイ	約13.8kg		約17.6kg
	キーボード	約1.2kg		
	マウス	約0.2kg		
インストールOS	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版 19 20			
サポートOS	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版 19、 Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版 19			
主なインストールソフト	Microsoft® Office XP Personal			
主な添付品	マニュアル、バックアップCD-ROM、電源ケーブル、回線接続ケーブル、保証書			
ディスプレイ	画面サイズ	15型(フルフラット、アバーチャグリル管)		17型(フルフラット、ダイヤモンドトン@モニター)
	表示寸法	標準表示範囲:270(W)×203(H)mm 21		標準表示範囲:300(W)×225(H)mm 21 23
		最大表示可能範囲:284(W)×215(H)mm 22		最大表示可能範囲:325(W)×243(H)mm 22
	AGピッチ	0.24mm-0.25mm		0.25mm
	水平走査周波数	31～69KHz		
	垂直走査周波数	59～86Hz		
表示解像度	640×480ドット、800×600ドット、1,024×768ドット、1,280×1,024ドット			

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

- 1: ビデオ RAM はメイン RAM を使用します。
- 2: 増設 RAM サブボード(256M バイト)を 2 枚実装する必要があります。増設 RAM サブボードを増設する際には 133MHz 用メモリを実装してください。
- 3: DVD 等の動画を再生する場合の最大表示色は 65,536 色となります。
- 4: DVD 等の動画を再生する場合の最大表示色は 256 色となります。
- 5: 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、本インターフェイスに対応している必要があります。
- 6: 添付のキーボードにあるマウス専用コネクタに接続します。
- 7: CD-RW メディアの書き換えにおいて、High Speed CD-RW メディアは使用できません。
- 8: 3 モード(720K バイト、1.2M バイト、1.44M バイト)に対応しています。ただし 1.2M バイトモードへの対応は、ドライバをセットアップすることで可能(フォーマットは不可)となります。
- 9: 1G バイトを 10 億バイトで計算した場合の数値です。
- 10: Windows のシステムからは、容量が約 37.2G バイトと認識されます。
- 11: Windows のシステムからは、容量が約 55.8G バイトと認識されます。
- 12: 縦置き時、8cmCD は使用不可です。
- 13: 映像ソフトの再生は、ソフトウェアによる MPEG2 再生方式です。
- 14: 接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。動作確認済み機種についてはインターネット(<http://121ware.com>)をご確認ください。
- 15: 光デジタルオーディオ出力に接続するオーディオ機器は 48KHz のサンプリング周波数に対応している必要があります。また、一般の CD プレーヤー・MD デッキ類と同様に、SCMS(シリアルコピーマネージメントシステム)に準拠した信号を出力します。
- 16: 最大 56Kbps はデータ受信時の速度です。データ送信時は最大 33.6Kbps になります。
- 17: ZV ポート対応カードは使用できません。
- 18: スタビライザ(縦置き台)取り付け時は、171(W)×360(D)×325(H)mm です。
- 19: 添付のソフトウェアは、インストールされている OS でのみご利用できます。
- 20: 別売の Microsoft® Windows® Millennium Edition パッケージをインストールおよび利用することはできません。
- 21: 表示するタイミングによっては表示サイズが変わる場合があります。
- 22: 接続する装置および表示する解像度によっては、表示面積を最大まで広げられない場合があります。
- 23: 1,280 × 1,024 表示時は 288(W) × 230(H)mm です。

## セットのスピーカの機能仕様

最大定格出力	1.5W + 1.5W
外形寸法	約76(W)×129(D)×145(H)mm(片側)
質量	スピーカ(右)約390g、スピーカ(左)約350g ACアダプタ約190g(ケーブル含む)

# FAX モデムボード機能仕様

## 機能概要

CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス
NCU部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイヤルパルス送出機能</li> <li>・リング検出機能</li> </ul>
モデムチップセット部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット</li> <li>V.90</li> <li>K56flex</li> <li>V.34</li> <li>V.32bis</li> <li>V.32、V.22bis、V.22、V.21</li> <li>V.42LAPMおよびNMP4エラー訂正</li> <li>V.42bisおよびMNP5データ圧縮</li> <li>・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度</li> <li>V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2</li> <li>・HayesATコマンドセット</li> <li>AT</li> <li>Sレジスタ</li> <li>・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン</li> <li>・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択</li> <li>・フロー制御およびスピード・バッファリング</li> <li>・パラレル非同期データ</li> <li>・自動ダイヤルおよび自動アンサー</li> <li>・トーンおよびパルスダイヤリング( DTMFTーン、ダイヤルパルス制御)</li> </ul>

## FAX 機能

項目	規格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14,400/12,000/9,600/7,200/4,800/2,400/300bps 注
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	QAM : 14,400/12,000/9,600/7,200bps DPSK : 4,800/2,400bps FSK : 300bps
送信レベル	-10 ~ -15dBm( 出荷時 -15dBm )
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド( CLASS 1 )

注 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

## データモデム 機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送 受 信: 33,600/31,200/28,800/26,400/24,000/21,600/19,200/16,800/14,400/12,000/9,600 7,200/4,800/2,400/1,200/300bps 注 受信のみ: 56,000/54,667/54,000/53,333/52,000/50,667/50,000/49,333/48,000/46,667/46,000 45,333/44,000/42,667/42,000/41,333/40,000/38,667/38,000/37,333/36,000/34,667 34,000/33,333/32,000/30,667/29,333/28,000bps 注
通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32/V.32bis/V.22/V.22bis/V.21
変調方式	TCM: 56,000/54,667/54,000/53,333/52,000/50,667/50,000/49,333/48,000/46,667/46,000 45,333/44,000/42,667/42,000/41,333/40,000/38,667/38,000/37,333/36,000/34,667 34,000/33,600/33,333/32,000/31,200/30,667/29,333/28,800/28,000/26,400/24,000 21,600/19,200/16,800/14,400/12,000/9,600/7,200bps QAM: 9,600/7,200bps DPSK: 4,800/2,400/1,200bps FSK: 1,200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM) MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-10~-15dBm( 出荷時 -15dBm )
受信レベル	-10~-40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠

注 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

## NCU 機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル方式	パルスダイヤル( 10/20PPS ) トーンダイヤル( DTMF )
NCU形式	AA( 自動発信 / 自動着信型 ) MA( 手動発信 / 自動着信型 ) MM( 手動発信 / 手動着信型 ) AM( 自動発信 / 手動着信型 )
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンド( CLASS 1 )

ATコマンド \*については、このパソコンの電子マニュアル「サポートセンタ」の「パソコンを使いこなそう」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」をご覧ください。

\* : 米国 Hayes 社が開発したコマンド体系。DTE( パソコンなどの端末機器 )から電話回線に対してこのコマンドを送ることで自動発着信を行うことができる。

## LANボード機能仕様(LANモデルのみ)

ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時：UTPカテゴリ3,4,5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1,024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長*	100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

\*リピータの台数など、条件によって異なります。

# 索 引

## 英数字

100BASE-TX/10BASE-T用コネクタ	112, 122
121ware.com	5, 24, 36
【121ware】ボタン	91
3.5インチフロッピーディスクドライブ	120
3Dグラフィックアクセラレータボード	19, 56
3モードFDドライブ	92
ACPIモード	93
AC電源コネクタ(入力 $\times$ AC100V)	121
APMモード	93
AV機器	9
BIOSセットアップメニュー	106
BUSYインジケータ	120
CardBus	48
CD/DVDプレーヤボタン	90
CD-R	103
CD-RW	103
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ	103, 120
CD-R/RWドライブ	103, 120
DIMM	62
DirectCD	103
DMAチャンネル	109
DSU	13
DV端子	43
Easy CD Creator	103
FAXモデムボード機能仕様	126
Fnキー	90
IEEE	42
IEEE1394	42
IEEE1394コネクタ	2, 3, 43, 120, 121
IRQ	109
ISDN回線	13
ISDNターミナルアダプタ	13
iモード	98
Jet-Audio Player	11
LAN	112
LANの設定	113
LANボード	19, 56, 121
LANボード機能仕様	128

MOディスクドライブ	18
NEC PCオーナースケジューラ	99, 100
Nキーロールオーバ	91
PC-9800シリーズのキーボード	91
PC Card Standard	48
PCカード	49
PCカードイジェクトボタン	120
PCカードスロット	48, 119
PCカードの設定	51
PCIスロット	3, 4, 56, 121
PCIボード	19, 56
PS/2キーボードコネクタ	3, 122
PS/2マウスコネクタ	89
RAMサブボード	63
SCSI	71
SCSI ID	72
SCSIインターフェイス	71, 72
SCSIインターフェイスボード	19, 56, 73, 79
SCSI機器	71, 75
SCSI機器接続ケーブル	72, 73
SmartGallery	17
SmartGallery/BusBrain	44
USB	34
USBカメラ	101
USBコネクタ	2, 3, 35, 37, 120, 122
USBハブ	40
VideoStudio	44
Windowsキー	89

## ア行

アース端子	121
アナログRGBコネクタ	3, 122
アプリケーションキー	89
インクジェットプリンタ	7
インターネットの写真屋さん	17
【インターネット】ボタン	91
インターフェイス	34
オートネゴシエーション機能	112
音声出力端子	3, 12, 122
音声入力端子	3, 12, 122
音量	11, 90

## カ行

ガイドラベル .....	91
キーの名称 .....	88
キーの役割 .....	88
キーのロック .....	89
キーボード .....	88
機能仕様 .....	123
休止状態 .....	93
携帯電話4N .....	98
コンパクトフラッシュ .....	15

## サ行

【サポート】ボタン .....	91
周辺機器の取り外し .....	25
省電力機能 .....	93
シリアルコネクタ .....	3, 122
スクロールボタン .....	86
スタビライザ .....	28, 120
スタンバイ状態 .....	93
ストラップスイッチ .....	107
スナップショット .....	99
スマートメディア .....	15
【スリープ】ボタン .....	91
増設RAMサブボード .....	62, 64
外付け用ハードディスク .....	18, 78

## タ行

ターミナルアダプタ .....	13
ターミネータ .....	71, 73
通風孔 .....	120, 122
ディスクトレイジェクトボタン .....	120
デジチェーン .....	71
デジタルカメラ .....	15
デジタル署名 .....	24
デジタルビデオカメラ .....	20, 43
電源スイッチ .....	119
電源の状態 .....	93
電源ランプ .....	93, 119
電話回線用モジュラーコネクタ .....	121
電話機用モジュラーコネクタ .....	121
ドットインパクトプリンタ .....	7
ドライバ .....	8, 23, 84

## ナ行

ネットワーク通信/接続ランプ .....	122
----------------------	-----

## ハ行

ハードディスク .....	78, 92
ハードディスクアクセスランプ .....	119
ハーフサイズのPCIボード .....	56
ハウリング .....	12
パスワード .....	107
パソコンのお手入れ .....	116
バックアップ .....	92
ハブ .....	112
パラレルコネクタ .....	3, 121
光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子 .....	2, 9, 120
ビデオ登録君 .....	101
プラグ&プレイ .....	23, 42
フラッシュメモ리카ード .....	15
プリンタ .....	7
ブロードバンド .....	102
フロッピーディスク .....	92
フロッピーディスクイジェクトボタン .....	120
フロッピーディスクの種類 .....	92
フロッピーディスク ドライブアクセスランプ .....	120
ページプリンタ .....	7
ボリュームボタン .....	90
本体の各部の名称 .....	119

## マ行

マイクロホン端子 .....	3, 11, 122
マウス .....	86
マウスのクリーニング .....	118
マルチファンクションカード .....	54
【メール】ボタン .....	91
メモリ .....	62

## ヤ・ラ・ワ行

【ユーザ】ボタン .....	91
ライブカメラ .....	101
ライブフォト/i .....	101
らくらくピクチャー・ミニ for iモード .....	99
リソース .....	84, 109
リング機能 .....	94, 95
リンクケーブル .....	112
ルーフカバー .....	27
レーザープリンタ .....	7
割り込みレベル (IRQ) .....	109
ワンタッチスタートボタン .....	90, 91

## やりたいこと別マニュアルガイド

あなたのやりたいことがどのマニュアルに書いてあるか、このガイドを参考に探してください。

パソコンの接続とセットアップをしたい .....	はじめにお読みください
CD-ROM、DVD-ROM を使いたい .....	はじめにお読みください
フロッピーディスクを使いたい .....	はじめにお読みください
「パソコンのいろは」 / 「サポートセンタ」について知りたい .....	はじめにお読みください
マウスの使い方を知りたい .....	パソコンのいろは、使っておぼえるパソコンの基本
キーボードで文字を打ってみたい .....	パソコンのいろは、使っておぼえるパソコンの基本
インターネットで、できることが知りたい .....	使っておぼえるパソコンの基本
インターネットを利用したい .....	使っておぼえるパソコンの基本、サポートセンタ
電子メールを使いたい .....	使っておぼえるパソコンの基本、サポートセンタ
BIGLOBE に入会したい .....	使っておぼえるパソコンの基本
ワープロを使いたい .....	使っておぼえるパソコンの基本
バックアップを取りたい .....	使っておぼえるパソコンの基本、困ったときのQ&A、サポートセンタ
プリンタを使いたい .....	もっと知りたいパソコン
USB 対応機器を使いたい .....	もっと知りたいパソコン
IEEE1394 対応機器を使いたい .....	もっと知りたいパソコン
PC カードを使いたい .....	もっと知りたいパソコン
周辺機器を取り付けたい .....	もっと知りたいパソコン
このパソコンの拡張性について知りたい .....	もっと知りたいパソコン
CD-R/RW ドライブを使って、CD-R/RW メディアに書き込みたい .....	もっと知りたいパソコン
このパソコンの機能について詳しく知りたい .....	もっと知りたいパソコン、サポートセンタ
パソコンのお手入れをしたい .....	もっと知りたいパソコン
パソコンのトラブルを予防したい .....	困ったときのQ&A
再セットアップしたい .....	困ったときのQ&A
パソコンが思うように動かない .....	困ったときのQ&A、サポートセンタ
パソコン用語の意味を知りたい .....	サポートセンタ
どんなアプリケーションが入っているか知りたい .....	サポートセンタ
アプリケーションの使い方が知りたい .....	サポートセンタ
アプリケーションを追加 / 削除したい .....	サポートセンタ
年賀状やあいさつ状を作りたい .....	サポートセンタ
受けられるサポートについて知りたい .....	サポートセンタ
デジタルカメラやインターネットの画像を加工したい .....	サポートセンタ

VALUESTAR

もっと知りたいパソコン



PC98-NX SERIES  
**VALUESTAR**

2版 2001年7月  
NEC  
P  
853-810336-012-A2